

リテ其目的順序ヲ施行スベキナリト、意嚮一タビ定マルヤ、本年七月本會會頭ニ對シテ通牒ヲ來セリ、其要ニ曰ク相協同シテ拜觀所ヲ建設シ、其經費豫算八千圓ヲ等分ノ負擔トセン、幸ニ同意ヲ得バ神宮司廳ノ贊同ヲ請ヒ、御物拜借ノ事等、主トシテ貴會ノ經紀ヲ煩ハサント欲スト。次デ古莊協贊會長、森事務長、神都ニ來リ、冷泉宮司、桑原少宮司及ビ本會幹事太田、滿岡、宇仁田等ト協議スルモノ數次、即チ先ヅ内議ヲ定メ之ヲ東京本部ニ稟議ス、花房會頭并ニ在京幹事皆此舉ヲ贊セザルハナシ、依テ其位置ヲ農業館前面ニ擬シ、御物貸下ヲ神宮司廳ニ申請ス、司廳之ヲ受ケテ内務省ニ稟議セリ。時ニ森事務長、桑原少宮司、滿岡幹事等、速ニ允許ヲ得ンコトヲ欲シ、相共ニ東上シテ同省ニ陳具稟請スル所アリト雖モ、省議儼然、御物ヲ宮域外ニ貸與スルヲ聽カズ、茲ニ於テ從來協商スル所ノ企畫、畫餅

ニ屬セントシ、滿岡理事先ヅ京ヲ辭ス、桑原少宮司、森事務長尙滯京シテ屢同省ニ交渉ス、省議稍動ク、蓋拜觀所ヲ建設シ之ヲ 神宮ニ獻納セバ、司廳自ラ之ガ監督ニ任ジテ御物ヲ陳列スベシ、此ノ如クンバ敢テ内務省ノ異議ナキ所ナリト。古莊會長此報ニ接シ、更ニ本會幹事太田、滿岡ニ謀ル、相議シテ曰ク位置ヲ倉田山ニトシ、建設ノ後直ニ 神宮ニ獻納スルモ、本會ノ主旨ニ背馳スルモノニ非ズト、商議茲ニ決シ八月二十日更ニ協贊會長ヨリ公然其通牒ヲ受ク、太田、滿岡兩幹事、之ヲ携ヘテ花房會頭ニ名古屋市ニ面議シ(當時御用ヲ負ヒ同市ニ出張中)協定條件ノ裁決ヲ得、越テ二十四日協贊會長ニ回答ヲ發スルニ至ル、拜觀所建設決定ノ顛末是ナリ、當時ノ通牒并ニ回答ノ文書左ノ如シ。

神宮ノ威靈ヲ發揚シ我國體ニ關シ敬虔ノ念ヲ中外ニ惹起セシムルノ一方トシテ、

神宮御奉藏ノ御寶物ヲ 神宮鎮座地ニ陳列シテ内外人民ノ拜觀ヲ容ルスハ最モ必要之義ト存候處右ハ貴會ニ於テ兼テ御計畫ノ次第モ有之趣ニ候得共畢竟同一ノ精神ニ外ナラザル義ト被存候ニ付テハ左掲ノ條件ヲ以テ本會ヘ御協同右御寶拜觀所ヲ建設シテ神宮司廳ヘ獻納シ、同廳ニ於テ内外人民ニ拜觀差許シ相成候様致度候條御承諾相成度此段及御協議候也

明治三十五年八月二十日

第五回内國勸業博覽會三重協贊會

會長 古莊 嘉門

神苑會會頭男爵 花房 義 質殿

協定條項

- 一 神苑會及協贊會協同シ、神苑會所有地倉田山ニ御神寶拜觀所并ニ附屬建物ヲ建築スルモノトス
- 二 前項建物ノ工費ハ凡ソ八千圓トシ、協贊會ニ於テ其半額ヲ負擔スルモノトス
- 三 敷地建物ハ凡テ竣功ト同時ニ神宮司廳ニ獻納スルモノトス
- 四 第五回内國勸業博覽會閉會後ハ引續キ篤志者ノ拜觀ヲ許サル、事

五 建物建築ノ設計工事ノ施行及監督ハ神苑會協贊會協議シテ行フモノトス

協贊會長ヨリ提出條件外協定

- 一 陳列館ニ連接スル道路ノ世話ハ縣廳ニ依頼スルコト
 - 一 陳列館其他建物ノ工費ハ、協贊會神苑會ニ於テ各金四千圓ヲ出シ竣成スルモ若シ工費ニ増減ヲ生ズルトキハ本文ノ例ニ依ルコト
 - 一 御神寶護衛ノ爲メ神宮司廳ノ協議ニ依リ神宮司廳補助金ノ内一個年金七百圓ヅ、神宮司廳ニ獻納スルコト
 - 一 道路開修費ハ取調中縣廳技師東武平也
 - 一 陳列館ノ建築ハ其設計及工事監督等ハ適當ノ技師ニ依頼スルコト
- 今般 神宮ノ威靈ヲ發揚セシムル爲メ、神宮御奉藏ノ撤下御物拜觀所ヲ本會倉田山ニ建設シ、内外人篤志者ノ拜觀ヲ容ルスノ義ニ付別紙案件ヲ掲ゲ御協議之趣了承右ハ本會當初ノ目的ニ於テ同一ノ精神ニ有之候間、御來意之通り更ニ差支無之候、此段及御回答候也

明治三十五年八月二十四日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

(右記述ノ撤下御物拜觀所ノ件ニ關シ、神宮司廳ハ九月一日内務省ニ稟議シ、越テ三
十六年一月ニ至リ許容セラル)

十月十一日、募集用件ニ關シ、滿岡幹事、及隨行員野田書記滋賀縣ニ
出張シ、十三日復命ス。

十一月十日、度會郡長岡耕三郎、任地ヲ轉シ川田茂通其後ヲ襲フ、本
會度會郡委員長爲ニ交迭ス。

曩ニ民法ノ成規ニ違由シ、本會組織ヲ財團法人ニ改メントスルノ
議アリ、嘗テ法學博士片岡靜輔ニ書類ノ起草ヲ托ス、稿成ルヤ、本年
六月之ヲ決行セントスルニ方リ、先ヅ調査ヲ評議員兼管財員飯田
巽ヘ委囑ス、爾來東京、三重ノ間協議審案スルコト數月遂ニ書類ヲ
調成ス、茲ニ至リテ花房會頭、周布副會頭、田中、太田、滿岡、宇仁田ノ各
幹事ヲ設立者トシ、十一月十日東京府廳ヲ經由シテ内務省ニ出願

ス。

同月二十三日、侯爵伊藤博文、神宮參拜ヲ了シ、賓日館ニ泊セラレ、
滿岡幹事出デ、接待シ、翌二十四日、三重事務所ニ迎フ、田中、太田ノ
兩幹事之ニ接シ、尋テ農業館ニ導キ、田中幹事特ニ列品ヲ説明ス。
十二月一日、外宮神苑擴張地土功竣ル。

此歲、内宮宮域ニ接續セル民有山林、其境界犬牙交錯、大ニ體面ヲ
損スル者反別二反三畝九步、此代金五百拾九圓九拾四錢ヲ買收シ
テ 神宮ニ奉獻ス、茲ニ至リテ宮域山林ノ區劃稍井然タルヲ得タ
リ。

神苑會史料

第八編

第八編

法人第一期

自明治三十六年一月
至三十八年十二月

明治三十六年一月一日、例ニ依リ新年祝賀式ヲ舉ゲ、内宮ニ於テ
大々神樂ヲ奉奏ス。

客年十一月十日出願ニ係ル財團法人ノ設立ヲ許可セラレ、本日ヲ
以テ法人即チ民法上ノ人格成立ス、其指令左ノ如シ。

東京市京橋區築地三丁目四番地

神苑會會頭男爵 花房 義質

客年十一月十日付申請神苑會財團法人設立ノ件

右民法第三十四條ニ依リ許可ス

但寄附行為條款第二十四條中官報又ハレノ四字削除スベシ

明治三十六年一月一日

第八編 法人第一期 明治三十六年

内務大臣 爵 内 海 忠 勝

右財團法人設立ニ關シ、制定シテ許可ヲ得タル本會設立趣意書及寄附行爲條款左ノ如シ。

財團法人神苑會設立趣意

神宮ハ則チ

天祖ノ神位ヲ奉祀セル靈場ニシテ、歷朝ノ厚ク尊重セラル、所億兆ノ深ク仰敬スル所ナリ、苟モ

皇國ニ生息スル者ハ、永ク其

神恩ヲ奉謝シ、益其

神德ヲ顯揚シ、國體ノ發揮ニ勉メザルベカラズ然ルニ輒近

神宮ノ實況ヲ拜觀スレバ、世ノ變遷ニ隨ヒ、宮域ハ次第ニ侵蝕セラレテ狹隘トナリ、民家ハ漸次ニ接近シテ蕪雜トナリ、雷ニ

神德ヲ汚瀆スルノ恐アルノミナラズ、火災ヲ發生スルノ憂アルニ至レリ、三重縣民深ク之ヲ感慨シ、宮域ノ規模ヲ恢弘スルノ目的ヲ以テ、明治十九年神苑會ヲ創設

シ、資金ヲ募リ勞力ヲ集メ、先其民家ヲ撤除清掃シテ神苑ヲ開成シ、漸次歴史徵古館ヲ建設シテ、茲ニ 神宮ニ緣由アル古器圖書類ヲ供置シ、傍ヲ新古ノ諸物ヲ配列シテ温古知新ニ益シ、又待客館ヲ設置シテ參拜者ニ便センコトヲ計畫セリ、之ヲ本會ノ起原トス然ルニ其舉タル大事業ニシテ一地方資力ノ克ク耐ル所ニアラザルヲ以テ、明治二十二年更ニ本會ノ根據ヲ東京ニ置き、熾仁親王殿下ヲ總裁ニ推戴スルノ幸榮ヲ荷ヒ、大ニ其規模ヲ擴張シテ 宮域ノ莊嚴ヲ整備シ、神都ノ隆盛ヲ保全センコトヲ期シ、全國民ノ力ニ藉テ其企圖ヲ遂ゲントセリ、爾來國民ノ之ヲ贊襄シテ資金ヲ義醜スル者多ク

帝室亦其舉ヲ嘉獎セラレテ補助金ヲ賜ヒ、既ニシテ神苑開成第一着功ヲ奏シ、之レヲ 神宮ニ奉獻シテ 宮域ノ外部ヲ濟了シ、又徵古館ノ一部タル農業館待客館ノ一部タル賓日館ヲ設置シテ、參拜者ニ補益ヲ與ヘタルコト少ナカラザリシ、爾來尙致々トシテ施設ニ勉ムルノ際、神宮司廳亦其舉ヲ贊シ三十個年間補助金ヲ下附スルヲ約スルニ至リ、本會ノ實務一層重キヲ加ヘタリ、於是乎本會ガ當初定メタル所ノ目的ヲ多少修更シテ、體制ヲ律正シ、民法ノ規定ニ遵ヒ本會ヲ財團法人トシ、其寄

附行為條款ヲ制定ス

神苑會寄附行為條款

第一款 目的及事業

第一條 本會ハ 神宮ノ神徳ヲ顯揚シ、國民忠愛ノ精神ヲ發揮スルノ趣旨ヲ以テ、
 其 宮域ノ規模ヲ恢弘シ莊嚴ヲ整備シ、且參拜者ノ便宜ヲ謀ルヲ以テ目的トス
 第二條 前條ノ目的ヲ達センガ爲メニ、本會ノ經營スル事業ハ、神宮司應ノ許諾ヲ
 得テ、内外兩宮苑ノ開成、其他 神宮ニ關係アル舊跡保存及徵古館等ヲ設置シテ
 神宮ニ奉獻スルニ在リ

第二款 名稱及事務所

第三條 本會ハ財團法人トシ神苑會ト稱ス

第四條 本會ノ事務所ヲ東京市麴町區飯田町五丁目八番地、三重縣度會郡宇治山
 田町大字豊川町百九十番地ニ置ク、東京市ニ在ルヲ本部即チ主タル事務所トシ、
 三重縣ニ在ルヲ支部事務所トス

第三款 會員

第五條 本會ノ目的ヲ翼賛シ、金拾圓以上ヲ寄附スル者ヲ正會員トシ、拾圓未満五
 圓以上ヲ寄附スル者ヲ贊助會員トシ、五圓未満ノ金額ヲ寄附スルモノハ奇特者
 トシテ其名ヲ存録スルニ止ム、但物件ヲ寄附スル者ハ其評價ヲ以テ定ム
 數人組合又ハ團體ヨリ寄附ヲ爲スモノハ、其組合又ハ團體ヲ以テ一個會員ト見
 做ス

會員寄附金ハ五個年以内ノ年賦ヲ以テ納ムルコトヲ得

寄附ノ金圓及物件ハ、如何ナル場合ニ於テモ、其返還ヲ要求スルコトヲ得ズ

第六條 金圓物件ノ寄附ナキモ、本會ノ爲メニ功勞アルモノハ推薦シテ特別會員
 トス

第七條 會員ニハ證認狀及證牌ヲ交付シテ會員タルヲ證ス、其證牌ハ寄附金額又
 ハ功勞ニ應ジテ段階ヲ立テ之ニ因テ待遇ヲ別ツ

本會ニ著シキ功績アル會員及金五百圓以上ヲ寄附セシ會員ハ有功證牌ヲ交付
 シテ之ヲ表彰ス

五圓未満壹圓以上ノ金額ヲ寄附セシ奇特者ハ、證認狀ノミヲ交付シテ其篤志ヲ

表シ壹圓未滿ノ金額寄附者ハ受領證ノミヲ交付ス

第八條 會員資格ハ其本人ニ止リ後嗣ニ及ボサズ

相續者ニ於テ繼續金トシテ金貳圓ヲ出ストキハ其會員資格ヲ繼承スルコトヲ得

第九條 本會ノ趣旨ニ反スルノ行爲アリシ會員ハ之ヲ除名シ隨テ其會員證牌ヲ返還セシム

第四款 總裁及職員

第十條 本會ハ 皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第十一條 本會ニ評議員十五名ヲ置キ重要事件ヲ議定ス

評議員ハ正會員中ニ就キ總裁之ヲ囑託ス

評議員ハ議事ヲ要スルコトアルトキ會頭招集シテ之ヲ開キ其議事ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第十二條 本會ニ理事七名ヲ置キ一切ノ會務施設執行ノ責任者トス
理事ハ評議員中ニ於テ互選シ總裁之ヲ委囑ス

第十三條 理事中ニ左ノ專務員ヲ定ム

會 頭 一 名

副 會 頭 一 名

專 務 理 事 二 名

會頭副會頭及專務理事ハ理事中ニ於テ互選シ何レモ總裁ノ認定ヲ待テ上任ス
會頭ハ本會ヲ代表シ一切ノ會務ヲ綜理シ評議員會ヲ開クトキハ其會長タルモノトス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

專務理事ハ各其專任常務ヲ掌理ス

第十四條 本會ニ監事三名ヲ置ク

監事ハ正會員中ニ就キ總裁之ヲ囑託ス

監事ハ總裁又ハ理事若クハ評議員會ニ對シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十五條 評議員理事監事ハ名譽職トシ其任期ハ評議員理事ハ五個年監事ハ三個年トス

但何レモ再任スルコトヲ得

補缺ノ選任ハ何レモ前任者ノ殘任期ニ止ム、缺員アルモ事務ニ差支ナキ限りハ改任期マデ其選任ヲ延期スルコトヲ得

第十六條 各地方ニ委員總長、委員副總長ヲ置キ、委員總長ハ其地方ニ係ル會務ヲ管理シ、副總長ハ總長ヲ佐ケ、總長事故アルトキハ代理ス

委員總長、委員副總長ハ名譽職トシ、總裁之ヲ囑託シ任期ヲ定メズ

第十七條 前各條ニ掲ゲタル職員ノ外會務ヲ處分スル爲メ必要ノ役員、委員等ヲ置キ、總裁又ハ會頭之ヲ囑託ス

第五款 資産會計

第十八條 本會ノ資産ハ左ノ如シ

帝室ノ恩賜金

神宮司廳ノ補助金

寄附金

事業所得及現在資金ヨリ生ズル收益

本會ノ有ニ屬スル動産、不動産

第十九條 本會ノ事務費及事業ニ要スル經費ハ、前條ノ資産中ヨリ之ヲ支出ス

第二十條 本會ノ會計ハ、毎年度豫算書ヲ作りテ評議員ノ議決、總裁ノ認定ヲ仰ギ、之ニ依リテ理事出納ヲ執行シ、年度經過ノ後、決算書ヲ作り評議員會ノ査閲、總裁ノ認可ヲ得テ當任者ノ責任ヲ解除スルモノトス

第六款 通則

第二十一條 寄附行爲條款ノ變更ハ、評議員全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得、總裁ノ認定ヲ仰デ之ヲ決シ、主務官廳ノ認可ヲ得テ其效力ヲ生ズ

第二十二條 本會ノ存立其期限ヲ定メズ之ヲ解散セントスル議決ハ、前條ニ由ル

第二十三條 本會ノ業務會計ハ、曆年ヲ以テ一年度トス

第二十四條 本會ハ、毎年度會務成績、會計決算ノ大要ヲ新聞紙ニ掲ゲテ會員ニ報告ス

第二十五條 會務經理ニ必要ナル規則ハ、評議員會ノ議決、總裁ノ認可ヲ仰デ之ヲ定メ、細則ハ理事之ヲ定ム

附則

第二十六條 本會寄附行為條款ノ制定ハ現在ノ神苑會職員設立者トナリテ之ヲ作ルモノトス

第二十七條 現在神苑會ノ會員贊助員ハ之ヲ本會會員トシテ繼承シ又同會ノ權利義務資産ハ本會ニ繼承ス

第二十八條 現在ノ資産中ニ在ル農業館ハ則チ徵古館ノ一部ナルヲ以テ同館ノ完成ヲ待チ併セテ之ヲ處分スルモノトス

第二十二條ニ依リ本會ヲ解散スル場合ニ於テ殘存ノ資産アルトキハ總テ神宮ニ奉獻シテ其局ヲ結ブモノトス

第二十九條 本條款ハ明治三十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右財團法人成立セルヲ以テ、東京事務所ヲ本部ト稱シ、三重事務所ヲ支部ト稱ス。

二日、外宮ニ於テ大々神樂ヲ奉奏ス。

三日、財團法人成立セルヲ以テ、元總裁大勳位有栖川威仁親王殿

下ヲ更ニ總裁ニ奉戴シ、寄附行為條款ニ基キ評議員及監事ノ選定ヲ總裁殿下ニ仰グ、其選定囑託セラレタル者左ノ如シ。

評議員

正二位伯爵 土方 久元	從二位伯爵 冷泉 爲紀
正三位男爵 花房 義質	從三位 周布 公平
從三位 田中 芳男	從三位 小松原 英太郎
從三位 山崎 直胤	正四位 田邊 輝實
從四位 古莊 嘉門	從四位 飯田 巽
正五位 斯波 淳太郎	從五位 桑原 芳樹
從六位 滿岡 勇之助	正七位 安江 孝
從六位 太田 小三郎	

監事

正六位 馬場 三郎	正七位 波多野 行執
宇仁田 宗馨	

七日、評議員十五名中ヨリ七名ノ理事ヲ選舉シ、總裁殿下ノ裁定ヲ請フ、其委囑セラレタル者左ノ如シ。

理事	評議員	花房 義質	同	周布 公平
	同	田中 芳男	同	飯田 巽
	同	桑原 芳樹	同	滿岡勇之助
	同	太田 小三郎		

右理事ハ更ニ會頭ヲ花房理事ニ、副會頭ヲ周布理事ニ、本部專務理事ヲ飯田巽ニ、支部專務理事ヲ滿岡勇之助ニ選定シ、總裁殿下ノ認定ヲ受ク。茲ニ於テ會頭ハ事務員及書記以下ノ役員ニ對シ、更ニ辭令書ヲ用キズ、各其職ヲ繼續スベキ旨ヲ命ズ。

從來、田中幹事ニ農業館主管ヲ委囑セラレタルモ、法人成立ト共ニ幹事ノ職名廢滅セルヲ以テ、更ニ理事ノ資格ヲ以テ、田中芳男ニ同

館監督ヲ囑託セララル。

八日、田中理事、支部ニ至リ、農業館整理、并ニ神苑擴張地造苑監視ノ爲メ滞在ス。當時既ニ苑地擴張ノ土功ヲ竣フト雖モ、未ダ樹木ノ栽植ヲ完了セザルモノアリ。

十二日、財團法人設立ノ順序ヲ了セシヲ以テ、本部ハ書記有住教忠ヲ理事七名ノ代理人トシ、東京區裁判所ニ、支部ハ事務委員玉井脩眞ヲ代理人トシ、山田區裁判所ニ、各登記ヲ申請シ了ル。其書類并ニ添附書類左ノ如シ。

財團法人設立登記申請

東京市麴町區飯田町五丁目八番地

申請人 神苑會

理事 男 花房 義質

同 周布 公平

- 一 登記ノ目的 財團法人設立
- 一 登記ノ事由 明治三十六年一月一日附内務大臣ヨリ法人設立許可アリタルニ由ル
- 一 登記事項
 - 支部ハ 三重縣度會郡宇治山田町大字岩淵町四十二番屋敷
 - 右代理人 有住 教忠
 - 東京市牛込區南板町六十九番地
 - 同 田中 芳男
 - 同 飯 田 巽
 - 同 桑 原 芳樹
 - 同 滿岡 勇之助
 - 同 太田 小三郎
 - 玉井 脩真

一 目的

神宮ノ神徳ヲ顯揚シ國民忠愛ノ精神ヲ發揮スルノ趣意ヲ以テ其宮域ノ規模ヲ恢弘シ莊嚴ヲ整理シ且參拜者ノ便宜ヲ謀ルニ在リ

二 名稱

神苑會ト稱ス

三 事務所

本部ヲ東京市麴町區飯田町五丁目八番地ニ置キ支部ヲ三重縣度會郡宇治山田町大字豊川町百九十番地ニ置ク

四 設立許可ノ年月日

明治三十六年一月一日

五 存立期限

無期

六 資産ノ總額

金拾壹萬千參百六拾壹圓五拾參錢九厘

七 出資ノ方法

帝室ノ下賜金、神宮司廳ヨリ下附ノ補助金、并ニ有志者ノ寄附金ヲ以テ資金トス

八 理事ノ氏名

(前記七名列記上ニ住所ヲ記ス)

一 登録税 金五圓 (支部ハ金五拾錢)

右登記相成度此段申請候也

添附書類

- 一 内務省許可書 一通
- 一 寄附行為條款 一通
- 一 理事ノ資格證明書 一通
- 一 印鑑 七枚
- 一 委任狀 一通

明治三十六年一月十二日

右 有住 教忠
(支部) 玉井 脩真

東京區裁判所御中 (支部ハ山田區裁判所宛)

登記濟證

登記簿ノ種類

法人登記簿

登記番號

第六十八號

登記ノ件名

神苑會設立ノ登記

申請人ノ氏名住所

東京市京橋區築地三丁目四番地

花房 義 質

外六人

登記ノ年月日 明治三十六年一月十二日

右登記濟ナルコトヲ證ス

明治三十六年一月十二日

東京區裁判所

十三日、法人設立第一回ノ評議員會ヲ本部ニ開キ左ノ議題ヲ評議

ス、其出席者花房會頭、周布副會頭、田中、山崎、田邊、飯田、斯波、安江ノ六評議員トス。

議題

- (一) 經理規則、會員證牌及待遇規則、贈給規則、農業館規則、賓日館規則、并ニ職務權限ヲ定ムル事
- (二) 農業館、賓日館、觀覽券料特別割引内則ヲ定ムル事
- (三) 會有ト爲シ得ベキ有價證券種類豫定ノ事
- (四) 專務理事報酬額ヲ定ムル事

右議題ヲ決了シ、總裁殿下ノ認定ヲ得テ之ヲ施行ス、茲ニ至リテ創立以來定ムル所ノ例規悉ク革新セララル。

神苑會經理規則

第一款 法則制限

第一條 本會ノ法則ハ寄附行爲條款、諸規則、諸細則ノ三段トシ、其寄附行爲條款ハ

政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定メ、諸規則ハ評議員會ノ議決、總裁ノ認可ヲ仰ギテ之ヲ定メ、諸細則ハ理事協議シ會頭之ヲ決定スルモノトス、之ヲ變更スルトキモ亦同シ

第二款 行務管理

第二條 本會ハ東京事務所ヲ本部トシテ會務ヲ總轄シ、三重事務所ヲ支部トシテ其所管ニ屬スル會務及事業ノ實施ヲ管理シ、又各地方ニ委員部ヲ置キ、地方ニ係ル會員募集、寄附金徵收、其他臨時ノ會務ヲ處辨ス

第三款 行務役員

第三條 寄附行爲條款ニ定メタル外、東京、三重兩事務所ニ左ノ役員ヲ置ク

事務委員 二名(東京、三重兩事務所ニ各一名、但便宜ニ依リ缺クコトアルベシ)

命ヲ理事ニ承ケ會務ヲ處理ス

書記 六名(東京ニ二名、三重ニ四名)

命ヲ理事ニ承ケ會務ニ從事ス

管守 二名

命ヲ理事ニ承ケ、農業館又ハ賓日館ヲ管守ス

備事務員

若干名(東京三重使)

守衛

若干名

備員

若干名

守衛又ハ備員ハ、農業館、賓日館及陳列物品ノ守衛又ハ工場ノ番衛等ニ從事ス

事務員ハ會頭ノ推薦ニ依リテ總裁之ヲ囑託シ、書記以下ハ會頭之ヲ命ズ

第四條 會務處辨ノ便宜ニ因リ別ニ贊助委員ヲ置キ、又事業經營ニ就テハ專門ノ

技術者ヲ囑託員トシ、又ハ技手ヲ置クコトアルベシ、其贊助委員、囑託員ハ會頭ノ

推薦ニ依リ、總裁之ヲ囑託シ、技手ハ會頭之ヲ命ズ

第五條 各地方委員部ニハ、寄附行爲定款ニ定メタル正副委員總長ノ下ニ左ノ委

員ヲ置ク

廳府縣委員 (廳府縣名ヲ冠ス)

委員總長ノ指示ヲ承ケ、其地方ノ會務ヲ處理ス

廳府縣委員補 (廳府縣名ヲ冠ス)

委員總長又ハ廳府縣委員ノ指示ヲ承ケ、其地方ノ會務ニ從事ス

郡市區委員長 (郡市區名ヲ冠ス)

委員總長ノ指示ヲ承ケ、部内ノ會務ニ處理ス

郡市區委員 (郡市區名ヲ冠ス)

郡市區委員長ノ指示ヲ承ケ、其部内ノ會務ニ從事ス

郡市區委員補 (郡市區名ヲ冠ス)

任務、郡市區委員ニ亞グ

廳府縣委員及郡市區委員長ハ委員總長ノ推薦ニ依リ、總裁之ヲ囑託シ、廳府縣委員補及郡市區委員委員補ハ委員總長ノ推薦ニ依リ、會頭之ヲ囑託ス

第四款 會計

第六條 會計ハ賜金、神宮司應補助金、寄附金、事業收入、事務所收入、資財收入、雜收等

ヲ以テ歲入トシ、借入金アルトキハ之ヲ加フ、冥供費、興業費、事業維持費、事務所費、

會員募集費、雜出等ヲ以テ歲出トシ、借入金返却アルトキハ之ヲ加フ、而シテ準備

金ヲ置キ、過剩アルトキハ之ニ加ヘ、不足スルトキハ之ヲ以テ補ヒ、經濟ヲ調理ス

第七條 地方委員部ニ於テ要スル經費(委員委員補ノ慰勞銀行取扱手数料送)ニ充用スル爲メ、各其取扱フ寄附金收入額ノ一割ヲ以テ交付切トシ、其支拂勘定ヲ問ハズ委員總長ニ委任スルモノトス

第八條 會計ハ本部及支部ニ計算簿、出納簿ヲ置キ、各其執行スル所ノ收支金ヲ計算シ、而シテ日記原簿ヲ本部ニ置テ其支部ノ收支ヲ括算ス、但日記原簿ハ略法ヲ以テ月括記載スルコトヲ得

第九條 總轄會計ハ貸借科目ヲ定メ、本支部收支科目ヲ定メテ計理ス、其貸借科目ハ款ヲ以テ種別シ、而シテ經濟上分計スルノ必要アルモノハ款中ニ項ヲ分ツ、收支科目ハ貸借科目ニ聯絡シ、項ヲ以テ類別シ、而シテ計理上分計スルノ必要アルモノハ項中ニ目ヲ分ツ

第十條 歳入出ノ剩餘金アルトキハ準備金ニ加ヘ、繰越ヲ爲サ、例トスト雖モ、事業費ノ如キ其年度豫算ヲ決シタル者其年度内ニ結了シ難キ場合ハ、其實支出額ヲ以テ打切決算シ、其豫算殘額ヲ繰越シニ立テ次年度ニ繼用スルコトヲ得

第十一條 收入ニ先チ支出アリテ充用金ニ差支アルトキハ、一時融通借ヲ爲シテ支辨スルコトヲ得、但此借入ハ必ズ其年度内ニ於テ返戻スベキモノトス

第十二條 收入金事故アリテ直ニ本納ニ立ツル能ハザルモノハ、假納ニ立ツルコトヲ得

第十三條 事業經營ノ便宜ニ依テハ、特ニ評議員會ノ議決ヲ得會有ノ資産若クハ後ノ收入金ヲ擔保ニ供シテ、他ヨリ借入金ヲ爲スコトヲ得

第十四條 神宮司應補助金ニ係ル經濟ハ、特ニ同應ノ監督アルヲ以テ、事業計畫ノ際其設計及要費豫算書ヲ提出シテ承認ヲ受クルモノトス

第十五條 毎年度豫算調了期、出納閉鎖期、決算整了期ヲ左ノ如ク定ム

本部

豫算調了期 前年十一月三十日

出納閉鎖期 翌年二月末日

決算整了期 翌年三月三十一日

支部

豫算調了期 前年十一月十五日

出納閉鎖期 翌年一月三十一日

決算整了期 翌年二月末日

第十六條 現在金ハ總テ銀行ニ預ケ入レ、事務所ニ存置セザルモノトス、但小拂用意金ハ其員額ヲ限定シテ、事務委員若クハ書記ニ保管セシムルコトヲ得、現在金ハ經濟ノ便宜ニ依リ、有價證券ニ換置シテ利殖スルコトヲ得

第五款 雜則

第十七條 會員ノ名籍及寄附金額ヲ明ニスル爲メ、臺帳ヲ備ヘ、又寄附金五圓未満奇特者ノ名籍及寄附金額ヲ明カニスル爲メ、名簿ヲ備ヘテ之ヲ登錄ス、其帳簿ハ調査及待遇ノ便ニ供スル爲メ、東京、三重兩事務所ニ交モ之ヲ置ク

第十八條 本會ニ會印ヲ備ヘ置テ重要文書ニ鈐シ、又事務所印及會頭、副會頭、理事、監事ノ職印ヲ備ヘ置キ、文書ノ種類ニ應ジテ之ヲ押捺ス

第十九條 凡ソ他ニ發スル文書ハ、重事ハ、會頭又ハ代理副會頭ノ名ヲ以テス、輕事ハ種類ニ應ジ事務理事名、又ハ會名、事務所名ヲ以テスルコトヲ得

第二十條 毎年度ノ終リニ於テ財産目錄ヲ作り、又會務經歷ヲ敍シテ成績書ヲ調製ス

財産目錄、會務成績、會計決算ハ、寄附行爲條款第二十四條ノ規定ニ依テ會員ニ報告シ、又其書類ヲ事務所ニ備ヘ置キ、會員ノ請求ニ應ジ之ヲ縦覽セシム

神苑會會員證牌及待遇規則

第一款 會員證牌

第一條 本會會員證牌ノ形式ハ、徑五分八厘ノ八稜鏡形ニシテ、正會員ハ白銅鍍銀製、贊助會員ハ黃銅製トシ、何レモ之ニ紐總ヲ附ス

第二條 會員證牌ハ寄附金額ニ應ジテ段階ヲ立、紐總ノ色目ヲ以テ之ヲ種別ス、即チ寄附金額百圓以上ハ黃色、百圓未満五拾圓以上ハ紫色、五拾圓未満參拾圓以上ハ紅紫色、參拾圓未満拾圓以上ハ紅色、拾圓未満五圓以上ノ贊助員ハ綠色トス、特別會員證牌ハ其功勞ノ程度ニ應ジ、段階ヲ立テ種別ス、其證牌ハ表面ニ特ノ一字ヲ刻ス

第三條 會員證牌ハ、寄附金ヲ納了セシトキニ於テ、證認狀ト共ニ之ヲ交付ス

年賦ヲ以テ寄附金ヲ爲スモノハ其寄附申込ノ際初年分ヲ納メ其餘ハ年割額ヲ
 毎年六月ニ於テ納ムベキモノトス就テハ會員證牌ハ初年分ヲ納了セシトキ申
 込ノ金額ニ依リ資格ヲ定メテ之ヲ交付ス若シ其會員ニシテ其約ヲ果サズ年賦
 期ヲ經過スルモ皆納セザルトキハ現ニ納了セシ金額ニ應ジテ會員資格ヲ改メ、
 隨テ證牌ヲ交換ス(證牌ノ交換チ意レモノハ其證牌ヲ所持スルニ
 拘ラズ本會ハ改正ノ資格ヲ以テ之ヲ待遇ス)
 其現納額五圓ニ滿タズシテ終ルモノハ會員ヲ除キ隨テ其證牌ヲ返還セシム(證
 返還チ意レモノハ其證牌ヲ所
 持スルモ本會ハ之ヲ無効トス)

第四條 會員再度寄附金ヲ爲シ前後合算シテ第二條ノ資格ニ異動ヲ及ボストキ
 ハ更ニ相當段階ノ證牌ヲ以テ前ノ證牌ト交換ス

五圓未滿ノ金額ヲ寄附セシ奇特者再度寄附金ヲナシ前後合算シテ五圓以上ニ
 達スルトキハ相當段階ノ會員證牌ヲ交付ス

第五條 數人組合又ハ團體ヨリ寄附ヲ爲ストキハ一個ノ會員ト見做シ一箇ノ證
 牌ヲ交付ス分裂シテ數箇ノ證牌ヲ交付スルコトヲ得ズ

第六條 本會ノ創業ニ功績アリシ會員ニハ證牌面ニ敗ノ一字ヲ刻シタル有功證

牌ヲ交付ス其他本會ニ顯著ノ功績アル會員ニハ特殊ノ有功證牌ヲ贈附シ何レ
 モ其功績ヲ表彰ス金五百圓以上ヲ寄附シ其納付了セシ會員モ亦有功證牌ヲ
 贈付スルモノトス

第七條 會員證牌ハ神宮參拜又ハ會事ノ式席若クハ會員ヲ證スル必要アル場
 合ニ於テ佩用スルモノトス

會員證牌ハ左肋部ニ佩用スルモノトス
 會員證牌ハ朝儀公會場等ニ於テハ佩用スルコトヲ得ズ

第八條 會員證牌佩用ハ其會員一身ニ止マリ家族又ハ相續人ニ及ボスコトヲ得
 ズト雖モ其證牌ハ本人死亡スルモ返還ヲ要セズ紀念ノ爲メ保存スルコトヲ得
 但相續人ニ於テ繼續金貳圓ヲ出ストキハ先代ノ證牌ヲ佩用スルコトヲ得但其
 場合ニ於テハ別ニ證認狀ヲ交付ス
 寄附金年賦納付ヲ約シタル會員皆納セザル間ニ死亡シ相續人繼承シテ其約ヲ
 果ストキハ相續人會員トナリテ其先代ノ證牌ヲ佩用スルコトヲ得

第九條 會員證牌ハ他人ニ讓與又ハ貸付スベカラザルモノトス

第十條 會員證牌ヲ亡失セシ者其證ヲ舉テ再交付ヲ乞ヒ又破損セシモノ其損牌ヲ携ヘテ引換ヲ乞フトキハ本會ハ料金ヲ收メテ再交付又ハ引換交付スベシ

第二款 會員待遇

第十一條 本會ハ之ヲ存續スル限リハ第十二條以下ノ規定ニ依テ會員ヲ待遇スル數人組合又ハ團體ヲ以テ會員トナリタルモノハ其中ノ誰タルヲ問ハズ證牌ヲ所持スル者ヲ代表者トシテ待遇ス

第十二條 正會員ニシテ家族親戚朋友ヲ同伴參宮スルトキハ左ノ制限ニ依リ本人ニ準ジテ待遇ス

有功證牌佩用者

十五名限

黃紐總證牌佩用者

十二名

紫紐總證牌佩用者

八名限

紅紫紐總證牌佩用者

五名限

紅紐總證牌佩用者

三名限

第十三條 會員ハ神宮撤下ノ神寶ヲ拜觀スルコトヲ得但其場合ハ會員證牌又ハ

三重事務所ノ證明書ヲ携帶スルヲ要ス

第十四條 本會ハ國家ノ隆盛ト會員及奇特者ノ安全ヲ祈ル爲メ毎年一月(前日午二日午)ニ於テ大々神樂ヲ奉納ス其席ニハ會員及奇特者ノ參列隨意トス

第十五條 正會員ハ參宮スル時其本人ニ限リ左ニ掲グル各驛ヨリ山田驛迄ノ鐵道ニ割引往復切符ヲ購求シテ乘車スルコトヲ得(一等二等三等トモ割引スルコトヲ得其有效期限ハ發賣ノ日ヨリ五日)

草津	三雲	彦根	高宮	愛知川	八日市
日野	水口	深川	湊町	網島	大佛
上野	柘植	關	龜山	名古屋	愛知
彌富	桑名	四日市	津	松坂	

割引切符ヲ購求スル者ハ必ズ會員證牌ト勘合證トヲ其驛場ニ提示スルヲ要ス(證牌ヲ提示セザレバ勘合證ハ無効トナルベシ)其勘合證ハ出途ノ際豫メ東京又ハ三重ノ事務所若クハ其會員居住ノ地方ニ在ル本會委員部(道府縣又ハ郡市區役所内)ノ内ニ請求シテ受取宿所氏名月日等ヲ墨書スルヲ要ス

第十六條 會員及奇特者ハ總テ本會農業館、賓日館ニ至リ無料縦覽スルコトヲ得、但其場合ハ會員證牌又ハ證認狀ヲ提示スルヲ要ス

第十七條 會員ハ總テ二見浦賓日館ニ至リ席料ヲ要セズシテ休憩シ、又豫定アル日限内宿泊スルコトヲ得、(宿泊制限ハ有效證牌佩用者七泊、黃紐證牌佩用者四泊、紅紐證牌佩用者六泊、紫紐證牌佩用者三泊、綠紐證牌佩用者二泊トシ、食料ハ自費)其場合ハ同館規則ニ遵フコトヲ要ス、奇特者ハ休憩スルヲ得ルモ、宿泊スルコトヲ得ズ

館席充滿若クハ他ノ差支アルトキハ、何レモ休泊ヲ謝絶ス

第十八條 會員ハ參宮ノ時、本會三重事務所へ申出アルニ於テハ、勉メテ便宜ヲ與フベシ

神苑會贈給規則

第一條 名譽職員、公用ノ爲メニ要スル經費ハ之ヲ支辨シ、又其任務ノ實況ニ依リ、報酬慰勞金品ヲ贈與スルコトアルベシ

第二條 役員ノ給料ヲ定ムルコト左ノ如シ
事務委員 月給參拾圓以內貳拾圓以上

書記 月給貳拾五圓以內拾圓以上
管 守 月給貳拾五圓以內拾圓以上
備事務員 月給拾五圓以內七圓以上
守 衛 月給拾貳圓以內六圓以上
備 員 月給拾貳圓以內六圓以上
小 使 月給拾圓以內五圓以上

備事務員、守衛、備員及小使ハ月額ヲ標準トシテ日給トスルコトヲ得、又小使ハ他ノ會團ト共同使役シ給料ヲ定メズ適宜ノ手當ヲ給與スルコトヲ得

第三條 給料支給例左ノ如シ

一 新任昇給ノ者ハ其翌日ヨリ日割ヲ以テ支給ス
二 退職又ハ死亡ノ者ハ其當時給與スル給料全月分ヲ支給ス
三 退職ノ者ハ事務引繼殘務調理ヲ命ジ、其事務ニ從事セシムルトキハ、其間尙從前ノ給料ヲ支給ス

四 病氣ノ爲メ缺勤六十日ヲ超ル者及私事ノ故障ニ由リ缺勤二十日ヲ超ル者

- ハ給料ノ半額ヲ減ズ、但會務ノ爲メ傷疾疾病ニ罹リタル者、又ハ忌引中ノ者若クハ法令ノ結果ニ依ル缺勤ハ支給スルモ、他ノ缺勤ハ總テ支給セズ。
- 五 日給者ハ休暇忌引及會務ノ爲メ傷疾疾病ニ罹リ、若クハ法令ノ結果ニ依ル缺勤ハ支給スルモ、他ノ缺勤ハ總テ支給セズ。
- 六 月給ノ交付ハ毎月二十六日ヲ以テ定日トス(休日ニ當ルトキハ概上)
- 但定日、旅行中ニ當ルトキハ、出發ノ際繰上交付スルコトヲ得
- 七 日給ハ毎月二十五日ヲ以テ打切計算シ、二十八日ヲ交付ノ定日トス(休日ニ當ルトキハ概上)
- 但十二月ハ末日迄ヲ合セテ支給スルモノトス
- 第四條 在職滿一個年以上ニシテ退職又ハ死亡シタル者ハ、給料半個月分ヲ以テ在職一個年ニ當テ、其ノ年數ニ應ズル金額ヲ給與ス
- 但不都合ノ所爲アリテ罷免セシ者ハ給與セズ
- 第五條 職務ノ爲メニ傷疾ヲ受ケ疾病ニ罹リ、又ハ死亡セシ者ニハ、臨時手當ヲ給與スルコトアルベシ
- 第六條 會務ニ依リ旅行スル職員ニハ左表ノ定額ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅費等級	職員	汽車(一哩又一汽船賃) 定率	車馬賃 一里 定率	宿泊料 一夜 定率	日當 一日 定率
一等	會頭、副會頭	六錢	貳拾六錢	壹圓九拾錢	壹圓六拾錢
二等	評議員、理事、監事、 縣府縣委員、總長	五錢	貳拾四錢	壹圓六拾錢	壹圓參拾錢
三等	縣府縣委員、副總長、事務委員、 贊助委員、囑託員、縣府縣委員、 郡市區委員	四錢	貳拾貳錢	壹圓參拾錢	壹圓
四等	書記、技手、警守、月給拾貳圓 以上事務員、縣府縣委員補、 郡市區委員、委員補	參錢	貳拾錢	壹圓	七拾錢
五等	月給拾貳圓未滿事務員、守衛、 傭員	參錢	拾八錢	八拾錢	五拾錢
六等	小使	貳錢	拾六錢	六拾錢	參拾錢

第七條 各地方委員部ニ於テ、其府縣管内ニ出張スル旅費ハ、汽車、汽船賃、車馬賃ハ實費ヲ支給シ、宿泊料日當ハ二割ヲ減ズルモノトス

第八條 旅費支給例左ノ如シ

- 一 汽車賃ハ哩數、汽船賃ハ哩數、車馬賃ハ里數、宿泊料ハ夜數、日當ハ日數ニ應ジ

テ之ヲ支給ス、但汽車、汽船、車馬賃ハ各經過セシ路程ヲ合算シテ支給シ、一位未滿ハ切捨トス

二 發着地ノ起點ハ停車場、波止場又ハ里程元標ヲ以テシ、一市區町村内ノ往返又ハ滯留中乗用ノ車馬賃ハ支給スル限ニアラズ

三 凡テ路程ハ郵便線路圖其他確實ナル哩表、海里表ニ據リ、其圖表ニナキ線路ハ公廳又ハ運輸營業會社ノ證明ニ據ル

四 強風積雪又ハ道路險惡ノ爲メ、定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ、其證左アルニ於テハ、定額ノ二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

五 旅行中、川留雪支等ノ爲メ、滯留シ、又ハ他道ヲ迂回シ若クハ傷疾、疾病、船待等ノ爲メ、滯留シタルトキハ公廳又ハ運輸營業會社ノ證明書、又ハ醫師ノ診斷書ヲ提出スルニ於テハ旅費ヲ支給ス

六 上職隨行、其他旅行ノ性質、又ハ地方ノ情況ニ依リ、定額ノ汽車賃、汽船賃、車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ、實費ヲ支給スルコトヲ得、其場合ニ於テハ事實ノ證明ヲ要ス

七 陸路六里未滿、汽車十里未滿、汽船十里未滿(何レモ往)ノ旅行ニハ日當ヲ支給セズ、但會用ノ爲メ、宿泊ヲ要スルトキハ、日當宿泊料ヲ支給ス

八 旅行中、私事ノ爲メ許可ヲ得テ滯在、又ハ迂路ヲ通過スルトキハ、之ニ係ル旅費ヲ支給セズ、順路ノ旅費ノミヲ支給ス、其場合ニ於テ支給スベキ旅費計算方ハ、汽車ハ一日二百哩、汽船ハ一日百哩、陸路ハ一日十二里トス、但數種ノ旅行相跨ルトキハ、各其路程ノ十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ、一日ノ旅行ヲ十二時間トシ、通算上ヨリ生ズル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ計算ス

九 年度若クハ日ニ依リ、旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ、汽車旅行若クハ水路旅行ニシテ、其區分判明ナラザルトキハ、最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ、其路程ヲ區分シテ計算ス

十 旅費ハ出發ノ際概算ヲ以テ交付シ、歸着ノ後精算書ヲ徴シ、過不足アラバ之ヲ收支ス

第九條 職員外ノ者ニ會用ヲ囑託シ旅行セシムルトキハ、其用務ニ應ジ準據スベキ資格ヲ定メテ支給ス

第十條 東京市内、宇治山田町内ニ於テ、役員會用ニテ出張スルトキハ、其用務ニ由リ乘車實費ヲ支給ス、又旅行先滯留中、其市町村内ヲ會用ニテ奔走スルトキハ、乘車實費ヲ支給スルコトアルベシ

第十一條 職務繁劇ノ爲メ、執務午後六時ヲ過グルトキハ、贊助委員、囑託員等ニハ辨當ヲ給シ、事務委員以下及助手ニハ、辨當料ヲ給シ、夜業十二時ヲ過グルトキハ又之ヲ給ス、宿直ノ者ハ其夕及翌朝ノ辨當料ヲ給シ、翌日十二時ヲ過グルマデ居殘勤務スル者ニハ又之ヲ給ス、其辨當一度分ノ料額ハ、辨當ノ代價凡ソ貳拾錢トシ、辨當料ハ事務委員ハ拾五錢、書記、技手、管守、備事務員ハ拾貳錢、守衛、備員ハ拾錢、小使ハ七錢トシ、一個月分ヲ取束ネ支給ス

第十二條 旅費ヲ支給スベキ限外ニ在テ、近傍各地ヘ派出シ、長時間ヲ要スルトキハ、前條ノ定額ニ由リ、正午十二時及前條ノ時刻ニ於テ辨當料ヲ給ス

第十三條 非常災變アルトキ豫防ニ盡力スル者、又ハ馳付人夫等ニハ、其時間ニ應ジ焚出辨當ヲ支給スルコトヲ得

神苑會農業館規則

第一條 凡ソ本館ニ陳列スル物品ハ、農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類ノ產物并製品及各種ノ標本、模型、圖畫、統計等トス

第二條 本館ハ公衆ノ來觀ニ供ス

第三條 凡ソ本館ニ物品ヲ寄贈シ、若クハ出陳セント欲スルモノハ、豫メ本館ノ承諾ヲ受ベシ、但嵩高若クハ重量ノ物品、又ハ其資質ニ依リ特ニ謝絶スルコトアルベシ

第四條 前條ノ物品、荷造運搬ニ係ル費用支辨ハ、本會ト出品人ト協議ノ上之ヲ定ム

第五條 第三條ノ物品ニハ、品主ノ廳府縣國郡町村氏名物名、員數ヲ記シ、且ツ成ルベク詳細ナル説明書ヲ添附スベシ

第六條 出品ハ本館ニ於テ保護スベシト雖モ、運搬中破損ニ係ルモノ及不慮ノ災害ハ本館其責ニ任ゼズ

第七條 本館ハ常時開館ス、其時限左ノ如シ
但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

自四月一日至九月三十日午前八時開館午後五時閉館

自十月一日至三月三十一日午前八時開館午後四時閉館

第八條 觀覽人ハ觀覽券ヲ携フベシ其觀覽券料ハ參錢トス但十五歲未滿七歲以上ハ半減七歲未滿ハ無料トス

第九條 本會會員及五圓未滿ノ金額ヲ寄附セシ奇特者客員等ニシテ其證ヲ携帶スルトキニ限り觀覽券ヲ要セズ

學校教員生徒學術上研究ノ爲メ觀覽ヲ乞フトキハ其學校ノ制服ヲ着用セシ者又ハ其學校ノ證明書ヲ携來スル者ニ限り觀覽券ヲ要セズ

第十條 白痴瘋癲爛醉者及傳染病アリト認ムルモノハ觀覽ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十一條 觀覽人ノ携帶物若シ陳列品ニ障害アリト認ムルトキハ之ヲ制止スルコトアルベシ

第十二條 館内ニ於テ禁止スベキ條件左ノ如シ

喫煙スル事、物品ニ手ヲ觸ル、事、動物ヲ牽入ル、事、喧噪奔馳其他遊戯個

間敷事

第十三條 物品ヲ手ニ取り若クハ試用セント欲スル者ハ本館ノ承諾ヲ請フベシ

第十四條 觀覽者誤テ物品ヲ毀損スルトキハ相當代價ヲ辨償セシム但物品全ク破損シ全部ノ償金ヲ辨納セシムルモ毀損品ハ本館ニ留ム

第十五條 陳列品ハ凡テ賣買セザルモノトス

第十六條 本館ノ主旨ヲ擴張スル爲メ殖産興業ニ裨益アル工業上ノ物品ヲ附屬館内ニ陳列ス

神苑會賓日館規則

第一款 本館ノ目的

第一條 本館ハ 神宮并ニ 帝室若クハ 皇族方ノ御用ニ供シ尙左ニ掲グル各員ノ休憩又ハ宿泊席ニ充用ス

一 會員

二 金五圓未滿壹圓以上ノ寄附ヲ爲セシ奇特者

三 本會ノ招待スル客員

第二條 本館ハ便宜ニ依リ、當分館内ニ徵古ノ物品ヲ陳列シ衆人ノ觀覽ニ供ス

第二款 休泊待遇

第三條 本館ニ休泊セントスル會員ハ證牌ヲ、奇特者ハ證認狀ヲ、客員ハ三重事務所ニ於テ交付スル案内狀ヲ携帯スルヲ要ス

第四條 會員及客員ハ、席料ヲ要セズシテ休憩宿泊セシム、奇特者ハ席料ヲ要セズシテ休憩セシムルモ、宿泊セシメザルモノトス、若シ宿泊ヲ欲スルニ於テハ、第六條ニ準ジテ館席使用料ヲ收受ス

右休憩宿泊者ニハ一定ノ茶菓ヲ饗ス

第五條 會員ヲ宿泊セシムル日限ヲ左ノ如ク定ム

有功證牌佩用者

七泊

黃紐總證牌佩用者

六泊

紫紐總證牌佩用者

五泊

紅紫紐總證牌佩用者

四泊

紅紐總證牌佩用者

三泊

綠紐總證牌佩用者贊助會員

一泊

會員證牌及待遇規則第十二條ニ定メタル員限以内ノ同伴者ハ、會員ニ附隨シテ休憩宿泊セシム

第六條 館席差支無キトキハ、前條ノ日限外、引續宿泊ノ請求ニ應ズベシト雖モ、其日限外ハ左ノ館席使用料ヲ收受ス

一泊一席 金壹圓乃至七拾錢

第七條 休憩宿泊中ニ要スル飲食、寢具、其他ノ用品ハ、本會ニ於テ供給ヲ取計フベシト雖モ、其要費ハ登館者ノ支辨トス

第三款 本館及陳列品觀覽

第八條 本館及陳列品ハ、何人ヲ問ハズ觀覽セシム、但其時限ヲ左ノ如ク定ムト雖モ、時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

一 四月一日ヨリ九月三十日迄、午前八時開館、午後五時閉館

一 十月一日ヨリ三月三十一日迄、午前八時開館、午後四時閉館

第九條 觀覽者ハ觀覽券ヲ携帯セシム、但左ニ掲グル諸員ハ觀覽券ヲ要セズシテ

觀覽セシム

一 第一條ニ掲グル會員奇特者

但此客員ハ休憩席ニ於テ暫時休憩セシメ一定ノ茶菓ヲ饗ス

二 神宮皇學館其他ノ學校教員生徒ニシテ學術研究ノ爲メ觀覽ヲ乞フ者
但其學校ノ制服ヲ着用セシ者又ハ其學校ノ證明書ヲ携帯スル者ニ限ル

三 本會ヨリ請ウテ閱覽セシムル者

觀覽券ハ一枚一人ヲ限リ料金五錢トシ、本館又ハ販賣所ニ於テ販賣ス、但十五歳未滿七歳以上ハ料金半減、七歳未滿ハ無料トス

第四款 館内禁止制限

第十條 本館内禁止ノ事項左ノ如シ

- 一 白痴、瘋癲、爛醉者及傳染病アリト認ムル者ノ登館
- 一 喧噪又ハ猥褻ニ涉ル事
- 一 休憩席若クハ觀覽者休憩席ノ外ニ於テ喫煙スル事
- 一 樓上ニ於テ猥リニ飲食スル事

- 一 靴ヲ穿テタル儘登館シ、又杖傘ノ類若クハ大カバン包物等ヲ携入スル事
- 一 動物ヲ牽入ル、事
- 一 裝飾品、陳列品等ニ猥リニ手ヲ觸ル、事

第十一條 建物裝飾品又ハ陳列品ヲ汚損セシ者アル時ハ相當賠償ヲ要求スベシ

第五款 有志者出品

第十二條 所持ノ物品ヲ本館ニ出陳センコトヲ欲スル有志者アルトキハ之ニ應ズベシト雖モ、其運搬費ハ出品者ノ支辨トス、但其種類品質又ハ陳列席ノ都合ニ依リ謝絶スルコトアルベシ

第十三條 出品ハ凡テ本館ニ於テ之ヲ保護スト雖モ、不慮ノ災害ハ本館其責ニ任ゼズ

農業館、資日館觀覽券特別割引内則

一 農業館又ハ資日館ヲ多數ノ人員打揃觀覽スル者アリテ、其關係ノ向ヨリ請求アルトキハ、其觀覽券料定額ヲ適宜割引スルコトヲ得

會有ト爲シ得ベキ有價證券種類豫定

一本會ニ於テ經濟ノ便宜ニ依リ資金ヲ以テ引受又ハ購入シ得ベキ有價證券ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

各種公債證書

大藏省證券

各種地方債證書

確實ト認ムル銀行會社債券

專務理事報酬額制限

一 專務理事ノ報酬額ヲ一個年千貳百圓ト定メ之ヲ兩人ニ分贈スルモノトス

神苑會職務權限

第一條 評議員會ノ議決承認ヲ要スル事項左ノ如シ但事項ニ因リ議書廻閱又ハ議案ヲ送附シ意見ヲ諮ヒテ決スルコトヲ得
決ヲ要スル部

一 寄附行爲條款ノ改正

二 神宮へ獻納ノ行爲

三 本會ノ解散

四 諸規則ノ制定及變更

五 理事ノ進退

六 有功證牌贈與者ノ薦定

七 歳入歳出ノ豫算及追加豫算

以上ノ七項ハ總裁ノ認可ヲ仰グヲ要スル部トス

八 事業ノ計畫及其變更(便宜ニ依ル小變更ハ此限ニ非ズ)

九 借入金(一時ノ融通借ハ此限ニアラズ)

十 土地建物ノ賣買讓受讓渡若クハ交換

十一 會有トスル有價證券ノ種類豫定

十二 前各項ノ外理事ニ於テ商議ヲ必要ト認ムル件

承認ヲ要スル件

一 歳入歳出決算

二 毎年度會務成績書及財産目錄

右一項ハ總裁ノ高閣ヲ仰ギ、二項ハ總裁ニ呈出スルノ部トス

第二條

理事協議會、會頭裁決スベキ事項左ノ如シ

- 一 前條ノ評議員會議決及承認ヲ要スル各事項
- 二 諸細則ノ制定及變更
- 三 入札規程ノ制定
- 四 事務委員、贊助委員、技術委員ノ囑託及解罷
但總裁ノ認可ヲ仰グ
- 五 特別會員ノ推薦
- 六 技手、備事務員、守衛備員等ノ員限豫定
- 七 會計科目ノ制定及變更
- 八 預ケ金ヲ爲スベキ銀行選定及預金員限
- 九 有價證券ノ引受購入又ハ賣却
- 十 本部直管及支部主管ノ毎年度收支豫算及決算

第三條

專務理事、調理、會頭裁決スベキ事項左ノ如シ

一 廳府縣委員總長ノ推薦セル廳府縣委員、郡市區委員長ノ囑託及解罷
但總裁ノ認可ヲ仰グ

二 書記以下備事務員以上ノ役員、命免、黜陟、及廳府縣委員補、郡市區委員、委員補ノ囑託解罷

三 役員他へ出張ノ令達及除服又ハ轉地旅行請求ノ許否
但本部ニ於ケル横濱出張、支部ニ於ケル三重縣管内出張ハ限外

四 會員又ハ他向ニ對シ臨時事件ニ關スル照會應答處分

五 他ニ對スル臨時ノ交渉事件
但會員又ハ普通ノ客員ニ對スル待遇ハ限外

六 土地建物ノ貸借

七 報酬慰勞ノ金額、品類又ハ退職、死亡、傷疾、疾病者等へ臨時給與スル手當額

八 豫算決定額ノ内左ニ掲グル件々ノ收支執行
新設ノ事業費
陳列品ノ製造購入ノ費

會員證牌製造費

會員募集派出ニ係ル經費

金額參拾圓以上ノ營繕費

借入金實際ノ借入時期并返却及利子拂

九 支出科目項ノ豫算金額彼此流用

十 資財中ノ公債證書當籤拂出

十一 小拂用意金ノ員限

十二 見込價格參拾圓以上ノ不用物品賣却

十三 毎月ノ計算表類檢閱

十四 會務成績會計決算等會員へ報告

第四條 三重事務所ハ懸隔ノ地ナルヲ以テ前條ニ列舉セル事項ノ内左ニ掲グル
件々ハ特ニ在三重事務所ニ委任執行セシム

一 支部役員緊急事件ニ付他ノ地方へ出張及除服達又ハ轉地旅行請求ノ許否
二 臨時事件ニ關シ地方公廳ニ對スル願伺届又ハ公廳ヨリ達示ニ關スル處分

及地方人民ヨリ本會ニ對スル請求照會ニ關スル處分
但重事ハ限外

三 臨時事務ニ關シ會員又ハ他向ニ對スル照會應答ノ處分
但重事ハ限外

第五條 專務理事ヲシテ調定執行セシムル事項左ノ如シ

一 第一條第二條第三條ニ列舉セル事項ノ議案調定及決定後ノ實施

二 員限豫定範圍内ニ於ケル守衛備員及小使ノ進退黜陟

三 本部ノ役員横濱出張支部ノ役員三重縣管内出張

四 會頭ノ名ヲ以テスルモ常例アル文書ノ發遣

五 寄附金品ノ申込ヲ受ケ成規ニ依リ會員證牌證認狀ヲ交付シ及新聞紙ヲ以
テ寄附人名ノ廣告

六 豫算決定額内ノ收支及收入豫算ヨリ増加スル金額ノ收入
但第三條八項ニ掲グル支出ハ限外

七 支出科目項中ニ在テ目ノ豫算金額彼此ノ流用

八 見込價格參拾圓未滿ノ不用物品賣却

九 所定ノ銀行ニ對シ預金ノ締約及實際ノ出入

右ニ列舉セル事項以外ノ常事處理モ、總テ專務理事ノ任務タルベシト雖モ、異例ノ事件アルトキハ會頭ノ裁決ヲ要ス

十四日、本會ノ組織改更ヲ告タルガ爲メ、從來三重事務所ニ於テ經理セシ所ノ事務ハ咸ク法人神苑會ニ受渡ノ手續ヲ終了セリ。

財團法人ノ成立ニ從ヒ、新ニ選囑セラレタル者ノ外、自然廢滅ニ歸シタル舊來ノ評議員、管財員ニハ、通知ニ兼ルニ謝狀ヲ以テシ、三重幹事長古莊嘉門ニ對シテハ、謝狀ニ添ルニ銀盃一個ヲ以テシテ從來ノ功勞ヲ表章ス、但三重縣知事ニ囑託セラレタル幹事長ノ職モ亦廢滅ヲ告グル者ナリ、幹事長ニ對スル謝狀左ノ如シ。

從四位古莊嘉門氏ハ明治三十三年以來、本會三重幹事長トシテ盡力セラレタルヲ以テ、茲ニ其功勞ヲ謝シ銀盃一個ヲ贈呈ス

明治三十六年一月十七日

神苑會總裁大勳位 威 仁 親 王

神苑會會頭男爵 花 房 義 質

法人成立ノ爲、内務大臣、宮内大臣、神宮大宮司、東京府知事、三重縣知事等ニ、登記ノ濟了ヲ報告ス。其東京府ニハ、府令ニ基キ特ニ法人設立事項書ヲ添附ス。

十七日、内務省ニ於テ地方官會議中、其休憩ノ時ヲ機トシテ花房會頭之ニ臨ミ、總裁殿下ノ令旨ヲ傳へ、且財團法人成立及既往ノ成績、目下ノ現況、將來ノ希望等ヲ口演ス、其大意左ノ如シ。

神苑會 總裁有栖川宮殿下ニハ、例年諸君御會同ノ機ヲ以テ、御殿ニ於テ會務ニカカル件ヲ御諮詢在セラル、事ナリシガ、今回ハ諸君ノ會期短ク、殿下ニモ本日ヨリ御旅行在セラル、ヲ以テ、其義ニ及バザルヲ遺憾トセラレ、義質ヨリ宜ク其意ヲ傳フベシトノ命ヲ蒙リタリ

本會ハ創立以來既ニ十七年ヲ經過シ、諸君ノ御盡力モ淺カラズ、會事ハ今更縷陳ノ

要ナキガ如クナルモ、今回組織ヲ改メ財團法人ト爲シタルヲ以テ自今一層規律ヲ正シテ會事ヲ整理スベク、其改正ノ要點ハ寄附行爲條款ニ具シテ既ニ御通知ニ及ビタレバ、茲ニ細事ヲ敍ベズ、唯今諸君御會議休憩ノ時ヲ幸機トシ、總裁殿下ヨリ奉承シタル令旨ヲ傳ヘ、本會目今ノ實況、既往ノ成績、將來ノ希望ヲ略述シ、以テ今後モ一層ノ御盡力ヲ仰ガントスルナリ

抑本會ガ明治十九年創立以來今日ニ至ルマデ、神宮ノ爲ニ漸次施設シタル所ノ事業ヲ舉グレバ、第一ニ 内宮 外宮ノ兩宮域ヲ擴メ一萬九千六百餘坪ノ神苑ヲ開成シテ 神宮ニ奉納シ、以テ 神域ノ莊嚴ヲ整ヘタリ、第二ニハ岡田林、丸山、翠ヶ岡、倉田山等ノ山林地百七十七町五反九畝餘ヲ以テ神領ノ風致林ニ奉供シ、又ハ豫備地トシタリ、第三ニハ二見賓日館ヲ建設シテ 神宮并ニ 帝室ノ御用ニ供シ、其他參宮者ノ便ニ充ルモノトシ、既ニシテ 皇太后陛下 東宮殿下御參宮ノ御宿泊所ニ奉供シ、參宮者又其便ヲ得タリ、第四ニハ徵古館ノ一部タル農業館ヲ建設シテ廣ク農業獎勵研究ノ資ニ供シ、農事上ニ裨益ヲ與フル常置ノ陳列館ヲ設ケタルハ未ダ我國ニ多ク其比ヲ觀ザル所ナリ、第五ニハ倉田山ニ地所六町七反餘ヲ購ヒテ

徵古館建設ノ敷地ニ豫備シタリ、第六ニハ 外宮神苑接續地ニ二千四百餘坪ノ神苑ヲ開擴シ、以テ從來厭フ所ノ蕪雜汚漬ヲ清掃シタリ、第七ニハ 内宮後方ノ土地九百三十餘坪ヲ購求シテ 宮域ヲ正シクシタリ、是等ノ諸事業ハ何レモ其功ヲ奏シタルモノナリ、第八ニハ内國博覽會三重協贊會ト力ヲ協ヘ、倉田山ニ撤下御物拜觀所ヲ建設奉納シ、以テ神寶ノ尊キヲ篤志者ニ拜セシメントス、第九ニハ其拜觀所及今後建設スベキ徵古館ノ通路トシテ、五間幅凡ソ千間ノ道路ヲ築造シ、且公衆往來ニ便益ヲ與ヘントス、此二件ハ即今建設中ニ在ルモノナリ、而シテ其既成及建設中ノ事業費ト、創業以來今日マデノ經理費ニ充用シタル總金額ヲ算スレバ、二十七萬圓ヲ超エタリ

右ノ如ク漸次ニ神苑ノ設備、神都ノ隆盛ヲ謀ルノ事業ヲ經營シツ、アルモ、未ダ完備ノ域ニ達スルヲ得ズ、就中今後施設スベキ事業ノ最モ大ナルモノハ徵古館ノ建設ニ在リ、幸ニ神宮司廳ヨリ若干年間、毎歲壹萬四千餘圓ノ補助金下附アリテ其資金ニ供充スルコトヲ得ルモ、尙巨額ノ寄附金ヲ募集スルニアラザレバ、其目的ヲ達シ之ガ完成ヲ期スルコト能ハズ、況ヤ此區外ニ尙施設スベキ事業アルニ於テヲヤ、

而シテ徵古館ハ明治四十二年ノ御遷宮期マデニ竣功ヲ了シテ、現在ノ農業館ト併セテ奉獻シ、其他ノ本會事業モ總テ其期マデニ結了セシコトヲ欲スルヲ以テ、其資金募集ノ事ニ就テハ尙諸君ノ御盡力ヲ仰ガザルヲ得ザルナリ、委シキ事ハ何レ徵古館設計ヲ確定シタル上ニ於テ、本會職員ヲ派出御依頼ニ及ブ乎、又ハ書面ヲ以テ手續キヲ定メ御依頼ニ及ブベシ、切ニ希フ其旨ヲ了承セラレ、神宮ノ爲メ今後一際御盡力アリテ、本會ノ目的ヲ達セシメラレシコトヲ

二十七日、監事馬場三郎、支部ニ至リ、苑地并ニ本會ノ既設事業ヲ視、倉田山ニ於ル新設事業地ヲ檢シ、滿岡理事、宇仁田監事ト協議スル所アリ。

二月三日、田邊輝實(内務省土木局長)宮城縣知事ニ任ゼラレタルヲ以テ評議員ヲ辭シ、白仁武(内務省神社局長)ニ評議員ヲ囑託セラル。六日、會務改正ノ爲、協議ヲ要スル件アリ、支部代表者トシテ事務員玉井脩眞ヲ本部ニ招致ス。

十二日、本部ニ於テ理事會ヲ開キ、花房會頭、周布副會頭、田中理事、飯田理事、安江評議員出席シ左ノ件ヲ議了ス。

- 一 處務細則
- 二 會計科目
- 三 地方委員部取扱細則
- 四 報功内規
- 但此分ハ追テ評議員會議ニ附スベキモノ
- 五 會員及有志者ニ對スル告知書
- 六 三十六年度限設置會計科目
- 七 備事務員以下ノ員限豫定
- 本部 備事務員 二名
- 支部 備事務員 一名

守 衛 六名 内 農業館三名
 備 員 二名 内 農日館三名

八 預ケ金ヲナスベキ銀行及預金員限

本部 第一銀行

參萬圓

東京貯藏銀行牛込支店 五百圓

支部 第五銀行山田支店

參萬圓

山田銀行

參萬圓

九 各委員部寄附金募集取扱ノ報酬トシテ收入額百分ノ五ヲ支給スルノ件

右各項ノ内、第五項ハ尙講究ヲ要スルモノトシ、其餘ハ大抵原案ニ決シ、且議題外ニ小拂用意金員限ヲ、本部參拾圓、支部五拾圓ト定ムルコトヲ決議セリ。

曩ニ第五回内國勸業博覽會三重協贊會ト、協同設置ヲ約セシ、撤下御物拜觀所ノ工事、成功ニ垂ントシ、之ニ達スル道路ヲ新設セザルベカラザルニ至ル、即チ御物拜觀者ニ便シ、併セテ他日建營スベキ徵古館ノ通行ニ充ツルノ目的ヲ以テ道路ノ創設ヲ議決シ、客年以

來之ヲ實測スルニ、延長九百十一間餘、平均幅五間トシ、其潰地一町三反四畝二十七步ヲ算セリ、即チ岩淵町東端ニ起リ平地山野ヲ經テ倉田山頂ヲ拓キ、久世戸町ニ達スルモノナリ、其土地所有者二十餘名、之ガ買收又容易ノ業ニアラズ、委員十名ヲシテ交渉ノ局ニ當ラシム。書記箕曲茂七亦能ク之ニ任ジ日夜奔走スル所アリ、本會遂ニ買收ノ局ヲ結ビ、二月十八日關係町村ノ意見ヲ徵シ、度會郡長ニ新設願書ヲ提出ス。越テ三月四日其指令ヲ得、三重縣技師東武平ノ監督ヲ同縣知事ニ申請シ、工事請負者ヲ定メ個所限定ノ土工ヲ起セリ。關係町村ノ意見ヲ求ムルガ爲メ添附ヲ要セシ書類、并ニ度會郡長ニ對スル道路新設願書左ノ如シ。

添附書類

一 道路新設願

一通

一 維持方法書

一通

一 伊勢電氣鐵道株式會社承認書

一 地所賣渡證書寫

二十一通

一 滿岡勇之助河邊直之助承諾書

二通

一 潰地反別調

三通

一 道路橋梁設計書

三通

一 仕様書

一通

一 平面圖

一枚

一 縱斷圖

一枚

一 橫斷圖

一枚

一 橋梁圖

一枚

道路新設願

度會郡宇治山田町大字岩淵町大字倭町濱鄉村大字神田久志本及四鄉村大字楠部
宇治山田町大字久世戸町地内

一 道路延長九百九十一間一分

平均幅五間

右者今般倉田山へ御物拜觀所建築致シ并ニ追テ建設スベキ徵古館へ達スル道
路別冊設計書之通新設致度御許可ノ上ハ二日以内ニ起工シ向フ五十日間ニ竣
成可致最モ宇治山田町大字岩淵町字箕曲ヨリ延長百六十八間四分幅員三間ハ
伊勢電氣鐵道株式會社軌道線ト相伴ヒ、右ハ同會社ト協議濟同時ニ施工可致義
ニ付至急御許可相成度關係書類相添此段奉願候也

明治三十六年二月十八日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

三重縣度會郡長 川 田 茂 通 殿

此時恰モ伊勢電氣鐵道會社ノ軌道敷設ニ際ス、其線路中本會新設
ノ道路ニ駢行スベキ部分アリ、本會理事太田小三郎、該會社長タル
ノ故ヲ以テ雙方ノ利便ヲ圖リ各工費分擔ノ協定ヲ遂グ。而シテ三
重縣技師東武平ノ設計豫算金貳萬圓以上ニ及ビ本會ノ經濟之ヲ
許サ、ル所アリ、爲ニ太田、滿岡兩理事、本部ニ至リ會頭ニ具シ、評議
員會ニ附ス、其議決スル所金壹萬參千圓ヲ超ベカラズ。兩理事歸來、

更ニ東技師ニ囑シテ設計ヲ改メ、定額壹萬參千圓ヲ以テ成功ヲ期セシム。然レドモ追加工事請求相踵ギ、其必要ヲ認ムルモ經濟之ヲ許サズ、此際ニ處セル兩理事ノ心勞、以テ想察スベキモノアリ、遂ニ宇治山田町大字岩淵町ヲ起點トシ、濱鄉村、四鄉村ヲ經テ、復宇治山田町大字久世戸町ニ至ル延長凡千間ノ内、山ヲ拓クユト延長凡三百八十七間、削平平均凡八尺餘、田面ノ築堤延長凡八十六間、埋立凡四間餘、險ヲ夷ニ、急ヲ緩ニ、勾配完全ナル一條ノ大道路ヲ竣成スルヲ得タリ。

二月、宮内省木子技師、花房會頭ノ囑ニ應ジテ支部ニ至リ、撤下御物拜觀所及徵古館敷地等ヲ視察ス。

本會組織變更ト共ニ既ニ諸規則ヲ改定シ了ル、茲ニ於テ、役員一同ニ對シ花房會頭ノ訓示スル所左ノ如シ。

諸規則改定訓示

今般、本會組織ヲ財團法人ニ改正シタルニ隨ヒ諸規則ヲ改定シタルヲ以テ、茲ニ役員諸氏ニ訓示ス、抑今般ノ諸規則制定ハ所謂改定ニシテ新立ニアラス、舊規慣例ノ存シ得ベキモノハ之ヲ存續シ、改正ヲ要スルモノハ之ヲ更定シ、新ニ定メザルベカラザルモノハ之ヲ補定シ、而シテ事ノ輕重ニ由テ寄附行爲條款、諸規則、細則ニ別チ、體裁ヲ正シ聯絡ヲ通ジ、以テ財團法人ノ事務ヲ處理スルノ原則ヲ定メタルモノナリ、茲ニ改定ノ次第ヲ明カニスル爲メ、先以テ舊規則細則ヲ左ニ列記ス

神苑會規則

東京事務所事務規程

三重事務所處務規程

會計規則

給與規則

旅費規則

農業館規則

假徵古館規則

徵古館出品規則

特別證牌贈與內規

證牌證認狀取扱内規

委員部事務取扱内規

寄附物品募集上専務幹事心得内規

會員待遇

東京事務所事務取扱順序

三重事務所事務取扱手續

地方委員取扱心得

賓日館登館者心得

農業館守衛心得

假徵古館守衛心得

假徵古館宿直心得

是迄履行シ來リタル諸規則細則ハ、前書ノ通二十一種アリテ、其條項三百三十二ナリ、蓋此規則細則タル、創業以來會事ノ進遷スルニ隨ヒ、漸次之ヲ按定シ之ヲ改更シ之ヲ補正シタルモノナルヲ以テ、自然事項重複、輕重錯雜、體裁不具トナリ、而シテ中ニハ現事ニ適從シ難キモノアルニ至ンリ、故ニ今般是等ノ諸規則ヲ離合取捨審覈釐正シ、以テ規矩ヲ整ヘ現務ニ適セシメントシ、即チ左ノ如ク諸規則細則ヲ十種ニ改定シ、而シテ前ニ掲ゲタル舊則ハ總テ廢止ノモノトセリ

寄附行爲條款

經理規則

會員證牌及待遇規則

贈給規則

農業館規則

賓日館規則

職務權限

報功内規

處務細則

委員部取扱細則

本會ハ本部アリ支部アリ各地方ニ委員部アリ又農業館賓日館ノ如キ事務分派所アリ且會員ニ對スルノ約束ヲ定ルノ必要アルガ故ニ法ヲ簡略ニスルトキハ處理區々ニナリ聯絡整理スルコト能ハザルヲ以テ種々ノ規則ヲ定メテ經理スルヲ要スト雖モ規則細密ニ過グルトキハ反テ處務ノ手數ヲ増スノ憂アルヲ以テ改定ノ諸則ハ可及的繁冗ヲ去リ従前ノ三百三十餘條ヲ略減シテ二百餘條ニ定メタリ而シテ細密ノ手續ニ係ル事ハ條文ヲ略シ慣例ヲ作リテ之ヲ處分シ以テ事務ヲ整理セントス但豫メ諸則ヲ定ムルモ或ハ會事ノ變遷スルニ隨ヒ齟齬ヲ生ズルコトナシト云フベカラズ其場合ニ於テ規則ハ規則實際ハ實際トシテ姑息ノ處置ヲ爲スガ如キハ規律紊ルノ基ナルヲ以テ規則ノ改正ト共ニ處置スルヲ要ス凡ソ事務ノ舉ルト擧ラザルトハ其原則タル規則順序ヲ服膺スルトセザルトニ在リ役員タルモノ克ク此諸則ヲ服膺シテ處理ヲ誤ルベカラズ今ヤ本會ヲ法人トシ職員ノ責任一層重キヲ加ヘタレバ諸員心ヲ新タニシ慎重事務ニ從事アランコトヲ望ム

會頭男爵 花房 義 質

本月十二日ニ於ル理事會ノ決議ヲ以テ制定シタル本會地方委員部取扱細則左ノ如シ。

神苑會地方委員部取扱細則

第一條 委員部ハ廳府縣管轄地域ニ因テ受持區域ヲ定メ本會ノ趣旨ヲ普及シ經理規則第二條ニ規定シタル會務ヲ處辨スルモノトス但東京市内ハ東京本部之ヲ直管處辨シ宇治山田町内ハ三重支部之ヲ直管處辨ス

第二條 委員部ハ廳府縣所在地ニ主部ヲ置キ正副委員總長ニ於テ其管内ニ屬スル總轄會務及直管事務(委員主部ニ於テ觀シテ取扱フ所)ヲ管理シ廳府縣委員及委員補ヲシテ其主部ノ事務ヲ取扱ハシメ而シテ郡市區委員長ヲシテ各其郡市區域内ノ會務ヲ處理セシメ郡市區委員長ハ郡市區委員及委員補ヲシテ其手元ノ取扱ニ從事セシメ又町村ニ係ル會務ヲ分管セシムルモノトス但寄附金ノ申込及收集等實際ノ處分ハ便宜捷徑ニ隨ヒ委員主部ト在町村ノ委員ト直接取運ヲ爲スモノトス

委員數人アルトキハ、委員主部及各町村ニ於テ常務ヲ取扱フベキ主任者ヲ定メ置キ擔當セシム(市長主任トシテ)但其各主任委員名ハ豫メ東京本部又ハ三重支部ニ通知シ置クコトヲ要ス(東京本部又ハ三重支部トアルハ兩所ノ内ト云フニアラズ第ニ依テ定メタル對接地方ニ因テ別ナルナリ以下同ジ)

第三條 本會ト委員部トノ間ニ於ケル重要ノ件ハ、東京本部ト對接取運ヲ爲スベシト雖モ、常務ノ處分上ニ就テハ、迂回ヲ避ケ捷徑ニ隨ヒ、豫メ東京本部對接ノ委員部ト、三重支部對接ノ委員部區畫ヲ定メ置キ取運ヲ爲スモノトス、其本支部對接ノ委員部區畫ハ別ニ通知スベシ

第四條 寄附者ニ交付スベキ會員證牌及證認狀(豫メ會頭ノ署名)并ニ規則書等ハ、豫備トシテ會頭ヨリ委員總長ニ預置キ、寄附者アリテ一時出金、又ハ年賦出金初年分ヲ收了セシトキ、直ニ交付スルモノトス

委員總長ハ豫備證認狀等ノ受拂帳簿ヲ置キ其出入殘高ヲ整理シ、年末ニ至テ其計算ヲ會頭ニ報告スルモノトス

第五條 寄附金收入ヲ取扱フ委員主部及郡市區委員長若クハ分管アル郡市區委員ノ所在地ニハ、豫メ會金取扱方ヲ定メ置キ、納付金ハ其寄附者ヲシテ之ヲ拂込

マシメ(會金取扱方ハ其拂込ヲ以テ神苑會ヨリ)受理者ハ其預リ證ヲ以テ受入ノ順序ヲ爲スベシ(方受理者ハ其金額ヲ會金取扱方ニ通知ス)

寄附者ニ於テ彼是ノ奔走ヲ厭ヒ會金取扱方ニ拂込ズシテ受理者ニ對シ現金ヲ納ムルトキハ之ヲ受取ルベシ、其場合ハ受理者ヨリ直ニ之ヲ會金取扱方ニ預ケ入ルベキモノトス

會金取扱方ハ銀行又ハ銀行類似ノ業ヲ營ム確實ナル會社一個人ヲ選定シ、神苑會會金取扱方ト稱シ、豫メ其取扱ノ締約ヲ爲シ、其旨東京本部又ハ三重支部ヘ通知シ置クベシ

會金ヲ取扱ハシムベキ銀行若クハ營業者ナキ地方、又ハ會員少數ナル地方ハ、委員長又ハ委員ニ於テ現金ヲ受取之ヲ保管スベシ

第六條 寄附者アルトキハ、寄附金申込書ヲ差出サシムルモノトス、其申込書ニハ寄附金額及一時出金若クハ年賦出金ノ年割并ニ位爵住所姓名月日等ヲ明記セシムベシ、但寄附者ニ於テ自記スル能ハザルカ若クハ自記ヲ厭フモノアラバ、受理者ニ於テ之ヲ作ルベシ

年賦出金ノ寄附申込書ハ、契約書ナルヲ以テ、必ず其申込書ニ調印ヲ求ムベキモノトス若シ印章ヲ所持セザルモノアラバ、姓名ヲ自記セシムルヲ要ス

寄附申込書ハ、豫メ東京本部又ハ三重支部ヨリ回付シ置ク所ノ用紙ヲ用ユベシ(書式第(一)號)若シ其用紙盡キルトキハ、其書式ニ準ウテ記載シ、又送附ヲ請求スベシ

第七條 收入金ヲ領收スベキ主任ノ委員長委員ハ、證印ニ實印ヲ用キルモ職印ヲ用キルモ便宜ニ任ズ、職印ヲ備フルトキハ左ノ式ニ由ルベシ
一方六分ノ角印
一字體隸書

一 神苑會何府(縣)委員印又ハ神苑會何郡(市)委員長若クハ神苑會何郡(市)何町(村)委員ト彫刻スベシ

第八條 物品寄附ノ申込アルトキモ第六條ニ準ジテ受理シ、其物品ニハ價格ヲ記載スベシ、但其價格ハ原價明瞭ナルモノハ其原價ヲ記シ、其他ハ受理者ニ於テ考定ノ價格ヲ記スベシ、若シ考定シ能ハザルモノハ、其筋ノ者ニ評價セシムベシ
第九條 寄附申込ニ對スル受理ノ處分ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 委員主部ニ對シ寄附申込アルトキハ、主任ノ廳府縣委員之ヲ受理シ、申込書ト寄附金(年賦出金)若クハ物品ヲ收受シテ領收證書(書式第(二)號以下)ヲ交付シ同時ニ委員總長ハ會員證牌(其等級)及證認狀又ハ謝狀規則書(摺)等ヲ交付シ(寄附金五圓未満、登圓以上ノ奇特者ニハ證認狀ノミ、又寄附金登圓未満ノ奇特者ニハ領收證書ノ外、交付スルモノナシ、又規則書ハ前ニ會員募集ノ際ニ於テ交付セシモノニハ此時交付ヲ要ス)而シテ其申込書ハ現金若クハ現品收了證牌、證認狀又ハ謝狀交付済ヲ記シ、東京本部又ハ三重支部ニ送附スベシ(寄附者ハ送附スルモアリ、其送附ノ時待遇ノ都合アルヲ以テ申込書送附ハ遲滞ナキヲ要ス)
- 二 郡市區委員長又ハ分管主任ノ在町村郡市區委員ヘ寄附申込アルトキハ、其申込書ト寄附金(年賦出金)若クハ物品ヲ收受シテ領收證書ヲ交付シ、其申込書ハ現金若クハ現品收了ヲ記シ、尙其主任委員ノ名ヲ記シテ直ニ委員主部ニ送付スベシ、委員總長ハ之ニ對スル會員證牌及證認狀又ハ謝狀規則書等ヲ其受理者ニ送附シテ寄附者ニ傳達セシメ(規則書ヲ重覆ニ交付セザルコトハ前ニ同シ)而シテ其申込書ヘ證牌證認狀交付済ヲ記シテ、東京本部又ハ三重支部ニ送附スベシ
- 三 委員部管内在住者ナルモ、東京本部又ハ三重支部ヘ直接寄附ヲ申込ムモノハ之ヲ受理シテ其住地所管ノ委員部ニ通知スベシ、但其寄附年賦出金ノモノハ

委員部ニ於テ二年目ヨリノ年割金收集ヲ取扱フモノトス

第十條 年賦寄附二年目ヨリノ出金收集順序ヲ定ムルコト左ノ如シ

一年賦寄附金ハ毎年六月ノ收集期以前ニ東京本部又ハ三重支部ニ於テ收集告知書(番式第)ヲ作りテ、乙號以下ヲ委員主部ニ送附スベシ、但年賦金收集ハ、委員部ニ於テハ元調ヲ爲スヲ要セズ、單ニ右ノ告知書ニ基キ收集ヲ取扱フベキモノトス

二委員主部ハ其告知書ノ乙號票ヲ取テ控トシ、而シテ其委員主部直管ニ係ル分ハ、主任ノ廳府縣委員ニ、又郡市區委員長若クハ在町村郡市區委員ノ取扱ニ屬スル分ハ、其委員長又ハ在町村主任委員ニ、各其丙丁戊號ヲ廻付シテ收集セシム

三主任廳府縣委員郡市區委員長又ハ在町村主任委員ハ、告知書ニ基キ寄附者ニ通知シテ年割金ヲ領收シ、其丁號票及戊號票ニ月日ヲ記入署名調印シ、其戊號領收書ハ寄附者ニ交付シ、丁號票ハ委員主部ニ送附シ、而シテ丙號票ハ追テ送金ヲ爲スマデ手元ニ存シ置クベシ、但滞納者アルトキハ、納付ヲ了スルマデ其

告知書ヲ存置シテ催促ヲ爲シ、納付ヲ了スルニ隨ヒ右ノ順序ヲナスベシ

四委員主部ニ於テ丁號票ヲ受付スルトキハ、控ノ乙號票ニ現金收了ノ年月日ヲ記入シ置キ、而シテ其丁號票ヲ東京本部又ハ三重支部ニ送附シ、之ヲ收了ノ報告トス

五會員止ヲ得ザル事故アリテ、年賦出金ノ猶豫ヲ乞フモノアルトキハ、其猶豫期ヲ明カニシ、請求書ヲ徴シテ本部又ハ支部ニ送附シ、其會員ニ係ル其年ノ收集告知書ヲ同時ニ返却スベシ

六委員部所管ノ會員旅行中ノ便宜ヲ以テ、年賦出金ヲ東京本部又ハ三重支部ニ納付スルコトアルトキハ、之ヲ收受シ其委員部ニ通知スベシ、然ルトキハ委員部ハ其會員ニ係ル其年ノ出金取扱ヲ要セズ、若シ其事既ニ收集告知書ヲ發セシ後ニアルトキハ、其取消ヲ通知スルニ付、第十五條送金ノ時ニ於テ之ヲ返付スベシ

第十一條 委員部所管ノ會員、年賦出金ヲ皆納セザル間ニ死亡シ、會員證牌及待遇規則第八條ニ依リ、其相續人ニ於テ殘額ヲ納付シテ、其會員資格ヲ繼承センコト

ヲ委員部ニ請求スルトキハ其殘額納付ヲ證明シタル請求書ヲ徴シテ繼承證認狀(豫メ預ケ置キタルモノ)ヲ交付シ、而シテ其請求書ニ證認狀交付濟ヲ記入シテ直ニ本部又ハ支部ニ送附スベシ

第十二條 死亡シタル會員ノ寄附行爲條款第八條ニ依リ會員繼續ヲ請求スルモノアルトキハ其請求書及繼續金ヲ收メテ領收證書及繼續承認狀ヲ交付シ、其請求書ニハ繼續金收了證認狀交付濟ヲ記シテ、直ニ本部又ハ支部へ送附スベシ、但其現金ハ第十五條ノ送金ニ加フベシ

第十三條 委員部所管ノ會員證牌ヲ亡失シ、其旨ヲ證明シタル請求書ヲ提出シテ、再交付ヲ請ヒ其證明正實ト認ムルトキ、又ハ證牌ヲ破損セシモノ、其損牌ヲ提出シテ引換ヲ請フモノアルトキハ、何レモ料金五拾錢ヲ收メ、新證牌ヲ交付シテ受取證書ヲ徴シ、而シテ其請求書ニ料金收了新證牌交付濟ヲ記シ、直ニ本部又ハ支部へ送附スベシ、但新證牌ハ委員總長へ豫備預ケ置ノ内ヲ以テ交付シ、收了ノ料金ハ第十五條ノ送金ニ加へ、又損牌モ其時送附スベシ

第十四條 甲委員部管内在住者ニシテ年賦出金ヲ約シタル者、後ニ乙委員部ニ轉

住ノ届出アルカ、又ハ其轉住ヲ知リタルトキ、甲委員部ヨリ東京本部又ハ三重支部ニ通知スルヲ要ス、然ルトキハ本部又ハ支部ハ之ヲ乙委員部ニ通知シ、乙委員部ハ爾後第十條ノ如ク收集ヲ取扱フベキモノトス

第十五條 郡市區委員長又ハ分管主任ノ在町村郡市區委員ニ於テ、會金取扱方ニ預ケ在ル現金、又ハ其取扱方ナキ地方ノ委員長及在町村主任委員ニ於テ保管セラル現金ハ、毎月末日ニ取束ネ、之ニ第十條ノ收集告知書ノ丙號票ヲ内譯トシテ添附シ、尙一時出金アル分ハ其人名金額ノ内譯書ヲ添へ、委員主部ハ各所ノ送金ヲ取束ネ、之ニ直收ノ分ヲ合セ(繼續金又ハ再交付證牌ノ料金アルトキ之ヲ加フ)送附書(書式第 四號)并ニ前記ノ丙號票及一時出金内譯書ヲ添テ、東京本部又ハ三重支部へ送金シ、其領收證書ヲ受取ベシ

第十六條 委員部所管ノ會員死亡届アルカ、若クハ其死亡ヲ知ルカ、又ハ退會ノ申出アルトキハ、直ニ其届書、申出書又ハ通知書ヲ東京本部又ハ三重支部ニ送附スベシ

第十七條 委員部ニ於テ會務取扱ニ要スル經費(會員募集費、寄附金、收集費、委員委員補助金、慰勞費、報謝費、會金取扱方手数料、送金)

費(其他)ニ充用スル爲メ、寄附金收入額ノ一割ヲ交付ス、但其金額ハ委員總長ニ委任交付切トシ、本會ハ其支拂勘定ヲ問ハザルモノトス。

第十八條 前條ノ經費充用金ハ、第十五條送金ノ内ヨリ控除シ、其金額ニ對シ、委員總長ヨリ會頭ニ對シ、受取證書ヲ差出スベシ。

第十九條 委員主部及郡市區委員長其他分管主任ノ委員ハ、各收入金受拂帳簿ヲ置テ、其出入金ヲ計理スルヲ要ス。

第二十條 會員證牌及待遇規則第十五條ニ依リ、委員部所管會員ヨリ、委員主部又ハ郡市區委員長若クハ在町村主任委員ニ對シ、鐵道賃金割引乗用ノ爲、勘合證ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スベシ、但其勘合證ハ豫メ東京本部又ハ三重支部ヨリ送附シ置クベシ。

二十日、元書記吉川清三郎ニ本會歴史編纂方ヲ囑託シ、月手當ヲ贈給セシモ、今般ノ組織改正ニ際シ、解囑ス。

三月六日、改定規則、委員部取扱細則及本年一月十七日內務省内ニ

於ル地方官會議ニ際シ、花房會頭ノ演述セル大意ヲ印刷シテ、之ヲ廳府縣委員總長ニ送り、併セテ本會組織ノ改正ヲ當該地方新聞ニ廣告センユトテ依頼ス。

本會組織改正ノ件、東京市ノ新聞三種及三重縣ノ新聞二種ヲ以テ左ノ如ク廣告ス。

今般本會組織ヲ財團法人ニ改正シ、本年一月一日其許可ヲ得タリ、改定規則御需要アラバ、東京本部、三重縣宇治山田町大字豐川町三重支部ノ内へ御申越次第之ヲ送ルベシ、右會員諸氏ニ告グ

明治三十六年三月

神 苑 會

十二日、倉田山造苑工事ヲ、名古屋市園藝師大島角右衛門ニ命ズ。
二十二日、農業館陳列用品ノ購入及寄贈依頼ノ爲、管守榊原正吉ヲ第五回內國勸業博覽會(大阪ニ開會中)ニ出張セシム。
二十三日、專務理事報酬額ハ、本年一月十三日評議員會ニ於テ定ム

ル所アリシモ、自今二人ニ對スル年額金壹千圓トシ、本部專務理事ニ六百圓、支部專務理事ニ四百圓贈給ノコトニ定ム。

會務上協商ヲ要スル爲メ、本月二十四日、理事飯田巽、支部ニ至リ、翌日支部專務理事滿岡勇之助、事務委員玉井修眞ト協議スル所アリ。二十六日、倉田山新設道路工事ノ實況ヲ視察シ、三十日、冷泉評議員、桑原理事、太田理事、滿岡理事、宇仁田監事、玉井事務委員等ト宇治山田町大字尾上町五二會館ニ會シテ左ノ事項ヲ協議ス。

一 徵古館興業費中、建築ノ費目ヲ設クル件

一 道路工費金參百參拾七圓追加ノ件

一 家屋移築費ノ件

一 報酬手當旅費ノ件

右協議ノ後、尙支部ニ於テ會務上ノ協商ヲ遂ゲ、或ハ倉田山ニ至リ、或ハ神宮司廳ニ出頭スル等奔走連日、四月八日ヲ以テ本部ニ復命ス。

ス。

加奈陀國農務大臣「フィツシャ」、隨員、州務前大臣及祕書官等、三月二十七日、神宮參拜ヲ了シ、農業館ヲ觀覽ス。因テ本會ノ趣旨ヲ協贊シ、寄スルニ金五拾圓ヲ以テセリ。本會會規ニ依リ、證牌并ニ證認狀ヲ交付シ、翌日賓日館ニ午餐ヲ饗シ、神都名勝誌ヲ贈リ、其宇治山田町發程ニ際シ、滿岡理事之ヲ山田驛ニ送レリ。

倉田山ニ於ル撤下御物拜觀所、工事落成シ、四月十三日、神宮少宮司桑原芳樹、隨員宮掌澤瀉久富、本會理事滿岡勇之助ト現場ニ會シ、假ニ受授ヲ了ス。

二十二日、周布副會頭支部ヲ巡視ス、二十四日歸途、病ヲ名古屋ニ養ヒ、二十八日歸東ス。

撤下御物拜觀所一棟、工事落成セシヲ以テ、茲ニ博覽會三重協贊會

トノ訂約ヲ履ミ、五月十一日獻納願書ヲ神宮司廳ニ提出ス、越テ十六日聽許ノ指令ニ接セリ。

獻納願

伊勢國度會郡濱鄉村大字神田久志本字赤井所在
撤下御物拜觀所

一本館

一棟

此坪五十八坪六勺

管理所用

一建家

一棟

此建坪十三坪三合七勺四才五分

外ニ

周圍土疊假門并ニ井戸一個所共

右ハ義ニ出願御許可ヲ得建築竣成候ニ付、渾テ獻納致度、速ニ御許可被下度、此段奉願候也

但本文敷地神苑會所有ノモノ獻納ノ義ハ其順序取運中ニ付、追テ神苑會ヨリ上地ノ義出願可致候、此段申添候也

明治三十六年五月十一日

神苑會會頭男爵 花房 義質

三重協贊會會長 古莊 嘉門

神宮大宮司伯爵 冷泉 爲紀殿

指令第三二號

三重協贊會會長 古莊 嘉門

神苑會會頭男爵 花房 義質

本月十一日付出願、神宮撤下御物拜觀所用建物及管理所用建物各一棟、獻納ノ件聞届ク

但敷地ノ番號ヲ記載シタル建物圖面ヲ差出スベシ

明治三十六年五月十六日

神宮大宮司伯爵 冷泉 爲紀代理

神宮少官司 桑原 芳樹

凡ソ本會會員ノ證牌ヲ佩ル者、神宮撤下御物ノ拜觀ヲ乞フニ方

リ、同伴家族モ亦其典ニ浴スルユトナ得ベキハ、曩ニ明治二十七年中一タビ神宮司廳ノ通牒ヲ受タル所ナリ。然レドモ年月既ニ久シキヲ以テ、本年六月再ビ同廳ニ稟請シ其特典ヲ認容セラル、ナ得タリ、但會員ノ資格ニ應シ其人員ニ制限等差アルユト左ノ如シ。

- 一 有功證牌 佩用者 家族十五名以内
- 一 黃紐總證牌 同 十二名以内
- 一 紫紐總證牌 同 八名以内
- 一 紅紫紐總證牌 同 五名以内
- 一 紅紐總證牌 同 三名以内

六月二十二日、拜觀所ニ屬スベキ警衛舎一棟ヲ獻納ス、是ヨリ先キ拜觀所既ニ其獻納ヲ了スト雖モ、現下ニ在テ巡查ノ駐屯ニ供シ、將來ニ於テ衛士ノ宿衛ニ充ツベキ衛舎ナキハ設備未ダ其完ヲ得タリト謂フベカラズ、故ニ三重協贊會ノ協力ニ據ラズ、本會單獨ノ支

辨ヲ以テ之ヲ建築シ、此日獻納願書提出、越テ三十日聽許セラル。

奉 獻 願

撤下御物拜觀所附屬

一 警衛員見張所 一棟 建坪五坪建具共

右本會ニ於テ別紙圖面之通建設獻納致度此段願上候也

明治三十六年六月二十二日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

神宮大宮司伯爵 冷 泉 爲 紀 殿

本月二十二日附出願、神宮撤下御物拜觀所附屬警衛員見張所一棟獻納ノ件聞届ク

明治三十六年六月三十日

神宮大宮司伯爵 冷 泉 爲 紀

七月六日、花房會頭支部ヲ巡視ス、當時倉田山ニ施ス所、地盤土工ニ過ギズト雖モ、拜觀所ハ既ニ建設ヲ了シ、新道路モ亦殆ンド成功ス、其成績地方官民ノ幫助ヲ受クル所多シ。八日、其關係者十一名ヲ招キテ宇治山田町大字八日市場町與可樓ニ小宴ヲ開キ、以テ感謝ノ

意ヲ致セリ。

次デ十日、宇治山田町長吉澤重郎并ニ町會議員一同ヲ五二會館ニ招キ親睦ヲ交ス、會頭演テ曰ク、本會事業ノ興廢ハ神都ノ消長ニ繫ルヤ重且大ト謂フベシ、幸ニ神都ノ士、本會ノ將來ニ關シ懷抱セラ、所アラバ、敢テ獻替ニ吝ナラザランユトナ乞フト、述了リテ晚餐ヲ饗ス。

十七日、飯田理事、九州ヨリ歸途、支部ニ來過シ、倉田山工事ヲ視、事務所ニ於テ滿岡專務理事、玉井事務委員等ト、會員臺帳及奇特者名簿調製方、寄附金收集告知書發布手續等ニ關シテ凝議シ其標準ヲ定メ、二十二日歸東ス、蓋本支部間、其處理ノ統一ヲ期センガ爲ナリ。三十三日、倉田山新設道路工事竣成ノ旨、請負人ノ報告ニ接シ、滿岡理事、玉井事務委員、箕曲書記、現場ニ臨ミ、工事囑託監督三重縣技手

本間四馬三ト會同シテ之ヲ檢分ス。其缺點ノ個處ヲ指摘シテ修補ヲ命ジ、大部分ノ成功ヲ認メテ受授ヲ了セリ。

八月十四日、日本赤十字社 總裁閑院宮殿下ニハ同社支部長(即チ地方長官)ヲ招集セララル。此日、本會會頭ハ 殿下ノ御許容ヲ得テ其席ニ至リ、各廳府縣委員總長ニ演述スル所左ノ如シ。

神苑會ニ於テモ諸君ノ御會同ヲ機トシテ、一夕 總裁有栖川宮殿下ヨリ御懇話アラセラレ度密ナリシモ、諸君ノ御歸任モ迫リ、殿下ニモ伊香保ニ御靜養中ニテ遺憾ナガラ其事ニ及バレザリシモ、今日 當宮殿下ノ御許容ヲ得テ、此席ニ於テ一言述ルヲ得ルハ最モ幸甚ノ至リナリ

神苑會ノ事業、既往ノ成績、目下ノ現況、將來ノ希望ニ關シテハ、本年一月内務省ニ於テ諸君ノ前ニ陳述スル所アリシガ、其將來ノ事業計畫モ略定マリ、徵古館ノ建設モ明年ヨリ着手セントスルノ場合ニ至リタレバ、其資金ノ募集ニ付テハ諸君一層御盡力ヲ仰ガザルヲ得ザルノ時機トナレリ、就テハ其計畫ノ大要ヲ陳述スベキ筈ナ

レドモ、此御席ニ於テ長時間ヲ費シテ詳述スルハ、事宜ニ合セザルモノアルヲ以テ之ヲ憚リ、後日書面ヲ以テ具陳スベキニヨリ、豫メ此意ヲ御諒承アリテ、更ニ一層ノ御盡力ヲ以テ、本會ヲシテ有終ノ美ヲ濟サシメラレシコト切望ノ至リニ堪ヘズ。本日ハ、單ニ諸君ガ本會ニ對スル既往ノ御盡力ヲ謝シ、又將來ニ於テ更ニ一層ノ御盡力ヲ切望スルノ意ヲ陳述スル様、總裁殿下ノ御旨ヲ奉ジテ茲ニ一言ヲ呈スルニ止ム。

新設道路ノ西端、勢田川ニ架スル所ノ新橋、名ケテ錦水橋ト云フ。八月十九日、名ヲ石標ニ刻シテ橋ノ西端ニ樹ツ、古莊三重縣知事ノ撰且書スル所、蓋伊勢名所、岡本ノ里、錦ノ小河ノ古稱ニ因レルモノナリ。

大阪市ニ於ル第五回内國勸業博覽會開會中、本會農業館管守榊原正吉ヲ遣ハシ、館内陳列ニ適スル物品ノ購入ヲ約シ、及出品人ニ寄贈ヲ乞ハシムル所アリ、博覽會閉場後再ビ同人ヲ派遣ス。九月三日

其處理ヲ了シ復命ス。

九月十四日、内宮神苑地ヨリ五十鈴川ヲ隔テタル東面、本會所有ノ山林中、反別五十一町餘歩、神宮風致ノ爲保安林ニ編入セラル。十六日、舊約ニ基キ、宇治山田町ヨリ土地三十七坪八勺ノ贈與證書ヲ受ケ、之ト交換ニ本會ヨリ道路敷ニ上地シタル土地百三坪ニ係ル、本會理事ノ決議書ヲ交付ス。是ヨリ先キ明治三十二年九月中、宇治山田町ノ起業ヲ以テ參宮鐵道山田驛前ヨリ 外宮前ニ至ル道路ノ新設ニ當リ、其必要ニ應ジ、本會所有地百五坪二合八勺ヲ道路敷ニ供シ、之ガ代地トシテ宇治山田町有土地三十七坪八勺ノ贈與ヲ受クベキユトヲ約ス、土功既ニ成リテ茲ニ數年、然レドモ、當時未ダ法人タラザルヲ以テ、右ニ係ル登記ヲナスベキ機關ヲ得ズ、輒テ其順序ヲ履ム能ハザリキ、今ヤ法人組織成立セルヲ以テ、雙方書類

ナ調理シ、茲ニ始テ公然上地ノ手續ヲ履行スルニ至ル。
二十五日、神苑擴張地ニ對スル土地所有權ヲ本會ノ名義トス。是ヨリ先キ、本會未ダ財團法人ヲ設立セザルヤ、民法上不動産賣買等ノ機關具備セザリシガ爲メ、外宮神苑擴張地ニ於ル所有權登記ノ如キ、會頭花房義質個人ノ名義ヲ以テ履行セルモノ、茲ニ至リテ悉ク本會ノ名義ニ改ム。

十一月六日、會務協議ノ爲、箕曲書記ヲ隨ヘ太田理事、本部ニ出張ス。
八日、田中理事、支部ニ至リ、農業館陳列品整理ニ從事ス。

二十二日、小松原評議員、支部ヲ巡視シ、二十三日歸京ス。

十二月八日、滿岡理事、本部ニ出張シ、太田理事ト共ニ評議員會ニ附スベキ提案ヲ調理ス。

二十一日、評議員會ヲ東京ニ開キ、徵古館建築費繼續支出法案ヲ評

決ス。是ヨリ先キ太田理事上京シテ本部ニ在リ、謂ヘラク徵古館ノ建營ハ一般會員ノ翹望スル所、宜ク成功期ヲ定メ、信憑ヲ天下ニ示スベキナリ、今若シ三十七年度ヨリ四十年年度ニ亘ル繼續工事トシテ之ガ施設ヲ決メン乎、大成ノ績期シテ俟ツベシ、刻下ノ要唯此方針ヲ決行スルニ在ルノミト、乃チ考案ヲ畫シテ、正副會頭、評議員ノ意嚮ヲ叩キ、銳意商量、大體ノ經緯略定マル、茲ニ於テ滿岡理事ノ上京ヲ促シ、相謀リテ其議案ヲ編成シ、二十一日之ヲ評議員會ニ提出スルニ至ル。此日會同スル者ヲ土方、花房、小松原、斯波、白仁、田中、山崎、安江、太田、滿岡ノ各評議員及ビ馬場、波多野ノ監事トス、審議シテ其提案ヲ評決シ、本會最終事業即チ十餘年來ノ宿圖茲ニ實施ノ目途ヲ立ツ。當日議題左ノ如シ、

- 一 撤下御物拜觀所、同建設地、及 外宮境域接續地造苑在形ノ儘、神宮ニ奉納ノ

議ヲ定ムル事

- 二 撤下御物拜觀所ノ防火用水溜池設備及防火除地購入、徵古館對接ノ山林購入ノ議ヲ定ムル事
 - 三 徵古館建築費繼續豫算ノ歳入歳出ヲ定ムル事
 - 四 經理規則第二條改正ノ議ヲ定ムル事
 - 五 理事飯田巽ノ退任ヲ承認スル事
 - 六 明治三十七年度歳入歳出ノ豫算ヲ定ムル事
- 右第一、第二、第五、第六ハ原案ヲ可決シ、第四議案經理規則第二條ハ左ノ如ク改正ス

第二款 行務管理

第二條 本會ハ東京事務所ヲ本部トシテ會務ヲ總轄シ、三重事務所ヲ支部トシテ、寄附行爲ニ關スル會務及事業ノ實施ヲ管理シ、又各地方ニ委員部ヲ置キ、地方ニ係ル會員募集、寄附金徵收ノ事務ヲ處辨ス

但支部ニ於テハ、寄附ノ景況ヲ、毎翌月五日迄ニ本部ニ報告スベシ

第三ノ議案ハ本會ノ一大事業ニ係レルヲ以テ、特ニ提議全體ヲ左ニ掲グ。

徵古館建設之議

本會創業以來重要ノ目的タル徵古館建設ハ、頗ル多額ノ經費ヲ要シ、其支辨ノ方法容易ナラズ、加之其建築タル堅牢ヲ要シ、急速完成ヲ期ス可ラザルハ、豫テ御承認ノ義ニ付、今般四個年繼續豫算ヲ調成シ、評議員會ニ提出仕度、其事由等ハ歳入歳出案中ニ詳具仕候ニ付、御決定相成度、此段提議候也

神苑會評議員 滿岡勇之助
同 太田小三郎

神苑會會頭男爵 花房 義 質殿

提議案

自明治三十七年度
至同四十年年度 歳入豫算

- 一 前年度ヨリ越高 金貳萬九千百七拾七圓
- 一 補助金 金六萬千貳百圓

一 寄附金

金四萬五千圓

一 地所賣拂代

金四萬七千五百五拾圓

一 貸日借賣拂代

金貳萬百貳拾四圓

一 諸收入

金五千五百四拾貳圓

合計金貳拾萬八千九拾參圓

歳入豫算説明

一 前年度ヨリ越高

金貳萬九千七百七拾七圓

右前年度即明治三十六年一月一日、本會が舊神苑會ヨリ金四萬五千七百貳拾參圓ノ引繼ヲ受ケ、又其收入ニ於テ補助金壹萬壹千圓及募集金諸收入金五千四百參拾貳圓ヲ得ルト雖モ、同年度内ニ於テ施設セシ事業數多ニシテ、其重ナルモノハ徵古館興業費、御物拜觀所建築費、其他合金參萬貳千九百七拾八圓ノ巨額ヲ充用セシヲ以テ、本行ノ金額ヲ觀ルニ至レリ

一 補助金 金六萬千貳百圓

右金額一個年度金壹萬四千參百圓ニシテ、之ヲ四個年ニ通算シ、而シテ又三十五年

度減額四千圓(但拜觀所建設以後神宮ニ金七百圓ヲ納付スルモ、三十五年度ハ關係ナシ)本年度ヨリ向四個年間ニ填補セラレ、モノト期定セシニ由ル

一 寄附金 金四萬五千圓

右寄附ノ行爲ハ、年ヲ逐テ困難ノ情況ヲ呈スト雖モ、從來甲ノ府縣ニ在テハ勸誘ノ懇到殆ンド其餘地ヲ存セズ、又乙ノ府縣ニ在テハ曾テ其方法ヲ試ミザルモノ鮮ナカラズ、而シテ今其金額ヲ量定スルハ頗ル至難ナリト雖モ、既約寄附金四萬五千有餘圓ニシテ、全國ニ對スル希望ノ金額ヲ表出スレバ、實ニ金參拾萬圓以上ノ巨額ヲ示セリ、故ニ既約金四萬五千餘圓ノ實收ヲ豫期シ、若其缺額ヲ生ズルトキハ、新募集金ヲ以テ之ニ填補スルノ標準ヲ定ムルモ必ズ豫算上大差ヲ觀ルノ憂ナカルベシ、是ヲ以テ本行ニ既約新募ノ區域ヲ別タズシテ之ヲ實收ノ員額トス

一 地所賣拂代 金四萬七千五百五拾圓

本行ノ地所ハ、豐川町用地ノ總反別四千百坪ニシテ、一坪ノ價格金拾壹圓五拾錢ヲ以テ賣却セントス、其地内ニ現在スル農業館其他建造物ハ三十七年度以後四十年度ニ至ルマデ、其間經濟ノ程度ヲ參酌シ、之ヲ倉田山敷地内ニ移築スルノ見込ナル

ヲ以テ、先ツ四十年年度末ニ於テ賣却ノ手續ヲ完了スルノ順序ヲ定メタリ
一 資日館賣拂代 金貳萬百貳拾四圓

本館ハ支部事務所ヲ距ル二里以上ニシテ、其管理方法及收支經濟ノ不便ナルハ勿論、追テ 神宮ニ獻納ノ順序ヲ定ムルニ當テハ、之ヲ賣却スルノ手續ヲ終了セザルベカラズ、因テ其計畫ヲ考定スルニ、地所總反別千五十七坪ニシテ、一坪ノ價格金拾貳圓トシ、此金壹萬貳千六百八拾四圓ヲ得ベシ、又其建坪二百四十坪ニシテ一坪價格金參拾圓トシ、此金七千貳百圓ヲ得ベシ、其不用品賣却代金貳百四拾圓ニシテ、是皆時價ノ通塞アリト雖モ、將來漸ヲ以テ價格昇騰ノ現象ヲ呈スベシ

一 諸收入 金五千五百四拾貳圓

本科目ニ在テハ、農資二館ノ收入四個年ニ金千六百圓ト見積リ、本支部各金五千圓ヲ保有スルモノニシテ、此利子金貳千圓ヲ得、其他岡田林ノ資財金六百圓、及貸地貸家料等金百五拾圓、其他雜入等金千百九拾貳圓ヲ積算スレバ、即チ諸收入ノ員額大差ナカルベシ

自明治三十七年度 歲出豫算
至同 四十年年度 歲出豫算

一本館及建築費、向上工事
監督員給料及旅費等 金拾七萬七千九拾參圓

一 經常費 金貳萬圓

一 農業、館維持費 金八千圓

一 開館式費 金參千圓

合計金貳拾萬八千九拾參圓

歲出豫算說明

本會經營ノ目的ハ經濟ノ許ス限リ事業ヲ完成シテ、以テ速ニ 神宮ニ奉獻スルニ在リ、創業以來業務ノ進行ヲ量リ、目下徵古館建設ノ急要ニ逼レリ、今之ヲ經理スルニ於テハ、經營ノ歲月、工費ノ程度、一個年度ヲ以テ確然區域ヲ定ムルハ、頗ル至難ナルハ勿論、本會收入豫算ノ伸縮ハ素ヨリ避ク可ラザルハ、既往ニ徵シテ明白ナリ、故ニ本館ハ着手以降四個年間繼續概算ヲ編成シ、以テ其成功ヲ明治四十年年度ニ期スルノ已ム可ラザルモノアリ、斯ノ事業ヲ遂行セラル、ニ於テハ、初テ本會年來ノ目的ヲ達スルヲ得ベシ

一本館建築費 金拾萬五千圓

- 煉瓦造平屋建、建坪三百坪、一坪ニ付參百五拾圓
- 一倉庫建築費 金五千貳百五拾圓
- 煉瓦造平家^{七間}建坪二十一坪、一坪ニ付貳百五拾圓
- 一管守守衛舍宅 金八百貳拾五圓
- 木造平家建、建坪十六坪五合、一坪ニ付五拾圓
- 一便所二個所 金參百圓
- 建坪六坪、煉瓦造、一坪ニ付五拾圓
- 一下足小屋 金參百六拾圓
- 建坪九坪木造、一坪ニ付四拾圓
- 一札賣場 金八拾圓
- 建坪二坪木造、一坪ニ付四拾圓
- 一假小屋建築費 金五百圓
- 建坪二十坪建築中ノ事務所及番人小使詰所雪隠等十坪ニ付貳拾五圓
- 一門及敷地周圍煉瓦塀 金七千五百圓

金四千圓ハ敷地周圍煉瓦塀延長二百間、平均高一間ニ付金貳拾圓、金貳千圓ハ門二個所一個所ニ付壹千圓ヅ、金千五百圓ハ煉瓦塀下石積延長二百間高一間半、此坪三百坪、一坪ニ付五圓

- 一庭園費 金五千圓
- 一建築監督技師報酬其他技師給料 金壹萬千七百圓
- 技監報酬金參千圓三個年分、一個年金千圓ヅ、
- 技師給料金六千圓三個年分、一個年貳千圓ヅ、
- 技手給料金千八百圓三個年分、一個年金六百圓ヅ、
- 技手補給料金九百圓三個年分、一個年金參百圓ヅ、
- 一番人給料 金七百貳拾圓
- 二人給料月給拾圓ヅ、三個年分
- 一小使給料 金四百參拾貳圓
- 二人給料月給各六圓ヅ、三個年分
- 一旅費 金六千圓

正副會頭評議員及理事并ニ技監技師等建築ニ屬スル出張四個年分
一 諸給 金參千圓

建築上ニ付書記備事務員給料并臨時手當雇給及辨當料人力車賃等ノ見込四
個年分

一 雜費 金五千圓

陳列棚其他室內裝飾費及備品消耗費運搬費

一 事務所移築并建築費 金千八百七拾六圓

金八百七拾六圓ハ在來事務所ノ建増十二坪一坪ニ付金七拾參圓金八百圓ハ
事務所納屋等移築費一坪ニ付金八圓金貳百圓ハ事務所移轉地均并ニ樹木景
石等移轉費

一 農業館移築費建増費 金壹萬參千六百五拾圓

金壹萬圓ハ農業館平家建新築二百坪一坪ニ付五拾圓ノ見込金千六百五拾圓
ハ本館百十坪移築費一坪ニ付拾五圓ノ見込金參百圓ハ陳列模様替据付費金
參百圓ハ農業館等地均并ニ樹木景石等移築費金千四百圓ハ土藏新設費及附

屬等

一 豫備費 金壹萬圓

小以金拾七萬七千九拾參圓

一 經常費 金貳萬圓

常費一個年金五千圓ト見積四個年分

一 農業館 維持費 金八千圓

一 開館式費 金參千圓

合計金貳拾萬八千九拾參圓

右提議案可決成立ス。

右評議員會了リテ理事會ニ移リ左ノ事項ヲ決ス。

一 定期預金并當座預金飯田理事名義ノ處今般辭任ニ付會頭ノ名義ニ改ムル事
但シ當座預金出入ハ有住書記代理トシテ取扱フ事

二 例規ノ出納ハ有住書記取計一週間毎ニ取經メ安江評議員監査ノ上會頭ニ提
出スル事

- 三 田中元次郎氏會計帳簿及計算表等調査ハ本年限ノ事
- 四 飯田專務理事收支專行ハ本月中繼續ノ事
- 五 飯田專務理事辭任ノ件、東京區及山田區裁判所ニ對シ登記申請ニ係ル一切ノ行爲、委員玉井修眞書記有住教忠ヲ以テ部理代人ト定ムル事
- 六 地方委員部取扱細則第二條以下改訂ノ事

右何レモ可決ノ結果、地方委員部取扱細則第二條以下ヲ改訂スル
コト左ノ如シ。

第二條第二項中、東京本部又ハノ文字及ビ其附註ヲ削除ス

第三條ヲ削除ス

第五條第三項中、東京本部又ハノ六字ヲ削除ス以下逐條之ニ倣フ

書式第四號中、東京本部又ハノ六字ヲ削除ス

二十三日、專務理事飯田巽ノ辭任ヲ承認シ、其久シク本會ノ爲メ盡
力セシ績ヲ賞シテ金參百圓ヲ贈與ス。

撤下御物拜觀所建設設計ニ關シ盡力セル木子清敬(宮内省技師)ニ
對シ、慰勞トシテ白縮緬一疋ヲ贈與シ、又本會所有地ヲ、神宮風致林
トシテ保安林ニ編入ノ事ニ關シ盡力セル、齋藤傳五郎、江崎政忠ニ
對シ、慰勞金各貳拾圓ヲ贈與ス。

總裁殿下ヨリ、評議員小松原英太郎ニ徵古館建築委員ヲ囑託セラ
ル。本會會員臺帳ニ於ル奇特者名簿ノ記載例ヲ制定ス。

二十八日、外宮前ヨリ參宮鐵道山田停車場ニ至ル新設道路ニ關
シ、本會所有地上地ノ件(邊ニ宇治山田町ト共ニ其手續ヲ爲セシモ
ノ)三重縣知事ノ聽許指令ニ接ス。

明治三十七年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ行ヒ、内宮ニ大々
神樂ヲ奉奏シ、次デ 外宮ニ奉奏ス。

九日、客臘評議員會及理事會ノ決議ヲ以テ東京市ヲ除クノ外、各廳

府縣ノ寄附行爲ハ總テ支部ノ取扱ニ屬シ、經理規則第二條以下改正并ニ地方委員部取扱細則中總テ其牴觸スル部分ヲ改訂セルガ爲メ、之ヲ各地方委員部其他ニ通知ス。

飯田專務理事、昨年十二月限辭任ノ件、本部ハ書記有住教忠ヲ、支部ハ事務委員玉井修眞ヲ代理人トシ、一月十五日各所轄區裁判所ニ出頭セシメ、變更登記ヲ了ス。

十八日、書記有住教忠ニ專務理事代理ヲ囑託ス。

二十二日、神宮撤下御物拜觀所附屬土藏一棟、建築工事落成ノ當時ニ於テ、神宮ニ獻納ヲ出願セルモノ、此日聽許ノ指令ニ接シ、玉井事務委員、神宮司廳員立會其引繼ヲ了セリ。

二月四日、斯波評議員、支部ニ出張シ、徵古館敷地及擴張神苑地ヲ視察ス。

十五日、內務省神社局長水野鍊太郎、支部ニ到リ本會事業ノ現状ヲ問ヒ、翌日、徵古館敷地ノ實況ヲ視察ス。

神宮撤下御物拜觀所敷地及 外宮前擴張神苑地、既ニ 神宮ニ獻納ヲ出願セルモノ、二月二十九日聽許ノ指令ニ接シ、越テ三月七日、神宮司廳ハ彌宜江見清風、同矢野萬太郎、宮掌山本時重出張シ、本會ハ滿岡理事、玉井事務員、箕曲書記立會、檢地且境標ヲ施シ、境界ヲ明ニシテ引繼ヲ了ス。其獻納ヲ了セシ地域左ノ如シ。

獻納地

三重縣度會郡宇治山田町大字(町志久保)地内

一 苑地千七百六十六坪三合四勺

但樹木景石溝渠等在形ノ儘擴張苑地ノ分

同縣同郡濱郷村大字神田久志本字赤井地内

一地所五反三畝十四步

但樹木池等在形ノ儘撤下御物拜觀所ノ分

四月二日、田中理事、農業館陳列品整理ノ爲支部ニ到ル。

客年、神宮風致保安林ニ編入セラレタル琴ヶ岡、丸山、岡田林ニ對シ
三重縣廳ヨリ其施業法要領ノ通知ヲ受クルユト左ノ如シ。

保安林施業法要領

所在地 三重縣度會郡宇治山田町大字今在家(琴ヶ岡 一七三番一七四番一七五番)
山林

保安林面積 五十町六反一畝二十二步

保安林種類 風致林

伐採法 點狀擇伐

輪伐齡 五十年以上

伐採面積 一町一畝七步以下

雜產物採否 採取ヲ許ス

播植法 伐採跡地ニハ松ノ補植ヲ要ス

手入法 疎立地ニハ松ノ補植ヲ要ス

地盤保護工事

取締法 風致ヲ害スル廣告等ノ建設ヲ禁ズ

臺帳番號 九八

同

所 在 同縣同郡同町大字館町字下館(九七番)山林

保安林面積 二反三畝九步

保安林種類 風致林

伐採法 點狀擇伐

輪伐齡 二十年以上

伐採面積 一畝四步以下

雜產物採否 採取ヲ許ス

播植法 伐採跡地ニハ檜櫟類ノ補植ヲ要ス

一手入法 疎立地ニハ檜櫟ノ補植ヲ要ス

地盤保護工事

取締法 風致ヲ害スル廣告等ノ建設ヲ禁ズ

本年一月以來支部ノ調査ニ係ル徵古館敷地、農業館并ニ支部事務所移轉建築地ノ測量圖案、整頓ヲ告グ、因テ實地ヲ踏查シ、設計ヲ精察センガ爲メ、徵古館建築委員小松原英太郎、片山技監ヲ伴ヒ、支部ニ至リ、倉田山全面ニ就テ地形ヲ踏查シ、更ニ圖案ヲ製シテ建設物ノ位置、方向等ヲ定ム、皆是レ片山技監ノ考案ニ據ル所ナリ。茲ニ於テ支部所在ノ評議員、理事等ト相會シ、左ノ事項ヲ協定ス。

協定事項

一 徵古館建築費 煉瓦造三百坪

右ハ豫定額一坪金參百五拾圓總額金拾萬五千圓ト假定スト雖モ、之ヲ改訂シテ一坪金五百圓總額金拾五萬圓ト見積リ、更ニ設計ヲ爲スコト

一 徵古館敷地

右ハ新設道路ノ高低ヲ改修シ及ビ全面ヲ西方面極端ノ松林ヲ標準トシテ削リ取ル事

但シ實測ノ圖面ヲ調製シテ技監ノ手元ニ回附シ、其着手法ハ派遣ノ技師又ハ

技手ノ指揮ニ依ルコト

一 農業館敷地

右ハ徵古館敷地ト道ヲ挟ミ、西南方面ニ確定セラレタルヲ以テ、實測圖ヲ製シ前項ノ順序ニ依ル事

但地坪ハ凡千二百坪ヲ敷地トス

一 事務所移轉地

右ハ當初農業館敷地ニ假定セラレタル區域トシテ、御物拜觀所ニ達スル線路ノ西南方面ニ該當ス

但事務上ノ便宜ヲ考ヘ、更ニ技師ノ意見ヲ聞キ決定ス

一 二軒茶屋道路ニ沿ヒ地所買入ノ事

但右路線屈曲ノ個所ハ里道ニ變更等ノ成規ヲ爲ス事

一 陳列所并ニ本會所有地ノ東南極端ニ小土堤ヲ設ケ今後買收ノ地域ニ連接スル事

一本會創業以來ノ歴史編纂ノ件

但多年之ニ從事セシ人有之過半出來ノ管ニ候得共未ダ脱稿ノ分モ届出無之取調ノ事

一 宮城沿革圖ハ不明瞭ノ廉アルヲ以テ更ニ本會開設以前以後ノ沿革ヲ一目瞭然ナラシメンガ爲メ速ニ調製ヲ期スル事

但取調ノ記事等ハ寫取速ニ本部へ進達スル事

一 徵古品トシテ古金銀貨買收ノ事

但書類添付アリ

一 告知書發送ノ義ハ時局ニ鑑ミ處分方取定メ置キ度事

一 農業館敷地ノ西南方面ニ當ル里道ニ沿ヒ小土堤ヲ築立テ監理上ノ設備ヲ爲スヤ否技師検査ノ上決定ノ事

但シ他ノ方面ハ其場合ニヨリ之ヲ定ム

二十一日書記箕曲茂七ニ徵古館建築工事掛兼務ヲ命ズ。

凡ソ寄附金未納分ノ徵收ニ關シ本年以降毎年各地方委員部ニ通告書ヲ發送スベキ規定ニ改メタルモ今ヤ露國ト開戦中ナルヲ以テ本年ニ限り改正以前ノ規定ニ從ヒ委員部ニ於テ集纏ノ後本會ニ送金スルモノトシ四月二十五日之ヲ各地方委員總長ニ通牒ス。

拜啓時下益御清穆奉賀候陳者本會寄附金集纏ノ義ニ付從來不容易御配慮ヲ辱フシ昨年一月法人組織ニ改正以來成規ニ依リ告知書ヲ以テ取扱方御依頼申上候處本會之都合有之候ニ付本年ハ右改正以前ノ手續ニ從ヒ委員部ニ於テ御取纏御送金被下度此段御依頼旁申進候也

明治三十七年四月二十五日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

各府縣委員總長宛

五月三日本會歴史編纂ノ必要ヲ認メ事務委員玉井修眞ニ其編纂兼務ヲ命ジ再ビ

吉川清三郎ニ之ガ編纂員ヲ囑託シ、月手當金ヲ支給ス

二十四日、寄附行爲條款第二十四條ノ規定ニ依リ、三十六年度中本會會務成績及會計決算ノ大要ヲ、東京日々新聞、大阪毎日新聞、伊勢朝報ニ掲載報告ス

六月二十七日、滿岡專務理事、隨行員箕曲書記本部ニ出張ス、徵古館建設農業館并ニ支部事務所移轉増築工事ニ關シ、正副會頭及理事、評議員等ニ凝議センガ爲メナリ、着京以來日夜奔走、片山技監指揮ノ下ニ高山技師其圖案ヲ調製シ、支部所在地ノ職工奥野清吉ヲ召喚シテ圖面及書類ニ就キ詳具セシム。越テ七月九日、法人設立第三回ノ評議員會ヲ開クニ際シ、議ニ附シテ之ヲ決ス、來會者并ニ議題左ノ如シ

評議員男爵花房義質 小松原英太郎 田中芳男

斯波淳六郎 山崎直胤 安江孝

滿岡勇之助

監事 馬場三郎 波多野行執

外ニ徵古館建築設計者 工學博士片山東熊 建設技師高山幸次郎モ列席ス

議題

一 農業館移築及増築ノ件

一 徵古館敷地地均及道路改修土堤新設ノ件

一 建築技師技手等報酬諸給料等ノ件

一 事務所移築ノ件

一 地所拂下願及讓渡ノ件

一 特別功勞者ニ對シ報功内規ニ依リ銀盃贈與ノ件

右評議ヲ了シ原案ヲ可決セルヲ以テ、農業館并ニ支部事務所移轉工事ニ關スル監督者ノ指定ヲ會頭ニ稟請シ、七月十五日滿岡理事、箕曲書記共ニ支部ニ歸ル。

八月三日、造神宮使廳技手木村米次郎、本會工事監督ノ事ヲ諾セルヲ以テ、其囑託辭令書ヲ交付スル左ノ如シ。

木村米次郎

神苑會農業館及事務所建築監督ヲ囑託ス

明治三十七年八月三日

神苑會會頭 花房 義賢

九月十一日、大阪商業會議所内ニ開設セントスル全國荷造共進會ノ請求ニ應ジ、農業館陳列品中、肥料荷造改良圖及食鹽荷造改良圖ノ二幅ヲ出品ス。

同月十日、理事田中、桑原、滿岡、監事宇仁田等、支部ニ會シ、農業館觀覽中止ノ件ヲ協議ス、是ヨリ先キ同館及支部事務所、移轉ノ位置既ニ定リ、七月二十五日其地盤地均ニ着手ス、而シテ土工日ニ進ムヤ、館内列品ノ撤去并ニ運搬ヲ要シ、從ウテ工事落成ニ至ル迄觀覽ニ供スルコト能ハズ。此日工事監督木村技手ニ就キテ工程ヲ概察シ、運搬ノ方法ヲ講シ、以テ觀覽中止ノ順序ヲ評定ス。

從來、神宮奉齋會贊成員ニ對シ、賓日、農業兩館ノ無料觀覽ヲ允許セシハ、嘗テ該會ト契約スル所アルニ因ル。然レドモ該會其條約ヲ履

行セザルガ爲メ、本年七月十一日、無料觀覽ヲ謝絶シ、後九月ニ至リ再ビ交渉シテ前約ニ復ス。

覺書

一 神苑會ハ神宮奉齋會特別贊成員ニ、神苑會所管賓日館及農業館、并ニ通常贊成員ニ、農業館ノ無料觀覽ヲ允許スル事

一 神宮奉齋會ハ來ル明治三十八年ヨリ毎年金壹千圓宛神苑會ニ寄附スル事

明治三十七年九月

神苑會會頭 氏 名印

神宮奉齋會會長 氏 名印

法人組織設立以降、制定ノ條規ニ據リ、會員臺帳、奇特者名簿ノ整理手續ヲ定メ、客臘以來筆工ヲシテ謄寫ニ從事セシメ、本年九月ニ至リテ悉ク整頓ス。

十月十二日、理事會ヲ支部ニ開キ、田中、桑原、太田、滿岡ノ四理事及宇仁田監事等出頭、左ノ事件ヲ協議ス。

協 議 題

一 農業館庭園設計ニ係ル件

一 事務所移築敷地内ニ於テ各構造ノ位置并ニ庭園經營ニ關スル件

一 徵古館敷地漸々荒蕪ニ至リ、現状ノ如クニシテ過グルトキハ、農業館落成シ公衆來觀ノ際、體面ヲ損スルコトアルベキヲ以テ、農業館及事務所ノ地盤ト照應シテ體裁ヲ保テ得ルマデニ地面鋤取ノ方針ヲ定ムル事

二十日、農業館移築中、同館ヲ閉ザ公衆ノ觀覽ヲ停止スベキ旨、各府縣委員總長ニ通知ス。

二十五日、五二會館ニ理事會ヲ開催シ、農業館庭園設計其他工事ニ係ル豫算ヲ議定ス、滿岡、太田、田中、桑原ノ四理事及ビ宇仁、田、監事等出席セリ。

十一月六日、太田理事東上シテ本會全體ニ關スル改革、及元農業館附屬ノ工藝館ヲ倉田山ニ移築シ、之ヲ徵古館ノ倉庫ニ充ツベキ件

等ヲ提議シ、正副會頭、小松原評議員ニ協商ス。尋デ滿岡理事、會頭ノ命ヲ承ケ箕曲書記ヲ隨ヘテ上京シ、太田理事ト共ニ理事會、評議員會ノ準備ニ從事ス。既ニシテ提議案全ク整ヒ、同月二十六日、評議員會ニ於テ左ノ事件ヲ決定セリ。蓋急著經常費ノ節約ヲ行ヒ、併テ事業ノ進行ヲ期センガ爲メナリ。今ヤ日露戰役ノ爲メ一般經濟界ニ打擊ヲ蒙リ、寄附金ノ集纏ニ支障ヲ生ジ、補助金ノ交付減縮ヲ來シ、勢徵古館ノ起工ヲ延期シ、以テ徐ロニ時局ノ回復ヲ待タザルヲ得ザルニ至レリ、是レ此改革ヲ斷行スルノ已ムベカラザル所以ナリ。即チ之ヲ前年度ノ豫算ニ比シ、經常費ニ於テ七千九百五拾貳圓餘ノ減少ヲ告グ。

一 東京ニ在ル本部ヲ三重事務所ニ移シ、同時ニ三重支部ヲ廢スル事

一 資日館ヲ廢スル事

一 徵古館ノ倉庫ヲ以テ當分假徵古館ニ充用スル事

一 事務所ニ改革ヲ行フ事

一 專務理事報酬額四百圓ヲ自今參百六拾圓ニ減シ、事務委員月給貳拾六圓ヲ貳拾參圓ニ減ズル事

一 元農業館ニ附屬セシ建物不用ニ屬スル分、廊下等ヲ賣却スル事

一 倉田山農業館敷地續キ、橋川佐太郎所有地二反三畝歩、立木共代金百八拾圓ヲ以テ買入ル、事

右決定ノ結果、寄附行爲條款其他規則ノ變更スベキモノヲ評決改正スルコト左ノ如シ。但此改正ニ際シ、賓日館規則ヲ廢シ、更ニ徵古館規則ヲ定ム。

寄附行爲條款改正

第四條 本會ノ事務所ヲ三重縣度會郡宇治山田町大字豐川町百九十番地ニ置ク

第十三條 專務理事(二名)ヲ一名ニ改メ末項ノ(各其ノ)二字ヲ削ル

經理規則中改正

第二條 本會ハ事務所ヲ三重縣度會郡宇治山田町ニ置キ、會務及事業ノ實施ヲ管

理シ、又各地方ニ委員部ヲ置キ、地方ニ係ル會員募集寄附金徵收其他臨時ノ會務ヲ處辨ス

第三條 寄附行爲條款ニ定メタル外、事務所ニ左ノ役員ヲ置ク

事務委員 一名

命ヲ理事ニ承ケ會務ヲ處理ス

書記 二名

命ヲ理事ニ承ケ會務ニ從事ス

管 守 二名

命ヲ理事ニ承ケ、徵古館農業館ヲ管守ス

備事務員 若干名

任務書記ニ亞グ

守 衛 若干名

徵古館農業館ノ守衛ニ從事ス

右ノ外、使役ニ供スル爲メ小使ヲ置ク

事務委員以下ハ會頭之ヲ命ズ

第八條 會計ハ事務所ニ計算簿出納簿ヲ置ク

第九條 會計ハ收支科目ヲ定メテ計理ス、貸借科目ハ款ヲ以テ種別シ、而シテ經濟上分計スルノ必要アルモノハ、款中ニ項ヲ分ツ、收支科目ハ貸借科目ニ聯絡シ項ヲ以テ類別シ、而シテ計理上分計スルノ必要アルモノハ、項中ニ目ヲ分ツ

第十五條 毎年度豫算調了期出納閉鎖期決算整了期ヲ左ノ如ク定ム

豫算調了期 前年十一月十五日

出納閉鎖期 翌年一月三十一日

決算整了期 翌年二月末日

第十七條 會員ノ名籍及寄附金額ヲ明カニスル爲メ、臺帳ヲ備ヘ、又寄附金五圓未満奇特者ノ名籍及寄附金額ヲ明ニスル爲メ、名簿ヲ備ヘテ之ヲ登錄ス、其帳簿ハ調査及待遇ノ便ニ供スル爲メ事務所ニ備ヘ置クベシ

第十八條 (本部印及支部印)ノ七字ヲ削リ(事務所印)ノ四字ヲ挿入ス

第十九條 第二十條中ニ(本支部)ノ三字ヲ削リ(事務所)ノ三字ヲ挿入ス

本會會員證牌及待遇規則中改正

第十三條中(支部)ノ二字ヲ削リ(事務所)ノ三字ヲ挿入ス

第十六條中(資日館)ノ三字ヲ削リ(徵古館)ノ三字ヲ挿入ス

第十七條ヲ削リ第十八條ヲ第十七條トス

贈給規則中改正

第九條 東京市内、宇治山田町ニ於テ役員會用ノ爲メ乗車スルコトアルモ、乗車賃ヲ支給セズ、但 皇族其他貴賓參宮ノ場合ニ於テ送迎隨行ヲ要スルトキハ、特ニ乗車實費ヲ支給スルコトヲ得
旅行先滞在中、其市町村内ヲ會用ニテ奔走スルトキハ、乗車賃ヲ支給スルコトアルベシ、事務所ヨリ二見浦へ出張ヲ要スルトキハ、電車賃及辨當料ヲ支給スルコトヲ得

農業館規則中改正

第十六條中(附屬)ノ二字ヲ削ル

地方委員部取扱細則中改正

第一條 中但以下三十四字ヲ削除ス

第二條 本條以下各條共支部ノ二字ヲ削リ(事務所ノ三字ヲ挿入ス

賓日館規則ヲ廢シ更ニ左ノ規則ヲ設ク

神苑會徵古館規則

第一條 本館ハ度會郡倉田山ニ置キ、徵古ノ物品ヲ陳列シ、衆人ノ觀覽ニ供ス

第二條 凡ソ本館ニ物品ヲ寄贈シ若クハ出陳センコトヲ欲スル有志者アルトキ

ハ、之ニ應ズベシト雖モ、其種質又ハ陳列ノ都合ニヨリ謝絶スルコトアルベシ

第三條 前條寄贈ノ物品ニシテ、荷造運搬ニ係ル費用支辨ハ本會ト寄贈者ト協議

ノ上之ヲ定ム

但出陳物ノ運搬費ハ出品者ノ支辨トス

第四條 第二條ノ物品ニハ品主ノ廳府縣國郡町村氏名物名員數ヲ記シ、且ツ成ル

ベク詳細ナル説明書ノ添付ヲ要ス

第五條 第二條ノ寄贈若クハ出陳ノ物品ハ、本館ニ於テ保護スベシト雖モ、運搬中

ノ破損及不慮ノ災害ハ本館其責ニ任ゼズ

第六條 本館ハ常時開館ス、其時限左ノ如シ但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

自四月一日至九月三十日、午前八時開館、午後五時閉館

自十月一日至三月三十一日、午前八時開館、午後五時閉館

第七條 觀覽人ハ觀覽券ヲ携フベシ、其觀覽券料ハ參錢トス

但十五歳未満七歳以上ハ半額、七歳未満ハ無料トス

第八條 本館ハ本會ノ招待スル客員并ニ會員及奇特者ニシテ其證ヲ携帶スルト

キハ、觀覽券ヲ要セズ

神宮皇學館其他ノ學校教員生徒、學術上研究ノ爲メ觀覽ヲ乞フトキハ、其學校ノ

制服ヲ着用セシ者又ハ其學校ノ證明書ヲ携帶スル者ニ限り、觀覽券ヲ要セズ

第九條 白痴、瘋癲、爛醉者及傳染病アリト認ムルモノハ觀覽ヲ謝絶スルコトアル

ベシ

第十條 觀覽人ノ携帶物若シ陳列品ニ障害アリト認ムルトキハ、之ヲ制止スルコ

トアルベシ

第十一條 館内ニ於テ禁止スベキ條件左ノ如シ

- 一 喫煙スル事
- 一 物品ニ手ヲ觸ル、事
- 一 動物ヲ牽入ル、事
- 一 下駄ヲ穿テ傘杖ヲ携帯スル事
- 一 喧噪奔馳其他遊戯ケ間敷事

第十二條 物品ヲ手ニ取り若クハ試用セント欲スルモノハ本館ノ承諾ヲ請フベシ

第十三條 觀覽者誤リテ物品ヲ毀損スルトキハ相當代價ヲ辨償セシム
但物品全ク破損シ全部ノ償金ヲ辨納セシムルモ毀損品ハ本館ニ留ム

右ノ改革實行ト共ニ、經常費大ニ減シ工事ノ進行ニ裨補ヲ與ヘシ
ユト鮮少ナラズ。

十二月一日、三重支部ヲ廢シ本部事務所ヲ三重ニ移スノ件、内務大臣ノ認可ヲ得タリ。爰ニ明治二十二年四月以降、事務所ヲ東京、三重

ノ兩地ニ置キ、東京ヲ以テ本部トセシ者、茲ニ至リテ悉ク三重ニ併一シ、自今本支部ノ稱ヲ用キズ、單ニ事務所ヲ三重ノ一個所トス。越テ四日、元東京本部ノ事務及保管財産一切ヲ專務理事滿岡勇之助ニ繼承セリ。

同月六日、本部事務所ヲ三重ニ移轉ノ件、所轄區裁判所ニ登記ヲ了ス、此改革ニ隨ヒ左ノ諸員辭任ス

- 書記 有住 教忠
- 書記 新藤 太重郎
- 備事務員 河野 理
- 以上元本部諸タリシ者
- 書記 小川 演正
- 書記 高橋 武治
- 書記 野田 善三郎
- 以上元支部諸タリシ者
- 管守 村井 與四郎
- 守 衛 坂本 一策

守 衛 落 合 健 吾 守 衛 青 山 重 太 郎

以上元支部ニ於テ賓日館農業館等ニ勤務セシ者

右ハ從來會務ニ懇篤從事セシモノナルヲ以テ、各勤務年數ニ應ジタル贈給及ビ慰勞金ヲ交付ス。

明治三十八年一月一日、例ニ依リ新年拜賀式ヲ舉行シ、内宮ニ於テ大々神樂ヲ奉奏シ、次デ二日 外宮ニ於テ大々神樂ヲ奉奏ス。

六日、農業館整理ノ爲、田中理事來リテ之ニ從事ス。

十一日、農業館移築工事着々進捗シ、本日上棟式ヲ舉グ。

三重縣知事古莊嘉門、其官職ヲ罷メタルヲ以テ本會委員總長ヲ辭任シ、後任知事有松英義ニ三重縣委員總長ヲ囑託ス。

同月十七日、神宮造營御用材ヲ農業館ニ陳列シ、林業上ノ參考ニ資シ、觀覽者ニ利益ヲ與ヘント欲スルノ主旨ヲ以テ、客年十一月其

願書ヲ神宮司廳ニ提出セシニ對シ、本日聽許ノ指令ニ接セリ。此後二月八日ニ至リテ其保管方法ヲ提出シ、後又十二月ニ至リテ現品ヲ交付セラレ。

本發第三三六號

神宮式年御造營御材木ハ本會山ノ枡材ヲ選用セラレ、其用材タル年所二三百年以上ノモノニシテ、斯道ノ參考上裨益不尠モノト奉存候、就テハ本會所管農業館列品中ニ於テ、山林ハ其一部分ニシテ、從來公衆斯道者ニ對シ、廣ク列品蒐集致居候、然ルニ該館列品モ年ヲ逐ヒテ増加シ目下移轉改築中ニ有之候折柄、右御用材ハ前記ノ如ク斯道者ニ對シテハ最モ必要不可缺材料ト相認メ候ニ付、模範ト仕度次第ニ有之候間、其筋ヘ可然御照會相當ノ手續ヲ以テ特ニ御下附相成候様御取扱被下度此段奉願候也

明治三十七年十一月十日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

神宮大宮司伯爵 冷 泉 爲 紀 殿

七三 指令第六一號

第八編 法人第一期 明治三十八年

神 苑 會

明治三十七年十一月十日第三三六號出願、神宮式年御造營御用材ノ標本ヲ農業館
へ陳列ノ爲下付ノ件、内務大臣へ稟請候處、聞届ラレ候條、追テ該木片鼻切等、造神宮
使廳ヨリ交付有之候ハ、當廳ヨリ下付可致候條、豫メ其保管方法ヲ考究シ詳細申
出ベシ

明治三十八年一月十六日

神宮大宮司伯爵 冷 泉 爲 紀

第二九號

神宮式年御造營御用材ノ標本、所管農業館へ陳列ノ爲御下付ノ義、客年十一月十日
付本發第三三六號ヲ以テ願出候處、本年一月十六日付指令第六一號ヲ以テ被聽届
其保管方法更ニ可申出御指令ノ趣拜承、御下付ノ上ハ左記ノ方法ニ據リ保管可仕
候、此段稟申候也

明治三十八年二月八日

神苑會會頭男爵 花 房 義 質

神宮大宮司伯爵 冷 泉 爲 紀 殿

保管ノ方法

一 御用材標本ハ、農業館内木材類ノ場所ニ於テ、適當ノ地ヲ選ミ陳列シ、他物ト區別
スベキ事

一 御造營御用材標本ナルコトヲ明細ニ標示シテ、何人ニモ分リ易キ様ニスベキ事

一 右標本ノ陳列ハ一區域ヲ定メ、硝子戸ヲ張リテ人手ヲ觸レシメズ、且汚漬塵穢ヲ
防グベキ事

一 右標本ハ守衛ヲシテ特ニ注意シ、保管ノ安全ヲ圖ラシムベキ事
以上

七三 甲 第二一號ノ八

一 檜材鼻切 但二度切徑(三^尺九^寸五^分)厚五寸 一個

明治三十五年六月木曾御料林吾妻村字水上ニ於テ伐採

一 檜材鼻切 徑三尺二寸 長二尺六寸 一個

明治三十六年八月木曾御料林加子母村字出ノ小路ニ於テ伐採

一 檜材鼻切 但三度切徑三尺二寸 長一尺 一個

明治三十五年十月木曾御料林吾妻村字水上ニ於テ伐採

一 槍材鼻切 徑三尺五寸 長一尺七寸 一個

明治三十五年六月木會御料林吾妻村字男垂シニ於テ伐採

右神宮御造營材標本トシテ今般造神宮副使ヨリ當廳ヘ引渡相成候ニ付、農業館ニ

陳列ノ爲メ、及交付候條兼テ申出ノ通保管可有之候也

但現品ハ追テ可引渡候條受領ノ上、其證差出可有之候也

明治三十八年十二月二十七日

神宮大宮司子爵 三室戸 和光

神苑會會頭男爵 花房 義賢殿

三月八日、事務委員兼編纂委員玉井修眞ノ辭職ヲ聽許シ、勤務年數ニ對スル贈給及ビ慰勞金ヲ交付ス。

十五日、元支部書記野田善三郎ヲ備事務員ニ採用ス。

容年十一月二十六日評議員會ニ於テ、賓日館貸與ノ方針ヲ決定スルヤ、二見村若松德平ニ對シ、借用料年額六百圓ヲ以テ貸借契約ヲ遂グ。蓋同人ハ開館以來功勞尠ナカラザルノミナラズ、其住居相隣

接シ、能ク館舍保存ヲ托スルニ適セル者ナリ、而シテ契約既ニ成ルヤ、日露戰役ニ會シテ頓ニ旅客ノ減少ヲ告ゲ、加フルニ該館ヲ以テ戰地後送ニ係ル傷病兵士ノ轉地療養所ニ充用セラル、等、當初借用ノ目的ニ變動ヲ生シ、爲ニ借家料ノ減額ヲ懇請シ來ル。本會其情ヲ酌ミ認諾セリ、其後又能ク當初ノ借家料ヲ收得スルニ至ラズ。神宮司廳補助金、明治三十七年度分壹萬五千圓ノ内、七百圓ヲ撤下御物拜觀所建設ノ爲、該廳ニ納メ、殘額壹萬四千參百圓ノ交付ヲ受ヘキ豫定ナリシト雖モ、日露戰役中、同年度ニ對スル神宮別途收入金額ル減少セシノ故ヲ以テ、金四千參百圓ヲ交付セラル、ノ止ムベカラザルニ會ス。

二十七日、農業館管守榊原正吉ノ病氣辭職ヲ聽許シ、勤務年數ニ應ゼル贈給及慰勞金ヲ贈與ス。

右榑原正吉退職ニヨリ横地幸重ヲ其後任ニ採用ス。
二十八日、倉田山ニ於ル農業館建築、内部竣工ノ爲メ、田中理事監督ノ下ニ物品陳列ニ着手ス。

四月十二日、周布副會頭來リテ滿岡、太田兩理事ト會務ヲ協議シ、翌十三日倉田山ニ於ル農業館及徵古館附屬倉庫ノ建築工事ヲ視察シテ去ル。

五月二日、安江評議員來リテ本年度内ノ會計事務ヲ視察シ、其夜理事、監事等ノ五二會館ニ開催セル協議會ニ列席ス。

内務大臣子爵芳川顯正、神宮御造營事務視察ノ爲出張中、五月二十一日ヲ以テ有松知事、水野神社局長其他ノ隨行員ヲ率キ神苑巡視ノ後、目下經營ニ係ル徵古館建設敷地、農業館并ニ本會事務所建築工事ノ實況ヲ視察シ、倉田山全圖及徵古館建築設計圖、道廳府縣

寄附成績表等ニ就キテ太田、滿岡兩理事ノ説明ヲ聽取セラル。

六月三日、土木工事設計、農業館開館式順序等審議ノ爲理事會ヲ開キ、田中、桑原、太田、滿岡等、出席シテ左ノ件ヲ評決ス。

一 農業館及假徵古館開館式ハ七月三十日ニ舉行スルコト、附式場ノ準備ニ係ル一切ノ件

一 假徵古館、農業館各規則ノ依ルベキモノアルモ、其細節ニ至リテハ內規トシテ細則ヲ制定スベキノ必要アリ、因テ之ヲ制定スルコト

一 守衛ニ制服制帽ヲ給スルコト

右評決第二項ニヨリ左ノ內規ヲ定メ、開館ヲ期シテ實行スルモノトス。

假徵古館內規

一 假徵古館ハ徵古館規則ニ依リ處理スベシト雖モ、館内ニ於テ執務上細目ヲ明ニシ、常ニ服膺ノ必要有之、其事項左ノ如シ

二、館内ニ左ノ帳簿ヲ備置クベキコト

一 観覧券受取簿

一 観覧人計算簿

三、同館ハ管守一人、守衛二人ヲ以テ定員トス、守衛一人ハ樓上ニ、一人ハ樓下出入口ノ職卓ニ就キ、観覧人入館ノ際其券ヲ點檢シ、退館ノ際又其券ヲ受取之ヲ帳簿(観覧券受取簿)ニ記載シ、而シテ毎月大小二種ヲ分チ總數計算ノ上、帳簿(観覧人計算簿)ニ記載シ、管守ニ差出スベキ事、但守衛樓上樓下擔務ハ隔月交替スルモノトス

四、管守ハ前項ノ観覧券ヲ毎日事務所ニ差出シ、帳簿(観覧券計算簿)ニ事務員ノ檢印ヲ受クベキ事

五、會員又ハ特別券ヲ以テ観覧スルモノアルトキハ、記帳ノ手續前項ニ同ジ

六、特別待遇ヲ爲スベキ観覧人ニシテ事務所ヨリ通知スルトキハ、管守又ハ守衛ニ於テ案内ヲ爲シ、或ハ列品ニ就キ説明ヲナスベキ事

七、管守ハ観覧人ノ人員ヲ毎月計算シ、年計表ノ材料ニ備ヘ置クベキ事

八、管守ハ観覧人ヲシテ本館規則ヲ遵守セシムベキハ勿論、深切ヲ旨トシ決シテ威

權ケ間敷振舞ナカルベキ事

九、観覧人ハ可成館内指導札ノ順序ニ依ラシムベキコト、又學校生徒等團體一時群集シ、危険ノ虞アルトキハ、適宜注意ヲ加ヘ、観覧人ヲ制限シ、或ハ謝絶スル等、臨機ノ處分ヲ爲スベキ事

十、館外ニ喫煙ノ設ケアルヲ以テ、館員亦之ニ倣フベシ

但寒氣ノ節、火具ヲ備ヘ溫度ヲ取ルト雖モ、之ニ就テ喫煙スルヲ禁ズ、其他退館ノ際、火具ヲ館外ニ出スベキコトハ最モ嚴守スベシ

十一、陳列物品ノ損傷或ハ紛失アルコトヲ發見シタルトキハ、守衛ハ管守ニ報告シ、管守ハ取調ノ上、事務所ニ通報スベキ事

十二、観覧人發病又ハ怪我人アルトキハ、事務所ニ通報シ、醫師ノ手當ヲ爲スベキ事

十三、守衛ハ同館ノ開閉規則ニ依ルハ勿論ナリト雖モ、定刻三十分前ニ出勤シ三十分後ニ退勤スベキ事

十四、閉館定刻ニ際シ、既ニ入館シタル観覧人及ビ定刻前観覧券ヲ買得シタル観覧人ニ對シテハ、定刻後凡三十分ノ猶豫ヲ爲スベキ事

十五、館内毎日掃除ヲ爲シ、毎週一回ハ大掃除ヲナスベキ事

但観覧人ノ妨ゲトナラザル様注意スベキ事

十六、館ノ周圍ニ在ル植物ヲ折リ、又ハ拔採ル等ノ所爲ナキ様注意スベキ事

十七、館内ノ窓戸ハ氣候ノ乾濕ト風雨ノ模様ヲ見計ヒ開閉スベシ、夜分ハ閉鎖スルヲ要ス

十八、管守守衛ハ勤務中一定ノ帽并ニ制服ヲ着用スベキ事

農業館内規

一、農業館ハ農業館規則ノ制定アルヲ以テ、夫レニ依リ處理スルハ當然ナリト雖モ、

尙細目ヲ要シ且處理スルノ方針ヲ定ムル爲メ、茲ニ列舉スルコト左ノ如シ

二、農業館ハ管守一人守衛四人ヲ定員トス、守衛ハ二人宛甲乙二組トナシ、入口出口

ヲ分掌スルノ外、列品ヲ看守スルモノトシ、互ニ緩急相援クベキ事

三、甲ハ観覧者ノ入館スル際ニ其券ヲ點檢計算シ、總數ヲ大小二種ニ分テ帳簿(観覧

人計算簿)ニ記載シ、毎日管守ニ報告シ其檢印ヲ受クベキ事

四、乙ハ観覧者ノ出館スル際ニ異狀ナキヲ認メ其券ヲ受取り、總數ヲ大小二種ニ分

テ帳簿(観覧券受取簿)ニ記載シ、毎日管守ニ報告スル事

五、管守ハ毎翌朝観覧券ヲ事務所へ出シ、帳簿ニ事務所員ノ檢印ヲ受クベシ

六、観覧券ノ外、會員證ニヨリ又ハ特別券ヲ以テ入館スル者ハ、別ニ帳簿ニ記載スベ

シ、其手續ハ普通観覧券ニ略同シキ事

七、管守ハ観覧人ノ員數ヲ日計月計トスベク、年計ハ會頭へ報告スルノ材料トナルベキ事

八、観覧人ニ對シテハ、本館規則ヲ遵奉セシムベキモ、深切ヲ旨トシ決シテ威權ケ間

敷振舞ナカルベキ事

九、観覧人ハ館内指導札ノ順序ニヨリ巡覽スルハ當然ナレドモ、原ヨリ任意タルベ

ク、又内園後園へ出デ植物ヲ見ルヲ得ベキ事

十、學校生徒等観覧人ノ團體一時ニ群集シ、危険ノ虞アルトキハ適宜ノ注意ヲ加ヘ

或ハ観覧ヲ制限シ或ハ入館ヲ停止スル等、臨機ノ處分ヲナスベキ事

十一、喫煙ハ内園後園ニ於テ爲スヲ得ベシ、且喫煙席ノ設ケアリ、故ニ館員ノ如キモ

夫ニ倣フベシ、但寒氣ノ節ハ温ヲ取ルノ具ヲ用フルモ喫煙ニ供スルヲ得ズ、而シ

テ退出ノ際ハ火具ハ總テ館外ニ出スベキ事

十二 便所及飲料水ハ指導ノ札ヲ立ツルモ毎ニ注意ヲ要スル事

十三 井戸ニハ唧筒ヲ備ヘテ蓋ヲ爲スヲ以テ之ヲ用フルヲ得ベキモ、観覧人ニハ之

ニ觸レシメザル爲メ鎖鑰ヲ施スベキ事

十四 貯水池ハ危険ノ虞アレバ防禦ノ備ヲナスモ尙注意ヲ要スル事

十五 便所ノ手洗水ハ貯蓄ノ準備アレバ漸次補給シ、缺乏セシメザル事

十六 喫煙席ノ火ハ毎朝之ヲ備ヘ退出ノ際ニ館外ヘ持出スベキモ、消耗セザル様ニ

注意スベキ事

十七 喫煙席ノ火、便所ノ手洗水、飲用水、園内植物等ノ注意ニハ守衛ノ分擔ヲ定メ置

クベキ事

十八 守衛ハ観覧人ノ都合ヲ計リ物品ノ整理ニ従事シ、又ハ附札及ビ説明書ノ損傷

脱落等ニ注意スベシ、是亦甲乙適宜ニ區別シ分擔ヲ定ムベキ事

十九 管守ハ時宜ニ依リ守衛ノ組合ヲ變更シ、受持箇所ノ交替ヲ爲スコトアルベシ

二十 列品及ビ植物ニ臨時手入ヲ要スルトキハ、管守ハ守衛又園丁ヘ命ズベキ事

二十一 毎日掃除ヲ爲シ、毎週一回ハ大掃除ヲナスベキモ、成ベク観覧人ノ妨トナラザル様ニスベキ事

二十二 観覧人ヲシテ植物ヲ折リ又抜キ採ル等ノ所爲ナカラシムベキ事

二十三 陳列物品ノ損傷或ハ紛失セルヲ發見シタルトキハ、守衛ハ管守ニ報告シ、管

守ハ取調ノ上事務所ニ通報スル事

二十四 發病又ハ怪我人アレバ、事務所ヘ通報シ、醫師ヲ要スル場合ハ山田病院ヘ依

頼スベキ事

二十五 館ノ内外ニ不慮ノ事アラバ、守衛ハ管守ニ通告スベク、時宜ニ依リ事務所ニ

通報スベキ事

二十六 館内各員間ノ通信ハ通話器ヲ以テ用辨スベク、尙館ト事務所トノ間ニモ亦

其装置ヲ備フルニヨリ、成ルベク緩急共ニ使用シ、時間ヲ消費セザル事

二十七 館ノ開閉ハ規則ニ従フベキモ、朝ハ定刻前三十分ニ出デ、夕ハ三十分後マデ

殘リテ閉鎖スベク、鎖鑰ノ管理ハ特ニ注意ヲ要スル事

二十八 閉館前ニ入館スル観覧人アルトキハ、凡三十分許ノ猶豫ヲナスベキ事

- 二十九、館ニ備フル時計ハ時ヲ正クシ誤リナキヲ要ス
- 三十、事務所ヨリ特ニ通知アル観覧人ニ對シテハ、管守又ハ守衛ニ於テ案内ヲ爲シ或ハ説明ヲ爲スベキ事
- 三十一、貴顯紳士ノ來館若クハ不慮ノ事項又ハ改良ヲ圖リ、或ハ新案修理スル件、并ニ物品ノ補足、名稱ノ改訂、説明ノ不備等ヲ氣附シトキハ日記ヘ登載シ、他日ノ考慮ヲ要スベキモ、重大ノ件ハ速ニ處理スベキ事
- 三十二、農業館陳列ノ物品ハ、分類表并ニ其説明ニヨリ詳細ヲ知リテ處理スベキ事
- 三十三、寄贈物品アルトキハ、寄贈者ノ姓名宿所ヨリ、物品ノ名稱、製産ノ地名、或ハ製作者ノ姓名ヲ正シ價格ヲ問ヒ、若クハ評定シテ帳簿ニ記載シ番號ヲ附スベク、夫ニ關スル來狀等ハ別ニ綴込ミ保存スベキ事
- 三十四、寄贈者ニハ受領證ヲ發シ又ハ謝狀ヲ送ル等、例規ニ依ルベキ事
- 三十五、陳列上必需品ヲ買上グルニハ、買物手續ヲ了シ、其名稱、製产地等ヲ正シテ帳簿ニ記載スルハ前條ニ同ジキ事
- 三十六、物品ノ年計ハ寄贈ト買上トニ分ツ、但貴重物品ノ寄贈ハ特ニ報告スベキ事

- 三十七、名稱ノミニテ性質效用等ヲ辨ズル能ハザル物品ハ、其説明ヲ要スルヲ以テ寄贈者ニ問ヒ、又ハ賣主ニ詢リテ、簡明ニ記載スベキ事
 - 三十八、物品附札ノ記載ハ例規ニ依リテ認ムベク、説明ノ簡短ナルハ附札ニ記入スルモ、詳細ナルモノハ別ニ記載シテ掲出スベキ事
 - 三十九、館ノ窓戸ハ氣候ノ乾濕ト風雨ノ模様ヲ見計ヒ開閉スベク、夜分ハ閉鎖スルハ當然ナレドモ、或ハ開放ヲ要スベキコト
 - 四十、守衛ハ一定ノ制服ヲ支給スベキニヨリ、勤務ノ節ハ必ず服用スベキモノトス、但管守ハ制帽ノミ支給アルベキコト
- 観覧券賣捌人心得
- 一、賣捌人ハ毎日賣捌所ニ勤務シ観覧人來所ノ順序ニ從ヒ、観覧料引換ニ観覧券ヲ相渡スベキコト
 - 一、賣捌人ハ観覧券自何號至何號ヲ豫メ事務所ヨリ受取置キ、賣券濟ミ屢次受取、其都度之ヲ帳簿ニ記載シ事務員ノ檢印ヲ受ケ置クベキコト
 - 一、徵古館、農業館ノ開閉ハ、同規則ニ遵ヒ其開館三十分前ニ賣捌所ニ出頭シ、閉館後

ハ火具其他帳簿類ヲ事務所宿直ニ保管方申出翌日出所ノ際又之ヲ受取ルベキ事

一當日賣捌タル観覧券ハ、観覧料ト對照シ之ヲ帳簿ニ記載シ、現金ニ封印ノ儘事務所宿直ニ預ケ置キ、宿直ノ檢印ヲ受置、翌日宿直ヨリ又之ヲ受取、主任ニ納入スベキ事

一観覧人ニ於テ撤下御物拜觀所及假徴古館、農業館巡覽ノ便否若クハ、兩宮參拜ノ道順等尋テ出タルトキハ、懇切ニ指示スベキ事、

右ノ外渾テ本會諸規則及假徴古館、農業館内規等豫テ心得置クベキ事

神苑會事務所當直心得

第一項 宿直ハ退出時間ヨリ、翌日出勤時間迄ヲ以テ定限トシ、當直ハ大祭祝日、休日等其日ノ出勤時間ヨリ退出時間迄ヲ以テ定限トス

第二項 宿直ハ書記、備事務員及管守、守衛交替シテ勤ムベシ

但當直ハ本文管守、守衛ヲ除キ事務員ニ於テ交替スルモノトス

第三項 當直簿ヲ備置、宿直者ノ氏名年月日并ニ定限中ニ生ジタル事故ノ概要ヲ

記載シ置クベシ

第四項 宿直及當直中接手シタル文書ニシテ、親展書ハ直チニ宛名ノ向ニ送致シ、其他ハ開披シテ至急ヲ要スルモノト認ムル分ハ各主任ニ交付シ、渾テ送附簿ニ

記載シ受領ノ認印ヲ受ケ置クベシ、但本文文書ノ外ハ翌日各主任ニ交付スベキモノトス

第五項 寄附金ヲ領收シタルトキハ、一定ノ領收證書用紙ニ式ノ如ク記入シ寄附者ニ交付シ、金員ハ翌日主任ニ引渡スベシ

但物品ノ寄附アルトキ亦同ジ

第六項 宿直及當直中文書發送ノ豫備トシテ郵便切手ヲ受取置キ、發送ノ都度其員數及事由ヲ帳簿ニ記シテ、翌日主任ニ引渡スベシ

第七項 観覧券賣捌人ヨリ観覧料保管申出タルトキハ、封印ノ儘之ヲ預リ置、其帳簿ニ檢印ヲ爲スベシ

第八項 暴風雨其他非常ノ場合ハ、假徴古館及農業館ハ勿論、總テ防備ニ注意スベシ

第九項 出張若クハ病氣引籠等ニテ宿直ノ順番ヲ過ギ去リタルモノハ、歸所又ハ出勤ノ日ヨリ二日目ニ相勤ムベシ

第十項 當直宿直者ニシテ病氣ヲ發シ缺勤セントスルトキハ、次番ノモノニ通ジ交番退出スベシ

十四日、假徴古館建築工事竣リ、物品陳列整頓ヲ要スルガ爲メ、元賓日館管守村井與四郎ヲ假徴古館管守ニ、同守衛落合健吾ヲ同守衛ニ任命ス。

客年八月以來、工事監督ヲ囑託セル造神宮技手木村米次郎ノ督勵ニ依リ、農業館并ニ本會事務所移轉工事既ニ竣功ヲ告ゲ、六月十四日ヲ以テ之ヲ解囑ス。

二十三日、農業館開館式舉行ニ關シテ理事協議會ヲ開キ、其評決ノ件ヲ齎シ會頭ノ裁決ヲ請ハンガ爲メ、田中理事此日東上ス。

此月、本會事務所ヲ倉田山ニ移轉ス、右移轉ノ爲、寄附行爲條款中改

正ノ件ヲ内務大臣ニ申請シ、本月二十八日認可指令ヲ得タリ。

内務省指令三戊第四四號

三重縣度會郡宇治山田町大字豊川町
百九十番地

神 苑 會

本年六月二十一日第一〇六號願寄附行爲條款中第四ヲ、本會事務所ヲ三重縣度會郡四鄉村大字楠部十三番地ニ置クト變更ノ件認可ス

明治三十八年六月二十八日

内務大臣子爵 芳 川 顯 正

事務所移轉ノ爲、寄附行爲條款中改正ノ點、本月三十日箕曲書記ヲ代理人トシテ、山田區裁判所ノ登記ヲ了セリ。

七月十一日、農業館守衛杉田十吉ノ職務ヲ免シ、翌十二日、徴古館農業館守衛ニ制服制帽ヲ給シ、管守ニハ制帽ノミヲ給ス、越テ二十日楠田兵治ヲ徴古館守衛ニ、堀宗太郎、西岡卯之助ヲ農業館守衛ニ任

用ス。

同月二十二日、農業館開館式ニ招待スベキ人員即チ啟字證牌佩用者、特別功勞ニヨリ金、銀、木杯ヲ受領セル者、紫紐總證牌佩用者、本會評議員及監事、神宮大少宮司、同禰宜、宇治山田町所在各官衙長、同學校長、度會郡内町村長、居住衆議院議員、同上縣會議員、宇治山田町會議員、濱鄉村及四鄉村村會議員、宇治山田町内區長用係、濱鄉村及四鄉村區長等三百二十七名ニ招狀ヲ發ス、其文書左ノ如シ。

拜啓時下益御清穆奉賀候、陳者本會農業館移轉改築、今般落成候ニ付來ル三十日度會郡四鄉村總稱倉田山ニ於テ開館式舉行致候間、御來賁被下度、別紙開館式順序書及觀覽券等相添、此段御案内申上候也

明治三十八年七月二十一日

神苑會會頭男爵 花房 義 賢

何 某殿

追テ徵古館建築ニ至ルマデ元工藝館ヲ移築シ、假徵古館トシテ物品陳列致置候ニ

付適宜御巡覽被下度候也

農業館開館式順序

來賓參着ノ節ハ名刺ヲ受付所へ御差出ノ事

午前十時三十分 來賓式場ニ參列

同 時 本會役員式場ニ參列

同十時四十分 理事開館式舉行ノ報告

次 理事(農業館監督)農業館竣功報告

次 會頭ノ式辭

次 來賓ノ祝辭演說

次 會員總代ノ祝辭

次 理事開館式ノ終ヲ告グ

右終テ茶菓ヲ呈ス

(添附觀覽券略ス)

越テ二十四日、道廳府縣委員總長ニ左ノ通知書ヲ發送ス。

拜終時下益御清稔奉賀候陳者本會農業館移轉改築ノ爲メ客年十月二十日付ヲ以テ右落成迄觀覽謝絶ノ義便宜御通告方御依頼申上其後同年十二月九日付ヲ以テ二見賓日館ヲ廢シ元工藝館移築ノ上ハ當分假徵古館ト稱シ物品陳列ノ筈ニ付是又落成迄觀覽謝絶ノ義申進置候處今般農業館落成致シ開館式終了ノ場合ニテ右假徵古館モ粗落成候ニ付來ル八月三日ヨリ兩館共一般ノ觀覽ニ供シ候間宜敷御承知被下各郡市長諸氏へ便宜御通知被下度此段御依頼旁得貴意候也 敬具

明治三十八年七月二十三日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

廳府縣委員總長 氏 名宛

二十七日、開館式準備整頓シ、猶注意スベキ事件ヲ協議センガ爲メ理事會ヲ開キ左ノ事項ヲ定ム。越テ二十九日花房會頭到ル。

協議題

- 一 開館當日ヨリ翌三十一日マデハ農業館、假徵古館ヲ會員ノ縱覽、八月一日、二日ハ公衆一般ノ縱覽、同三日ヨリ通常觀覽ノ旨、東京日日、大阪毎日、伊勢朝報、參宮新報ニ廣告スル事

- 一 宇治山田町停車場前ヨリ古市ニ至ルマデ要衝ノ地ニ指導札ヲ建設スル事
- 一 避雷針ヲ假徵古館、農業館ニ建設シ、電燈、電話器ヲ兩館及ビ事務所ニ設ケ不寢番ヲ置キ消火器ヲ備置ク等ノ件

右第一項ハ直ニ實行シ、第二項ハ警察署ノ許可ヲ得テ之ヲ五個所ニ建設シ、第三項ハ直ニ實行シ得ベキ者ヨリ漸次實行セリ。

三十日、午前十時三十分倉田山ニ農業館開館式ヲ行フ、參列スル者百七十一名。此日事務所ノ傍ニ二十四坪ノ假屋ヲ設ケテ式場トシ、正面ニ金屏ヲ建テ中央ノ卓上ニハ松、隈笹ヲ挿セル花瓶ヲ据エ、三面ニハ椅子、ベンチヲ備ヘテ來賓ノ席トス、衆皆着席スルヤ滿岡理事、先ツ起ツテ左ノ報告ヲナス。

本日ハ御多忙中、且此ノ炎暑ノ際御參會ヲ忝フシタルハ本會ノ萬謝スル所ナリ、是ヨリ農業館開館ノ式ヲ舉行セン、就テハ 總裁殿下ノ御台臨ヲ仰ギ御令旨ヲ奉戴仕度會頭始メ一同仰望セルモ、各位御承知ノ通、海外御旅行被爲在、御寄港ノ御都合

何分奉伺ノ、餘日モナク今日トナリタルハ遺憾ノ極ミナリ、又假徵古館ハ元農業館ノ附屬館ニシテ、將來徵古館ノ倉庫ニ充テング爲ニ此處ニ移築致シ、本館建築ニ至ルマデ、當分之ニ物品ヲ陳列シ公衆ノ觀覽ニ供スルコトニ客年十二月決定シ、本年二月ヨリ工事ニ着手セリ、農業館建築着手ニ後ル、コト殆ド半年以上ニシテ、其建築略落成ノ場合ニ至リタルモ、館内列品ノ節目排列等未ダ完備スルニ追アラズ、整理ヲ缺クモノ鮮ナカラザルベシト雖モ、這回農業館開館ニ伴ヒ、該館ト同時ニ公衆ノ觀覽ニ供スルニ至レリ、宜シク御諒察ノ上、適宜御觀覽ヲ希望スル所ナリ、右開館式報告ヲ兼ネ一言披陳ス

右終リテ田中理事ヨリ農業館ニ係ル顛末ヲ報告スルユト左ノ如シ。

農業館ハ去ル明治二十四年ノ創設ニシテ、同年五月開館式ヲ舉グ、館ノ大サ百三坪アリ、列品ノ點數ハ僅少ナルニヨリ、爾來物品ノ蒐集ト掛圖ノ編輯ニ力ヲ致シタリ、次デ部門ヲ二十四類ニ分チ、二十五年十二月開苑式アリシ際、余ハ農業館事務ノ報告ヲナセリ、其頃物品ノ數ハ二千二百點、圖書ノ數ハ一千一百點ニ及ブ、二十六年七

月、三重縣廳ヨリ津市公園ニアル工藝館ノ一棟ト陳列品ノ寄贈アリ、之ヲ農業館ノ西方ニ移築シ、附屬ノ工藝館トシテ廊下ヲ以テ農業館ニ接続セシム、其後物品ヲ增加スルニ從ヒ、廊下ニ陳列スルモ尙狹隘ヲ感ジ、廊下ノ北方へ陳列室ヲ増築スルコト數回ニ及ビ、遂ニ兩館ノ間ニ餘地ヲ存セザルニ至レリ、三十三年列品目錄ヲ調成ス、物品ノ點數ハ尙一萬ニ達セズ、三十五年ニ農業館統計表ヲ調成ス、物品ノ點數ハ一萬三千餘トナレリ、三十六年第五回博覽會ニ際シ寄贈及ビ購入ノ物品三千點餘アリ、今約二萬點ニ達スルナラン、昨三十七年七月倉田山ニ移スノ議ヲ決セリ、八月工事ニ着手シ、今年三月農業館移轉改築竣功ス、敷地反別一千三百三十三坪餘、建築面積三百十三坪餘ニシテ、樹形ヲナス、其一方ハ舊農業館ノ移轉増築十一坪増、三方ハ新築ニシテ外觀ノ斬新ナルヲ以テ人目ヲ驚カスニ足リ、且全館ノ建坪ハ従前ニ比シテ凡一割ヲ増セリ、四月以來ハ館内陳列戸棚及棚臺等ノ修繕改補等ヨリ配置、塗換、張替等ニ諸職ノ多數ヲ要シ、本月ニ至レリ、而シテ容器ハ大小各種ヲ一定ノ黒色トナシ陳列ニ從事ス、茲ニ一ノ不慮ノ困難ニ遭遇セシハ、昨年迄勤績セル管守ハ本館移轉ヨリ新館陳列ノ事ヲ擔務シ非常ニ神思ヲ勞シタルノ結果、遂ニ精神錯亂

シ、去年十二月末ニ全ク瘵人トナレルヲ以テ、止ムヲ得ズ他ノ適任者ヲ選舉シ、三月以來其職ニ就カシメ、今ハ大ニ熟練スルニ至レリ、舊館ノ方ハ窓高キモ新館ノ方ハ窓低シ、故ニ陳列戸棚ノ配置モ一様ナルコト能ハズ、頗ル苦慮スル所アルモ尙ホ光線ノ缺乏ヲ致セリ、且又近年物品ノ増加セルト部類ヲ増セルトニヨリテ益陳列上ノ狹隘ヲ感ジ、觀客ノ不滿ヲ招クハ遺憾ノ至リナリ、左レドモ之ガ改良ノ方策ナキニ非レバ、早晚其不備ヲ補フ事ヲ得ベシ、又物品ノ類別ハ從前二十四類ナリシヲ今回ハ増シテ三十八類トセシハ、改竄スベキ點多キニヨレリ、而シテ又館ノ周圍ニハ庭園ヲ設クルニヨリ、其前園ノ如キハ來人ノ便ト裝飾トヲ兼ネ其道ヲ彎月形トナス、其栽ユル草木ハ悉ク舊場ニ在リシ種類ヲ用ヒ、且館ノ前面ヲ遮ラザルヲ務メタリ、内園ニハ圓形ノ栽植地ヲ造リ果樹苗ヲ栽エ、又後園ニハ有用ノ草木ヲ栽エ列品ト對照スルヲ計ルモ、工事ノ澁滞スルト雨天ノ多キ爲メニ假植スルニ止マル、館ノ北方較低キ地ニ苗木園ヲ設ケ、一舍ヲ建テ、庭園用具及ビ館ノ物置ニ充ツ、又舊場ニ在リシ茶室ヲ移シ監督ノ事務ヲ執ル所トナス、而シテ苗木園ニハ各種ノ苗ヲ栽植スレバ、今年秋末ヨリ來春ニ於テ各園地ヘ移植スルコト、ナルベシ、其他庭園ニ

大ナル貯水池二個所ヲ設クルハ非常用ト灌溉用トヲ兼スルモノニシテ、其他灌溉水ヲ貯フル水甕ハ各園内ニ設ク、皆雨水ヲ導キ溜ムルモノタリ、苗木園ニモ中位ノ貯水池アリテ雨水ヲ貯ヘタリ、又後園ニ新設スル井ハ深サ六十尺餘ナレバ、唧筒(二重關節)ヲ備ヘ蓋ヲ設ケ塵芥ノ入ルト危險トヲ禦ギタリ、又之ヲ導キテ内園ヲ通リ玄關ノ脇ニ埋メル甕ヘ水ヲ送り以テ需要ニ供セリ、此地ハ赤土山ヲ開キタル所ニテ雨天ノ際ハ赤泥深ク粘ルモ、晴日ハ忽チ乾固スルニヨリ、植栽地ニハ他ノ良土ヲ搬入ス、又前園間ノ彎月形其他ノ道ニハ砂礫ヲ敷クモ之ヲ踏込ノ虞アルヲ以テ、館ノ左右ヨリ出入スルノ道ト、館ヨリ便所井戸ニ至ルノ道ニハ、人造石ノ碎片ヲ以テ飛石踏石トナス、是ハ舊館附屬館内ニ在リタル服部長七氏寄贈ノ者其他ノ分ヲ切割シテ用ヒタリ、尙苗木園ノ堆積肥料舍モ之ヲ以テ造リ、觀客便所ノ掃除口ノ如キモ亦之ヲ用フ、又館ノ内玄關ニ喫煙席ト飲料水トヲ備ヘ、或ハ守衛ニ制服ヲ給スル等世ノ開明ニ伴フヲ努ムト雖モ尙遺缺アルヲ免レズ、殊ニ避雷針、電燈、電話等モ必要ヲ覺ユ、共通ノ爲メニ設ケタル札賣場、供待所、同便所等ノ設アルニ至レルハ稍具ハレリト云フベシ、今日農業館移轉改築落成、其開館式ヲ舉ゲラル、ニ際シ、來賓諸

君ニ呈スル品ニ農業館案内ナル圖解一枚ヲ添タレバ、精細ナルコトハ右ヲ熟覽シテ了解アラシコトヲ乞フ、曾テ農業館ノ創設セラレタルハ、神苑會設立後六年目ニシテ、今年ハ先キノ農業館設立ヨリ十五年目、合シテ二十年目トナリテ此式日ニ達フ、偶然モ亦妙ナリトス、依テ茲ニ農業館ノ起源ヲ温ネテ一言セント欲ス、去ル明治二十一年三月印刷セラレタル神苑計畫案ノ内、歴史博物館陳列要目第三室ノ第一區ハ農業、農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類トアリ、同十二月印刷ノ神苑會開設主意書ノ中、歴史博物館ノ乙區事物ニ付テ各時代ノ沿革ヲ示ス部ニ、前同様ノ類別アリ、又二十三年九月議定豫算ノ中ニ勸農館費見込金八千圓ノ目アリ、又同十二月ニ至リ農林館開設ヲ要スルノ件ヲ議決セリ、其主意書ノ中ニ本會徵古館中先第一着ニ農林館ヲ設立シ、普ク海内新古百般ノ農林具ヲ蒐集陳列シ、傍ラ標本及農林書ヲ收藏シテ農林家ノ觀覽ニ資シ、尙種苗交換所ヲ置キ、四方ヨリ集合スル參宮者ニ多少ノ種苗ヲ携來交換シテ蕃殖ノ途ヲ講ゼン事ヲ獎勵シ、又漸ク以テ海外諸國ノ農林具及農林書ヲ購入臚列シテ以テ參考ニ供セン云々、下略此旨趣ニ依レバ農業上ノ歴史ヲ主トスルニ非ズシテ前途勸農館ノ精神トナルガ如シ、二十三年冬、前ノ會頭吉井伯

俯ヨリ余ニ頼談アリ、次デ花房副會頭、太田幹事ト會合シ、余ハ設立ニ關スル意見ヲ述ベ、又設計ノ方針ヲ定ム、翌二十四年一月初伊勢ニ出張シ、花房副會頭ト會シ館地ヲ選定ス、二月農林館ノ名ヲ罷メ農業館トシ水産ヲモ合スル事トシタリ、是レ初ノ設計ニヨレルナリ、四月末ニ又出張シテ開館ノ準備ヲ爲シ、五月八日開館式ヲ舉グ、而シテ農業館ノ旨趣ヲ記シタル扁額ヲ掲グ、今尙存在ス、其文ニ曰ク本會ニ於テ徵古館ヲ設置シ、云々、抑本邦ノ國ヲ立ツル農ヲ以テ本トシ、云々、依テ茲ニ先ヅ農業館ヲ設立シ、云々、本邦殖産興業上ニ大ナル裨益ヲ與ヘ益 皇祖大神ノ恩澤ヲ尊崇セシメン事ヲ期ストアリ、其初ハ歴史博物館中ノ一部トアリテ、所謂子日ノ鋤、玉筍ノ如キ古代ノ農具ヲ陳列シ、事物ニ就テ各時代ノ沿革ヲ示スノ意ナリシガ、次第ニ變遷シテ殖産興業ノ精神トナレリ、故ニ開館式ニ際シ 總裁殿下ヨリ賜ハリシ式辭中ニモ、農業館ヲ建ツルハ國產ノ豐饒ヲ企圖スルニ在リトアリ、是レ今日迄奉戴スル精神ニシテ目下ノ現況ナレバ、創業當時ノ考案トハ漸次變換セリト云フベシ、方今各地ニ物産陳列場、博物館等ノ設アリテ、其主意同ジキモノ若干アリト雖モ、本館ニ比スレバ皆遜色アリトスルハ、過去十五年間一定ノ方針ヲ以テ進ムニ依レリト

云フベシ、聊頭末ヲ述ベ來賓ノ清聴ヲ煩ハスト云爾

次デ會頭左ノ式辭ヲ朗讀ス。

式 辭

農業館創設以還茲ニ十有五年、爾來遐邇列品ノ蒐集、殖産興業ノ資料、年ニ益々多ヲ加ヘ、漸ク將ニ完備ノ域ニ達セントス、是ヲ以テ夙ニ本館ノ擴張ヲ謀リ、舊館ノ移築新館ノ増設ヲ企畫シ、幸ニ今其竣功ヲ告ゲ、茲ニ大方ノ紳士各地會員ノ諸君ト俱ニ開館ノ典ヲ舉行スルヲ得タルハ、洵ニ欣喜ノ至ニ勝ヘザルナリ、然レドモ本會主眼タル徵古館ノ建設、未ダ其功ヲ奏スルニ至ラズ

總裁殿下ノ趣旨ニ奉對シ、恐惶措ク能ハズ、不敏義質乏キヲ會頭ニ承ク、冀クハ會同ノ諸君及各地有志諸氏ノ翼贊ヲ得テ、區々タルノ微衷、必ズ有終ノ美ヲ修メ、萬古尊嚴ノ靈地ニ背カザルノ事業ヲ完成シ、又諸君ト俱ニ徵古館ノ式ヲ舉行スルノ光榮ヲ負荷スルニ汲焉タリ、農業館開館ニ方リ、聊カ所感ヲ述ベ本日ノ式辭トス

明治三十八年七月三十日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

次ニ來賓有松三重縣知事演說大要

田中農業館監督ノ御報告中、農業館建設ハ十五年前ニシテ、其當時ハ農業ノ器具殖産ノ得喪等、凡經歷ノ參考ニ供スルノ傾キアリシモ、爾來修良ヲ加ヘ、農業獎勵ヲ以テ主要トセラル、ニ至リテハ、兩宮宮域ノ下ニ於テ至極適切ナル施設ニシテ、農民ノ資テ以テ裨益スル所鮮少ナラザルベシ、我三重縣農民ニ代テ厚ク陳謝スル所ナリ、又徵古館モ追々完備セラル、ニ至レバ、兩館相待テ長ク世益ヲ弘ムル必ズ其多大ナルヲ信ズ云々

次ニ桑原少宮司演說大要

余ハ大宮司ノ命ニヨリ神宮部内ヲ代表シ祝辭ヲ述ベシ
神苑會ハ 兩宮造苑ヲ始トシテ 宮域ノ規模ヲ恢弘セラレ、更ニ又農業館ヲ改築シ同館開館ノ式ヲ舉行セラル、豈祝セザルベケンヤ、抑農業ノ開始遠ク神代ニアリ、特ニ 天祖ノ聖慮ニ基ク、本館ノ開設ハ、寔ニ 天祖ノ神德ニ副ヒ、民彝ノ深ク仰敬スル所ナリ、而シテ當會ハ徵古館ヲ設ケ、皇國國體ノ尊嚴ヲ事物ニ就キ顯章セラレントス、緣由深厚ナル神聖ノ地ニ於テ一層光輝アリト謂フベシ、是等ノ事業ハ若シ神苑會微リセバ、神宮司應ニ於テ施設スル所ナカルベカラザルノ概アリ云々

次ニ會員總代村井恆藏左ノ祝辭ヲ朗讀ス。

祝辭

本會農業館移轉工事落成ヲ告グ、併セテ徵古館品類ノ陳列所ヲ假設セラレ、伏テ惟
 ミルニ倉田山ノ地 兩宮ノ央ニ位シ、元隆朗曠兼ルニ佳曠ヲ以テス、蓋形勝ノ區也、
 本會夙ニ此地ヲ擇ビ徵古館建營ノ用地トナスモノ茲ニ年アリ、其域廣潤能ク附屬
 館舎ヲ置クニ適シ、以テ風趣ヲ興スベク、以テ保管ヲ完ウスベシ、農業館移轉ノ要亦
 茲ニ存セルヲ知ル、今ヤ現狀ヲ熟視スルニ、構造宜キヲ制シ品彙秩然、陳列頗ル整フ、
 蓋全體ニ於テ大ニ舊模ニ優レリト謂フベシ、乃チ會頭閣下并ニ理事諸君ノ勞ヲ多
 トセズンバアラザルナリ、若夫徵古館ヲ大成シ以テ本會有終ノ績ヲ完了スルハ、當
 局諸君ト共ニ生等會員ノ益努力ヲ期セントスル所ナリ、謹デ本日ノ開館ヲ祝ス

明治三十八年七月三十日

神苑會會員總代 村井 恆藏

右了リテ滿岡理事式ノ終ヲ告グ、時ニ午後零時五分ナリ、此時來賓
 及參列員一同ニ菓子一箱ヲ呈シ、菓子ハ明治二十五年開苑式當時
 ノ意匠ヲ襲用セル押物製八菱形鏡面一個ニシテ其容器ニハ山田

市ノ特産鮑目模様ノ春慶塗漆器ヲ用フ添ルニ鮓一折、農業館案内
 及寫眞版繪葉書各一葉、風呂敷一枚ヲ以テシ、撤下御物拜觀券翌日
 ニ跨リ使用シ得ベキモノヲ頒ツ。

三十一日、開館式既ニ畢リシヲ以テ、花房會頭ハ農業館、假徵古館ヲ
 巡視シ、田中、滿岡兩理事ト會務商議ノ後、歸京ノ途ニ就ク、隨員有住
 教忠、病ヲ得テ從行スルコト能ハズ、乃チ書記箕曲茂七ヲシテ會頭
 ニ隨從シテ名古屋ニ至ラシム。

八月一日、農業館移轉ニ關シ百方盡力セシ田中理事ニ金參百圓ヲ、
 同館建築且移轉ニ關シ拮据執掌セシ滿岡理事ニ金參拾圓ヲ賞與
 ス。其他書記以下、管守、守衛、備事務員等ニ賞ヲ行フコト各差アリ。
 八日、田中芳男ヨリ金百圓ヲ開館式費中ニ寄贈セルヲ以テ、其特志
 ニ對シ左ノ謝狀ヲ呈ス。

神苑會理事兼農業館監督トシテ多年農業館ノ建築及館内陳列ノ整理能其功ヲ奏シ、今又農業館移轉費及開館式費ノ内へ金百圓ヲ寄贈相成候段、洵ニ惻誠神妙ノ至リニ候、因テ 總裁宮殿下ニ言上シ、茲ニ謝辭ヲ呈ス

明治三十八年八月

神苑會頭男爵 花房 義 質

從三位勳二等 田 中 芳 男殿

開館式當日ヨリ四日間、徵農兩館ノ觀覽人左ノ如シ。

三十日	假徵古館	百八人	農業館	百八人
三十一日	同	三十五人	同	二十五人
八月一日	同	一千八百八十五人	同	二千人
同 二日	同	二千六百八十三人	同	二千七百四十一人

三重縣廳ノ報告ニヨリ、八月四日發行官報第六千六百二十九號ニ掲載セル開館式ノ記事左ノ如シ。

農業館移轉改築神苑會ニ於テハ、去ル明治二十四年五月 外宮神苑前ニ建設セル農業館ヲ、今般度會郡濱鄉村神田久志本ノ倉田山宇治山田町近接ニ移轉改築ノ舉

アリ、昨三十七年八月起工シ今年三月竣功シ、爾來物品ノ陳列ヲナシ了リ、七月三十日開館式ヲ行フ、館ハ木造瓦葺平家ニシテ枳形ヲナシ、建坪三百十三坪餘アリ、三十日午後、三十一日ノ兩日ハ會員縱覽、八月一日、二日ハ公衆縱覽、三日ヨリ從前ノ通り引繼キ開館スルコト、ナシ、列品分類ハ從前二十四類ナリシヲ改訂増補シテ三十八類トナス、別ニ工藝部アリ、十六類ニ分ツ、農業館列品數凡二萬點ナリ、又徵古館開館マデ同館ノ倉庫ヲ假徵古館トナシ、徵古品展覽所トシ、是亦農業館同様開館スルコト、ナレリ

九月二十三日、徵古館、農業館ノ管守、守衛ノ服制ヲ定メ、客月以來之ヲ實行ス、今其保存期限ヲ規スルコト左ノ如シ。

徵古館

管 守

一帽 帽章共 滿二個年

守 衛

一帽 帽章共

一夏服 上下一着

一冬服 上下一着

右各 滿二個年

一半靴 一足 滿二個年

但次期ヨリ上靴ヲ支給ス

農業館

管 守

一帽 帽章共 滿二個年

守 衛

一帽 帽章共

一夏服 上下一着

一冬服 上下一着

右各 滿二個年

一半靴 一足 滿二個年

一前各項ノ期限ヲ勤続シタルモノハ渾テ之ヲ給與ス、若シ期限内ニ於テ退職シタル者ハ渾テ之ヲ返納スベシ

但給與シタル被服ニシテ退職後着用セントスルモノハ其制法ヲ改ムベシ

一前各項ノ物品ハ都合ニ依リ定價ヲ以テ支給スルコトアルベシ

一前各項ニ定メタル期限内ニ於テ破損或ハ紛失シタル時ハ本人自辨タルベシ

一夏服冬服支給期日左ノ如シ

夏服 六月一日ヨリ九月三十日迄

冬服 十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄

十月十二日、山縣内務次官、水野神社局長、外隨行員并ニ桑原神宮少宮司、相率キテ農業館假徴古館ヲ觀覽シ、事務所ニ小憩中、滿岡、太田兩理事ヨリ詳述セル本會事業ノ顛末ヲ聽取シ、次デ徴古館敷地ヲ一覽セリ。

同月十六日、三十七八年戰役ニ殊功ヲ奏セシ日進艦艦長海軍大佐

竹内平太郎ヨリ戦捷紀念トシテ樺太産ト、マツ〔彼地征討中獲得シテ鉢植トナセシモノ〕寄贈ヲ受ケ、直ナニ事務所内ノ庭園ニ栽植ス、當時添附ノ書簡左ノ如シ。

拜啓

今回ノ戦役モ天佑ニヨリ連勝ヲ得候段御同慶ニ奉存候、茲ニ持參爲致候植物ハ新領土樺太九春古丹森林中ヨリ、紀念トシテ引拔キ參リ候モノニ付敬神ノ意ヲ表スル爲メ御苑ニ寄進致候間、御受納被成下、御苑内ノ一隅へ御移植被下候ハ、本艦一統大悦可仕候、實ハ小官參宮可致心組ニテ罷在リシモ、公務ノ都合上其意ヲ果シ能ハザルニ付、乍略儀從僕ヲ差出シ候次第ニ御座候、不取敢右申上度勿々 敬具
明治三十八年十月十六日
日進艦艦長 竹内平太郎

神苑會事務所御中

十月二十一日、理事、監事等事務所ニ相會シ、神苑沿革地圖編成ノ件ヲ協議ス。

是ヨリ先キ本月十九日、宮内省告示第七號ヲ以テ平和克復ノ爲、今上陛下 神宮御參拜アラセラルベキ旨ヲ發布セラル。本會理事太田小三郎、謂ヘラク本會造苑ノ蹟ハ嘗テ竊ニ奏覽ノ機ヲ待ツ所ナリ、料ヲザリキ鸞輅親臨ノ日アラントハ、願フニ苑地ノ現状ハ實蹟既ニ著ハル、今又單ニ之ヲ説クヲ要セズ、然レドモ其開苑以前ニ遡リ舊時ノ状態ヲ描スニ非レバ、古今變易ノ迹、得テ判知シ難シ、宜ク近古ノ沿革ヲ覈査シ、圖説ヲ編製シテ之ヲ 行宮ニ獻納スベシ、若幸ニ 叡覽ヲ忝フスルヲ得バ榮光何ゾ加ヘン、今ヨリ速ニ委員ヲ置キ托スルニ之ガ編製ノ任ヲ以テセント、此日遽カニ理事、監事ノ協議會ヲ開ク。時ニ會員藤井清司、吉川清三郎相共ニ資料ヲ蒐集シ古圖ヲ編製ス、其沿革圖説採ルニ足ルベキモノハ納メテ本會ノ用ニ供センユトヲ請ヘリ、乃チ藤井清司ヲ議席ニ參加シ旨ヲ授ケ

テ其稿ヲ修正スル所アラシム、次デ二十二日及二十九日理事、監事ノ協議會ヲ開キ、委員藤井ヲ加ヘテ沿革誌ニ關スル件ヲ協議ス、理事滿岡勇之助閱ヲ了シ原稿成ルヲ告グ、題シテ神苑圖誌ト曰フ、全編ヲ七圖ニ分テ每圖解説ヲ附ス、其 兩宮ニ係ルモノ各三圖、第二、第二ヲ開苑前トシ、第三ヲ現狀トシ、特ニ神都實測圖一葉ヲ加フルモノナリ。

右淨寫了ルヲ待テ折本製トナシ、會テ印行スル所ノ倉田山全圖、徵古館計畫圖、農業館圖等ヲ添附シテ獻上セシムトナ評決ス。十一月三日、頃來協議ノ件ヲ齎シ會頭ニ稟議センガ爲、滿岡專務理事此日東上ス、時ニ副會頭既ニ在京スルヲ以テ小松原評議員等ト會合シ、凡テ用件ノ協定ヲ遂ゲ六日歸任ス。此後 行幸奉迎ノ準備ニ關シテ理事會ヲ開クモノ數次、而シテ圖誌ノ製本ニ會員吉川清

三郎ヲシテ擔當セシム。

十三日、神苑圖誌三部調成ヲ告グ、理事、監事等相會シテ之ヲ點檢シ、其獻上ニ關スル順序ヲ協定ス、圖誌製本ノ狀左ノ如シ。

- 一 折本製 縦一尺七寸 横一尺二寸
- 一 表裝 金襴
- 一 見返シ 金砂子
- 一 四方小口 總金

右製本一部ヲ白羽二重ノ帛紗ニ包ミ桐箱ニ納メ、白木造ノ臺ニ載セテ獻上スベキモノトス、此日皆之ガ調理ヲ了セリ

十四日、行幸御先發清浦内務大臣參着ス、太田理事其旅館ヲ訪ヒ、會務成績書、徵古館計畫書、本會條款、農業館圖等ヲ呈ス。十五日、清浦内務大臣ハ水野神社局長、大道祕書官等ヲ隨ヘ倉田山ヲ實視セラル、其小憩中閱覽ニ供スルニ神苑圖誌、倉田山全圖等ヲ

以テス、同大臣詳カニ圖誌ノ解説ヲ閱讀シ深ク本會ノ事業ヲ賞贊セララル。

此日午後四時四十五分、恭シク行幸ノ盛儀ヲ拜シ。田中、滿岡兩理事ハ山田驛構内ニ、太田理事ハ會員ト共ニ構外沿道ニ於テ奉迎ス、鹵簿肅々、車駕直ナニ行在所(神宮司廳)ニ向ハセ給フ。

此夜、田中、滿岡ノ兩理事ハ田中宮内大臣ヲ旅館ニ訪ヒ、獻品ノ事ニ關シテ請フ所アリ、且呈スルニ本會會務成績書、本會條款、徵古館計畫圖、農業館圖ヲ以テス、同大臣大ニ本會ノ事業ヲ稱揚セララル。

十六日、神苑圖誌ヲ行宮ニ獻シ奉ル、其奉獻ニ方リ、理事田中、滿岡ノ兩名、宮内大臣ノ旅館ニ至リ、添書ヲ受ケ、滿岡理事之ヲ携ヘテ行在所ニ候シ、栗原書記官ニ就キ、執奏方ヲ請願ス、同書記官之ヲ受領シ、本日、外宮御參拜前、天覽ヲ仰グベキ旨ヲ口達セララル。嗚呼本

會ノ素志遂ニ空シカラズ、丹誠ノ績九重ニ入ル、職員等深ク感喜ニ堪ザルナリ。此日、田中理事ハ、伏見宮殿下御泊所ニ伺候シ、御機嫌ヲ伺ヒ奉ル。

午後二時、伏見宮殿下倉田山ニ台臨アラセラル、本會神苑圖誌(本日獻上セシモノト)同製式倉田山全圖等ヲ台覽ニ供ヘ、了リテ田中理事ノ先導ニ農業館、假徵古館台覽ノ榮ヲ辱フス。田中宮内大臣、長崎調度局長モ同時刻ニ來臨シ、殿下ニ陪シテ巡覽ヲ遂ゲラル、次デ澤侍從モ亦農業館、假徵古館及徵古館敷地等ヲ視察セララル。

此日、田中、滿岡ノ兩理事、桂總理大臣ノ旅館ニ至リ、内相、宮相ニ呈セシモノト同一ノ書類ヲ呈シ、本會ノ事業ヲ略陳ス。同大臣亦倉田山ノ實況一見ヲ約セララル。

十七日、桂首相來臨ノ旨、中島祕書官ヨリ通知ニ接シ、滿岡理事之ヲ

旅館ニ迎フ、首相直ナニ事務所ニ臨ミ、神苑圖誌其他圖書ヲ閲覽シ、又田中理事ノ先導ニ農業館ヲ一覽ス、因テ賞揚シテ曰ク、列品ノ整頓他ニ其比ヲ見ズ、以テ當局者多年ノ心勞ヲ想察スベシ、凡創業以來趣旨最モ適シ、成績頗ル著ハル、殊ニ完成ノ後之ヲ 神宮ニ獻ズルガ如キハ、其志操ノ純潔又他ニ類例ナキ所ナリト、深ク嘆美セラ

次デ大浦遞信大臣ハ山之内鐵道局長、平井作業局長及同省技師ヲ率キテ來臨シ、其巡覽スル所渾テ相同シ、而シテ談神都舊跡ノ事ニ及ベルヲ以テ本會特ニ神都名勝誌一部ヲ呈セリ。此日、滿岡理事ハ山縣元帥ノ旅館ニ候シ、徵古館計畫圖等ヲ呈ス、適京都府知事其他賓客輻輳ノ爲、面語ヲ得ズ、而シテ同元帥ハ御用ノ都合ニヨリ還幸ニ先ツユト一日、京都ニ向ヒ出發セラレ、遂ニ本會

ヲ實視セララル、ニ至ラザリキ。

十八日、還幸仰出サレ、午前八時二十分、車駕行在所御發、山田驛ニ向ハセラル。田中、滿岡兩理事ハ參宮鐵道山田驛、ブラツトホームニ奉送シ、太田理事ハ會員ト共ニ 外宮神苑前ニ奉送ス。

十九日、理事會ヲ開キ、行幸ニ關スル費途支出ノ件ヲ協議シ、併セテ凱旋軍人(正服着用)ノ假徵古館、農業館等無料觀覽ヲ決議シ、之ヲ伊勢朝報、參宮新報ニ掲載廣告ス。

二十日、田中理事、神宮祭主 賀陽宮殿下ノ官舎ニ伺候シ、農業館改築竣成ノユトナ言上ス。

今上陛下既ニ還幸アラセ給ヒ、次デ 皇太子殿下將ニ行啓アラセ給ハントス。二十四日理事會ヲ開キ、行啓ニ關スル件及寄附行爲ニ關スル件等ヲ協議ス。

二十五日、賀陽祭主宮殿下、本會事務所ニ台臨、神苑圖誌、倉田山全圖、台覽ノ後、田中理事ノ先導ニ農業館、假徴古館、徴古館敷地等ヲ台覽アラセラル。翌日、田中理事、官舎ニ伺候シ、台臨ノ榮ヲ謝シ奉ル。皇太子殿下、二十六日午後四時四十分ヲ以テ山田驛ニ着御アラセラル。田中、滿岡兩理事ハ驛内「プラツトホーム」ニ、太田理事、宇仁田監事及會員等ハ、外宮苑地ノ前ニ於テ恭ク、鶴駕ヲ迎ヘ奉ル。滿岡、田中兩理事ハ、東宮殿下ニ奉獻ノ爲、神苑圖誌、倉田山全圖及徴古館計畫圖、農業館圖等ヲ携ヘテ、侍從職幹事長岩倉公爵ノ旅館ニ至リ之ガ執奏ヲ請ヒ、同公爵ニ呈スルニ本會條款、會務成績、徴古館計畫圖ヲ以テシ、轉ジテ侍從長木戸侯爵ノ旅館ニ至リ、同前ノ書類ヲ呈シ、獻品ノ執奏ヲ請ヘリ。二十七日、滿岡、田中ノ兩理事、東宮殿下御泊所ニ參候シ、岩倉侍從

職幹事長ニ面シテ、倉田山事業ノ實況ヲ陳具スル所アリ、此時、獻品上納濟ノ旨ヲ口達セラル。

二十八日、侍從職幹事長岩倉公爵、事務所ニ臨ミ、神苑圖誌、倉田山全圖等ヲ閱覽セラル。理事田中、太田、滿岡等ノ交々説明スル所ヲ聞キ、大ニ事蹟ヲ賞贊シ、田中理事ノ先導ニ農業館、假徴古館及徴古館敷地等ヲ巡覽セラル。

二十九日、東宮殿下還啓仰出カレ、午前九時五十分御泊所(神宮司廳御出門、山田驛ニ向ハセラル。田中、滿岡兩理事ハ山田驛構内ニ、太田理事及會員等ハ、外宮苑地前ニ於テ奉送ヲ了ス。

本會評議員正二位勳四等伯爵冷泉爲紀(神宮大宮司)還啓ヲ奏送シ、途次轉墜シテ起タズ、數日ヲ經テ薨ズ、本會例規ニ依リ弔詞ヲ呈シ、玉串料ヲ贈ル。

十二月十二日、理事協議會ヲ開キ、三十九年度豫算ヲ審案シ、併セテ緊急ノ會務ヲ協議ス。

十六日、事務所敷地ニ接セル服部豊吉所有山林購入ノ必要アリ、其反別三畝十四歩ヲ買收ス、其代金六拾七圓六拾錢。

凡ソ本會職員并ニ有功者等死亡ニ際シ、玉串料贈附ノ件ハ、嘗テ内規ヲ存セリト雖モ、法人組織前ニ屬セルヲ以テ、本月二十七日更ニ内規ヲ定ム。

弔詞玉串料贈附内規

- 第一條 本會評議員、理事、監事又ハ有功者、金銀、木杯、啟字及有功證牌ヲ贈附シタルモノ死亡ノ報知ニ接シ若クハ其事ヲ知リタルトキハ左ノ書式ニ依リ直チニ弔詞ヲ贈附スベシ
- (一) 應府縣正副委員總長、委員長、委員以下特別功勞者ニハ本行ヲ適用スルコトアルベシ

(二) 本會會員死亡ノ節、其遺族又ハ親族ヨリ届書ヲ差出シタルトキハ、本行ニ準ジ直ニ弔詞ヲ贈附スベシ

(三) 同上弔詞ノ書式

本會何々位勳爵姓名君ノ凶訃ニ接シ洵ニ哀悼ニ堪ヘズ、茲ニ弔詞ヲ呈ス
年號月日 神苑會會頭位勳爵 姓 名

位勳爵 姓 名殿

第二條 本會評議員、理事、監事又ハ有功者(同上)ノ父母妻死亡ノ報知若クハ知リタルトキハ、左ノ書式ニ依リ弔詞ヲ贈附スベシ
一同上弔詞ノ書式

尊大人、尊慈堂、令夫人ノ凶訃ニ接シ哀悼ニ堪ヘズ、茲ニ弔詞ヲ呈ス

年號月日

神苑會會頭位勳爵 姓

名

位勳爵 姓 名殿

第三條 本會ニ顯著ナル功勞者ニシテ、書式内ニ其功績ヲ記入セントスルトキハ、其都度職務權限第三條ニ準據スベシ

第四條 宛名ハ本人死亡ノトキ其嗣子トス、嗣子ナキトキ、又ハ名知レズシテ其妻ノ名知レタルトキハ其妻トス

第五條 玉串料若クハ香料ハ左ノ定額ニ據リ直ニ會計ノ規程ヲ經テ弔詞ニ添ヘテ贈附スベシ

一、評議員、理事、監事

二、廳府縣正副委員總長、特別功勞者

金參圓

三、評議員、理事、監事ノ父母及妻

金貳圓

四、金銀盃、旂字及有功證牌ヲ贈附シタル者

金貳圓

五、同上父母及妻

金壹圓

六、廳府縣委員長、委員以下特別功勞者

七、木杯ヲ贈附シタル者

金壹圓

第六條 本會ニ顯著ナル功勞者ニシテ定額以外ヲ贈附セントスルトキハ其都度職務權限第三條ニ準據スベシ

十二月、農業館監督田中理事ハ、同館移轉式以後ニ於ル館内及庭園ノ新設備ニ關シ、左ノ記録ヲ作りテ將來ノ參考ニ資セリ。

記録

本年農業館開館式後ニ於テ、同館内及庭園ニ新設備ヲ爲シタルモノアルニヨリ、之ガ理由ヲ左ニ記録トシテ將來ノ參考ニ供ス

一、館内陳列ノ木竹草ト對照シテ觀覽者ノ參考ニ資スル爲メ、本館前園、後園或ハ内

園ニ栽培セル木竹草類ハ、其期節ニハ適當ナル肥料ヲ供給セザル可ラザルガ故

ニ、此等ノ肥料ヲ製造貯蓄スルノ急務ナルヲ察シ、茲ニ舊農業館附屬ニ敷設シア

リタル服部長七氏寄贈ノ人造石及各所ニ散在セル殘材ヲ集メテ、農業館北方苗

木園物置ノ西方ニ方一間深サ三尺餘ノ堆積肥料舎ヲ築造スル事トシ、庭園師中

村友吉ヲシテ此工事ヲ爲サシメ、七月二十九日略竣功ヲ看ルニ臻レリ、其後辻喜代藏君ノ注意ニヨリ、藁稈類ニ石灰ヲ混ジ同肥料含ニ蓄積シ、急速醱酵作用ヲ施シタルヲ以テ、今ヤ良好ナル堆肥トシテ、今期ノ肥料ニ使用スル事ヲ得タルノ後ハ、尙刈草ニ石灰ヲ加ヘ蓄積シ置キ、他日ノ用途ニ供スル見込ナリ

一 竹材ハ極メテ必要ノ品ナルニ拘ハラズ、神苑會所有地内ニハ竹林ナキニヨリ、過般孟宗竹ヲ移植シタレドモ未ダ成功ノ域ニ達セズ、又眞竹ノ如キモ農業館西方ノ松林中ニ僅カニ之アリシモ、年來放擲シテ他人ノ採取ニ任ジタルヲ以テ、所々ニ細幹矮小ナルモノ、散在スルノミ、需用ニ供シ得ルモノトテハ毫モ之ナカリシニ依リ、茲ニ竹林ヲ造設スルノ計畫ヲ起シ、農業館背後松林ノ北方ナル畑地ハ過般良土ヲ掘リ取リシ跡ナルモ、目下明キ地トナレルヲ以テ、是ヲ開墾シ、八間四方即六十四坪ヲ得テ、眞竹及葉竹ノ鞭根附着セルヲ、近キ服部豊吉ヨリ買取、一坪一株ノ割ヲ以テ栽植セシム、但シ眞竹七分葉竹三分ノ割合ニ植付ヲ了ス、然ルニ從來同松林ハ地方細民ノ來リテ漫リニ雜草ヲ刈採シ、又ハ落葉ヲ掻集スルノ惡習アリテ、竹林蕃殖上妨害ヲ受クルノ虞アルガ故ニ、林中ニ入ルノ要路ヲ閉塞ス

ルヲ得策トシ、農業館南西ノ崖地ニハ荆棘アル樹木ヲ植エ、又西方ノ細路ハ中途ニ崖濠ヲ鑿チ、一間許ノ堤ヲ築造シテ他人ノ亂入ヲ防禦シタルモ、北方ハ其區劃廣キガ爲メ、止ムヲ得ズ舊時ヨリ殘存セル畑境ノ崖ヲ利用シテ之ニ充テ、同ク濠ヲ掘リ崖ヲ峻ニシ、荆棘ヲ植エテ障礙物ト爲シタリ、其全長三十二間餘ニ涉レリ、如斯シテ他人ノ出入ヲ豫防シタレバ竹林ノ繁殖ニ良好ナルノミナラズ、從來疲瘦シテ發達ヲ遂グ得ザリシ眞竹モ、後來良筍ヲ出シ良竹ヲ得ラルベク、又松林ノ保護ニモ必效アルベシ、且松林中ノ荆棘ハ漸次ニ除去シ、又雜草ハ時々刈獲シテ竹林ノ肥料ニ供スルヲ一舉兩得ノ策トス

右ノ如キ保護監督ヲ要スルガ故ニ、農業館後部一體ノ松竹林ノ管理ハ、農業館員ニ於テ擔當スルヲ至當トス、但農業館員ト雖モ木竹材ノ伐採ヲ要スルトキハ、事務所ニ協議シテ後施行スベキモノトス

一 園藝類ニ於テ促成床雛形ハ、藤ニ五味喜八氏ノ寄贈アリテ館内ニ陳列シアルモ、之ヲ以テ充分ナリトスルヲ得ズ、實地ニ設置スルノ必要ヲ感ジ、過般更ニ五味氏ニ詢リテ農業館後園ニ設クルコト、シ、大工ヲ備ヒテ有リ合セノ木材ヲ以テ框

ヲ造ラシメ地ヲ掘リテ框ヲ當テ候メ、地中ニハ溫蒸ヲ起スベキ材料ヲ埋藏シ、上部ニ硝子戸ヲ被ヒ、又其西北方ニハ麥稈製ノ防寒障ヲ繞ラシテ一ノ溫床ヲ形造シ、既ニ内部ニハ茄瓜山椒等ヲ播種シ三葉芹ヲ栽エタリ、右硝子戸及框ヲ除ク外、溫蒸原料、防寒障用麥稈ノ如キ、總テ五味氏自家用ノ品ヲ携來シ、自ラ勞働シテ之ヲ竣功セシメタリ、尙氏ハ時々見巡リテ注意スルニヨリ、遠カラズ其效用ヲ來觀者ニ一見知得セシムルニ至ラン

一從來庭園ノ覆栽植物ハ、結縷草ノ種類即ノシバ、テウセンシバ、チリメンシバ等ヲ栽植シタリ、然レドモ之レ皆夏日ハ綠葉繁茂シテ美觀ヲ呈スルモ、冬日ハ其葉枯色ヲ呈シテ其觀甚ダ佳ナラズ、故ニ常綠草ヲ以テ之ニ替ント欲シタリ、沿階草ノ如キハ、常綠草ニシテ繁茂スレバ甚ダ美ナルモ、本館附近ノ疲瘠地ニ於テハ、繁殖速カナラザルノ憾アリ、然ルニ西洋苜蓿ハ四時枯ル、コトナク強壯ニシテ能ク繁殖スルノミナラズ、其葉ヲ刈リテ肥料ト爲スベク、殊ニ地質ヲ肥ヤスノ效アリテ、禾本草トハ全ク反對トナル、本年造園ニ際シ、苗ヲ得テ栽培シ、漸次平面ニ移植シタルモ、未ダ前園ニ植ウルニ至ラザリシガ、今回電氣鐵道株式會社ノ濱鄉村附

近ノ線路ニ沿ウテ繁茂セルモノ夥多ナルヲ發見シ、同社ニ乞ヒテ之ヲ得、前園一面綠色ヲ以テ飾ルコトヲ得ベシ、而シテ此草ハ沃土ニ於テハ葉莖多少長大ニ失セルノ憾アルモ、本館敷地ノ如キ赤土疲瘠セル地面ニ於テハ、莖葉短縮シテ成長スベク思ハル

一菜果類ハ其儘保存シ難キ物ノミナレバ、從來之ガ陳列ニハ、乾枯セル物及製品藥水浸、或ハ模造物等ヲ以テシタルガ、冬期ニ於テハ生物ノ儘能ク數週間ヲ保ツコトヲ得ルガ故ニ、今回此等ノ生物ヲ隨時陳列スル事トシ、空氣ノ流通ニ適スル戸棚ヲ新造シ、生鮮ナル蔬菜果物ヲ陳列セリ、而シテ順次ニ交換陳列シ、氣候溫暖ニシテ生物ノ保存ニ適セザルニ至リテ止ムベシ、但夏日ト雖モ茄瓜類ノ如キ保存ニ堪フルモノハ、隨時陳列セント欲ス

本館内ニ生物陳列ノ設備ヲ爲シタルハ、今回ヲ以テ嚆矢トス、原ヨリ急速ニ爲シタルコトナレバ未ダ完備セズト雖モ、來觀者ノ注意ヲ惹クコト多シ、本日迄ニ陳列セルモノハ蔬菜三十三點、果物四十二點ナリ

一本館新築ノ當初ヨリ館内ニ室内電話ヲ備へ、館員間之ニ依テ緩急相助ケ、以テ無

用ニ時間ヲ浪費セシメザルノ意向ナリシガ、今回東京市日本橋通三丁目金丸銃砲店ニ於テ發賣スル英國製輕便電話器メタホンノ輕便ニシテ價額低廉且充分交話スル事ヲ得ル良器ナル事ヲ知り、過般之ヲ同店ヨリ購入シテ、本館東方支關脇ノ管守席ヨリ西方守衛席ニ至ル百八十七尺ノ距離ニ之ヲ裝置セリ、之ヲ裝置スルニ當リテ電氣鐵道會社ノ技師ニ依頼シタルニ、即時承諾アリ、十一月五日職工三名ヲ率キテ來リ之ヲ架設セリ、爾來利用シテ其簡便ニ浴セリ、是ガ經費ハ器代及運搬料ヲ併セ總計金貳拾圓餘トス

此電線ハ室内用ニシテ雨露ニ堪ヘザレドモ、若シ此電線ニ被ラシムルニ竹管ヲ以テセバ、遠距離ニ於テモ架設スル事ヲ得ベシ、他日事務所及農業館(三百尺)農業館及茶室(百九十六尺)間ノ連絡ヲ謀ル必要アラバ、此方法ヲ用ヒテ可ナリ、聊カ愚考ヲ記シテ他日ノ參考トス

以上

明治三十八年十二月十八日

農業館監督 田中芳男

滿岡理事ハ、明治十九年六月本會創立以降、同三十八年八月ニ至ル

二十年間ノ會務成績ヲ概括シ、以テ會員ノ參照ニ供スルコト左ノ如シ。

自明治十九年六月神苑會會務成績

至同三十八年八月

本會ノ創立ハ明治十九年六月ニ在リテ、宮城附近ノ民家ヲ撤去シ、鹿野蕪穢ノ陋態ヲ一掃スルヤ、神德ノ顯揚、國體ノ尊嚴ヲ仰望シ、日夜皇々敢テ逸アルナシ、爾來同三十八年八月ニ至ル迄、經歷ノ久シキ、興業ノ頻繁ナル、人皆之ヲ胸臆ニ温ムル豈夫レ尋常ナランヤ、是ヲ以テ二十年間會務ノ大要ヲ概括シ、首メニ會計收支ノ總額ヲ掲ゲ、次ヲ逐ヒテ事業ノ成績及資金ノ集散ヲ表出スルコト凡ソ左ノ如シ

收入總高 三五四、二一八、九一五

種目	金額
御下賜金	一五、五〇〇、〇〇〇
宮方御寄附金	二六〇、〇〇〇
寄附金	一六九、五三一、一九九
岡田林其他所有山、資日館、農業館收入	七七〇、四〇六、六

第八編 法人第一期 明治三十八年

資 財 收 益

二七、三八三、四八八

事 務 所 雜 入

一、九〇〇、一六二

神 宮 司 應 補 助 金

一、二九六、〇〇〇

支出總高 三二八、二一四、一六一

内宮神苑地

本會創立以前、宇治山田町首唱者太田小三郎外數十名、兩宮宮域ノ現状ヲ慨シ、家政ヲ忘レ私財ヲ抛テ鞠躬力ヲ盡シ、町村ノ有志者翁然相呼應シテ其規畫既ニ定マリ、直ニ縣廳ノ承認ヲ經テ、明治十九年六月本會ヲ組織スルニ至レリ、其後數年ヲ出ズ、本縣内各戸ノ寄附金殆ド參萬參千圓餘、皇室ノ御下賜金壹萬五千五百圓、神宮司應ノ補助金參萬圓其他各地方ノ寄附金壹萬六千六百圓以上ニ及ビ、兩宮造苑ノ效ヲ完成セシハ、二十四年四月ニ在リ、其要項ヲ左ニ表出ス

土地買收年度	買收坪數	建家立退戸數	建家立退坪數	土地買收建家立退料造苑費維持費其他諸費
内宮 苑地 自明治十九年 至同二十二年	七千五百三十坪	五十六戸	千七百三十七坪	五三、六八〇、三九一
外宮 苑地 自明治十九年 至同二十二年	一萬七百七十坪	百十三戸	二千九百三十坪	六二、五四〇、〇四一

神苑擴張地

曩年、兩宮ノ神苑ヲ竣成シ、神宮ニ奉獻スルノ後、外宮北御門口ニ接近シ二三ノ旅館、大厦高屋ヲ構成シ、塵囂火災ノ虞洵ニ恐懼ニ堪ハザルモノアリ、縣官モ亦其感ヲ同ジクシ、明治三十三年神宮司應ヨリ金四萬圓ヲ本會ニ下附シ、指定スルニ該旅館撤退ノ事ヲ以テセラル、爾來買收ノ交渉ヲ開キ、下附金并ニ本會ノ資金ヲ以テ悉ク之ヲ掃蕩スルヲ得テ、苑地ヲ擴張シ、神宮ニ奉獻スルノ順序ヲ修了ス、其要項左ニ表出セリ

土地買收年度	買收坪數	建家立退戸數	建家立退坪數	土地買收建家立退料造苑費維持費其他諸費
明治三十三年	千八百一坪	十四戸	千八百四十一坪	五四、八五九、一一九

拜觀所建築

明治三十六年、大阪ニ於テ第五回内國勸業博覽會開設ノ際、近府縣廳ハ各協贊會ヲ組織シ、旅客歡待ノ手段ヲ盡セリ、本縣協贊會ハ本會ト俱ニ撤下御物陳列所ヲ建築シ、以テ旅客拜觀ノ榮ヲ賜フコトヲ得バ、異數ノ特典ニシテ縣内ノ厚遇之ニ若クハナシトシ、協商ノ結果之ヲ神宮司應ニ出願シ、司應ハ速ニ其申請ヲ容レ、自ラ其工ヲ

督勵シ豫期ノ竣功ヲ告グ今ヤ高宇巍然トシテ倉田山最高點ニ兀立セリ

土地買收年度	買收坪數	建築坪數	建築費造苑費土地買收費其他諸費
明治三十六年	三百六十三坪	九十坪一合八勺	五、四九五 ^四 五八〇

内宮宮域ニ接スル買收地

内宮宮域ニ接續スル民有山林ニシテ、犬牙交錯大ニ體面ヲ損スルノ感アリ、故ニ本會之ヲ買收シテ以テ、神宮ニ奉獻ノ劃策ヲ定ム、將來地域ヲシテ非然章明ナラシメノコトヲ期スルニ在リ

土地買收年度	買收反別	價
明治三十五年	二反三畝九步	五一九 ^四 九四〇

徵古館敷地并ニ地均工事

徵古館本館ハ、創業以來、本會最大ノ主眼トシテ敷地ノ土功、建築ノ設計既ニ其終了ヲ觀ルト雖モ、巨額ノ費金ヲ要シ目下ノ經濟許ササルヲ以テ、明治三十六年十二月、本館建築ノ繼續豫算ヲ調成シ、評議員ノ決定ヲ經テ、其計畫既ニ定マリ事業漸ク條

緒ニ就クニ方リ、日露開戦ノ時局ニ遭遇シ、暫ク之ヲ後着ニ附シ、本館倉庫ヲ以テ徵古品ヲ陳列スルノ已ム可ラザルモノアリ、右建築工費ハ後ニ之ヲ表出ス

土地買收年度	反別	價	格
自明治三十三年至同三十六年	八町九反四畝二十五步	七、六四二 ^四 四二五	
徵古館敷地均工事	地均坪數	價	格
自明治三十八年至同三十六年	三千坪餘	二、〇九二 ^四 五〇〇	

拜觀所道路新設

本會新タニ道路ヲ改修セシハ、曩年買收セシ倉田山ヲ開通シ、撤下御物拜觀所ニ達スルノ緊急ニ起緣スルハ、固ヨリ言ヲ俟タズト雖モ、本會將來ノ計畫ハ、徵古館、農業館其他本會ノ建造物ハ、盡ク之ヲ倉田山ニ移築シ規模ノ恢宏ヲ期スルニ在ルヲ以テ、敢行督勵、今ヤ徵古館ノ敷地及假徵古館農業館ノ建築全ク竣功ヲ告グルニ至レリ

土地買收年度	買收坪數	橋梁新設	道路	土地買上ケ土工費其他諸費
自明治三十五年至同三十六年	五千六百九十一坪	一個所	長九百九十一間一分間	一三、六四三 ^四 五二六

賓日館

本會ハ、二見浦名勝ノ地ヲ選ミ、貴賓及會員休泊ノ便ヲ圖リ一館ヲ建設スルノ宿志アリ、時ニ偶 皇太后陛下 神宮御參拜アラセラレ、還御ノ際此地通御ノ事ヲ傳聞スルヤ、本會員ハ村民ト謀リ銳意本館ノ建築及道路ノ改修ヲ期シ、辛苦經營僅ニ四十餘日ニシテ大厦新タニ成リ、坦道忽チ開ク、既ニシテ明治二十年三月 陛下ノ御駐輿ヲ本館ニ忝フシタルハ、本會及村民ノ光榮又思フベキカナ、其後二十四年七月ノ交 皇太子殿下御避暑トシテ 鶴賀ヲ此館ニ駐メ給フコト三週間爾來 皇族方貴紳ノ休泊間斷ナキニ至レリ、之ヨリ先キ 故有栖川宮熾仁親王殿下ヨリ賓日館ノ御染筆ヲ拜戴ス、樓上眺望ノ爽快ナルハ世人ノ知ル所敢テ茲ニ説明ヲ要セザルベシ、而シテ今ヤ本會經理ノ必要ニ關シ之ヲ村民ニ貸與シ保存ノ方法ヲ定メタリ

建築年度	建築坪數	敷地坪數	土地買上ケ土工費建築費其他雜費
明治二十年	二百四坪	千七百七坪	五、九〇七 ^四 五 ^四 六

農業館

本館ハ明治二十四年ノ創立ニ係リ、古來農祖ト仰ギ奉ル 神宮御鎮座ノ下ニ於テ公衆ノ觀覽ニ供ヘ、苟モ農産農具ニシテ改良發達ヲ促スベキモノハ盡ク茲ニ陳列シ、其品物二萬點以上ニ及ビ各之ガ解説ヲ添附シ、務メテ世益ヲ弘ムルニ在リ、初メ外宮神苑前ニ建築シタリシガ、本會規模ノ擴張ニ伴ヒ、同三十八年七月倉田山ニ移轉改築シ、同月三十日開館式ヲ舉行スルニ至レリ

移轉年度	移轉建築坪數	敷地均移建築費庭園費列品据付費其他諸費
自明治三十七年 至同三十八年	三百十三坪一合	一四、八五〇 ^四 六 ^三 九
舊農業館建築年度	建築坪數	建築立退料敷地買上ケ建築費其他雜費
明治二十四年	二百六十五坪	六、七四三 ^四 九 ^七 〇

豊川町用地

此地ハ 外宮神苑前國道ヲ挾ミ、四圍遠ラスニ土塀ヲ以テス、初メ農業館及事務所建設ノ必要ニ際シ之ヲ買收セシト雖モ、事業ノ伸張ヲ企圖スレバ到底此用地ヲ以

テ充足スル能ハザルヲ以テ、在來ノ農業館及事務所ヲ移轉スルニ至レリ、其處分方法ハ他日ヲ待テ定ムル所ナリ

土地買收年度	買收坪數	建家立退戶數	土地買收建家立退料其他諸費
自明治二十四年至同三十三年	七千六百二十	十六戶	一〇、五六二、五三八

所有山林(字岡田林丸山)

内宮南方ニ連互スル山林ニシテ、風致上最モ關係アリ、若シ民有ニ屬シ一朝荒廢ノ後ハ覆水追フ可ラザルノ憾ミアルヲ以テ、速カニ買收ノ策ヲ講ジ、長ク保存増殖ヲ期セリ、今ヤ保安林ニ編入セラレ、年ニ益新緑鬱蒼ノ觀光ヲ加フルニ至レリ

土地買收年度	買收反別	價格
自明治二十二年至同二十三年	百六十九町七反三畝二十六步	一、九八一、四七〇

以下、前ニ其概要ヲ述ブ、今又附録ヲ要セザルヲ以テ、單ニ各項目ニ就テ之ヲ表出スルコト左ノ如シ

種目 金額

假徵古館移築費 二、五四六、五六三

事務所并土藏移築費 一、三二一、〇〇九

創業以來(假徵古館)諸費 二、二三九、六一六

創業以來(寄附金徵收費) 六〇、九九六、一二八

現在金 二六、四三九、三六六

此歲、農業館移築開館以來十二月末日ニ至ルマデ、觀覽人員一萬九百一十一人ヲ計上シ、列品ノ増加ハ、購入品百七十二個、寄贈品六百四十六個トス。假徵古館ハ開館以來十二月末日ニ至ルマデ、觀覽人員九千三百九十四人ヲ計上セリ。又職員ノ異動ハ、評議員就任一人、解囑一人、地方委員總長以下囑託四十七人、解囑四十七人トス。

神苑會史料

第九編

第九編

法人第二期

明治三十九年一月ヨリ
同四十二年十二月ニ至ル

明治三十九年一月一日、新年拜賀式ヲ行ヒ、大々神樂ヲ 内宮ニ奉奏シ、翌二日之ヲ 外宮ニ奉奏ス。

三日、神宮大宮司從三位子爵三室戸和光ニ本會評議員ヲ囑託ス
四日、日露戰役ニ於ル戰利品ヲ徵古館ニ陳列シ、公衆ノ觀覽ニ供スルヲ得バ、以テ 皇國ノ武德ヲ發揚シ、忠愛ノ士氣ヲ鼓吹スベキヲ思惟シ、之ガ交付ヲ陸海軍大臣ニ出願ス、其願書左ノ如シ。

本會ハ 神宮ノ神德ヲ顯揚シ、國民忠愛ノ精神ヲ發揮スルノ趣旨ヲ以テ創立致爾來 皇室ノ御下賜金及神宮ノ補助金并ニ全國民ノ寄附金ヲ以テ、藝ニ 兩宮宮域ニ接スル人家等ヲ取除キ、蕪穢ヲ掃蕩シテ新タニ神苑開設ノ事業ヲ完成シ、引續キ 歴史徵古館ヲ建設シ、國體ノ尊敬、歷朝ノ沿革ニ緣由アル今古ノ器物圖書等ヲ此館